

こんなときはこのマニュアル 6ページ

目次 7ページ

はじめにお読みください 取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

**警告**

電気製品は安全のための注意事項を守らないと、
火災や人身事故になることがあります。

この説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と本機を使う前の必要な準備について説明しています。この説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

ノートブックコンピューター

PCG-TR3 シリーズ

Microsoft® Windows® XP Professional

Microsoft® Windows® XP Home Edition

搭載モデル



警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品は間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故につながることもあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

9～18ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

故障したら使わない

すぐにVAIOカスタマーリンク修理窓口にて修理をご依頼ください。

万一異常が起きたら

- ・煙が出たら
- ・異常な音、においがしたら
- ・内部に水、異物が入ったら
- ・製品を落としたり、キャビネットを破損したとき



- ① 電源を切る
- ② 電源コードや接続ケーブルを抜き、バッテリーを取りはずす
- ③ VAIOカスタマーリンク修理窓口にて修理を依頼する

データはバックアップをとる

ハードディスク内の記録内容は、バックアップをとって保存してください。ハードディスクにトラブルが生じて、記録内容の修復が不可能になった場合、当社は一切その責任を負いません。

警告表示の意味

この説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。



警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながる可能性があります。



注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



注意 火災 感電

行為を禁止する記号



禁止 分解禁止



水ぬれ禁止 ぬれ手禁止

行為を指示する記号



指示 プラグをコンセントから抜く

電気通信事業法に基づく認定について

本製品は、電気通信事業法に基づく技術基準適合認定を受けています。認証機器名は次のとおりです。

認証機器名:PCG-4A1N/4A2N

電波法に基づく認証について

本機内蔵のワイヤレスLANカード／Bluetoothカードは、電波法に基づく小電力データ通信の無線設備として認証を受けています。従って、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。

- 本機内蔵のワイヤレスLANカード／Bluetoothカードを分解／改造すること
- 本機内蔵のワイヤレスLANカード／Bluetoothカードに貼られている証明ラベルをはがすこと

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

漏洩電流自主規制について

この装置の本体およびディスプレイは、それぞれ社団法人電子情報技術産業協会(旧JEIDA)のパソコン基準(PC-11-1988)に適合しております。

瞬時電圧低下について

本装置は、社団法人電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピューターの瞬時電圧低下対策規格を満足しております。

しかし、本規格の基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。

(社団法人電子情報技術産業協会のパーソナルコンピューターの瞬時電圧低下対策規格に基づく表示)

- * ただし、バッテリー未搭載でACアダプタを使用している場合は、規定の耐力がないため、ご注意ください。

レーザー安全基準について

この装置には、レーザーに関する安全基準(JIS・C-6802)クラス1適合のCD-RW/DVD-ROM一体型ドライブまたはDVD-RWドライブが搭載されています。

無線の周波数について

本製品は2.4 GHz帯を使用しています。他の無線機器も同じ周波数を使っていることがあります。他の無線機器との電波干渉を防止するため、下記事項に注意してご使用ください。

本製品の使用上のご注意

本製品の使用周波数は2.4 GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局等(以下「他の無線局」と略す)が運用されています。

- 1) 本製品を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
- 2) 万一、本製品と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本製品の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止(電波の発射を停止)してください。
- 3) 不明な点その他お困りのことが起きたときは、VAIOカスタマーリンクまでお問い合わせください。VAIOカスタマーリンクについては、付属の「バイオ サービス・サポートのご案内」をご覧ください。

2.4 FH2



この表示のある無線機器は2.4 GHz帯を使用しています。変調方式としてFH-SS変調方式を採用し、与干渉距離は20 mです。

2.4DS/OF4



この表示のある無線機器は2.4 GHz帯を使用しています。変調方式としてDS-SS変調方式およびOFDM変調方式を採用し、与干渉距離は40 mです。

ワイヤレスLAN製品ご使用時におけるセキュリティについて

ワイヤレスLANではセキュリティの設定をすることが非常に重要です。セキュリティ対策を施さず、あるいはワイヤレスLANの仕様上やむを得ない事情により、セキュリティの問題が発生してしまった場合、弊社ではこれによって生じたあらゆる損害に対する責任を負いかねます。詳細については、

http://vcl.vaio.sony.co.jp/notices/security_wirelesslan.htmlをご覧ください。

- 権利者の許諾を得ることなく、本機に付属のソフトウェアおよびこの説明書の内容の全部または一部を複製すること、およびソフトウェアを賃貸することは、著作権法上禁止されております。
- 本機、および本機に付属のソフトウェアを使用したことによって生じた損害、逸失利益、および第三者からのいかなる請求等につきましても、当社は一切その責任を負いかねます。
- 本機の保証条件は、同梱の当社所定の保証書の規定をご参照ください。
- 本機に付属のソフトウェアは、本機以外には使用できません。
- 録画内容の補償はできません。必ず事前に試し撮りをし、正常に録画・録音されていることを確認してください。
- 万一、機器やソフトウェアなどの不具合により録画・録音がされなかった場合、記録内容の補償についてはご容赦ください。
- 本機、および本機に付属のソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご容赦ください。
- CD-ROMや音楽CDからのコピーの作成およびその利用は、使用許諾条件または著作権法に違反する場合があります。コピーの作成およびその利用にあたっては、オリジナルCDの利用許諾条件および著作権法を遵守してください。使用許諾条件、著作権法についてご不明な点がある場合は、法律の専門家にご相談ください。
- 各種サービスは、都合によりソニーおよび提供者の判断にてご提供を中止・中断する場合があります。その場合、対象ソフトウェアまたは対象ソフトウェアの一部機能がご使用いただけなくなる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

こんなときはこのマニュアル

目的に合わせて、本機に付属しているマニュアルをご活用ください。

本機に関する重要なお知らせ

[スタート] ボタンをクリックして、[すべてのプログラム] → [重要なお知らせ] の順にクリックすると、本機をお使いになる上でご覧いただきたい「重要なお知らせ」を表示することができます。


はじめにお読みください

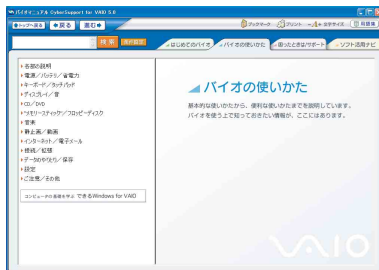
取扱説明書（本書）

バイオを使うための準備など、お使いになるうえで大切な情報を記載しています。

バイオの使いかたや、困ったときの解決方法

サイバーサポート (画面で見る電子マニュアル)

デスクトップ画面上の  (バイオマニュアル CyberSupport) をダブルクリックして起動してください。



ソフトウェアの使いかた

ソフトウェアのヘルプ

お使いになるソフトウェアを起動して、ヘルプをご覧ください。(ヘルプのないソフトウェアもあります。)

Windowsの使いかた


ヘルプとサポートセンター

WindowsのヘルプやQ&A (よくある質問とその回答) から使いかたを検索できます。

目次

サイバーサポート (画面で見る電子マニュアル) を使ってみよう



パイオの使いかたについて詳しく知りたいときや、困ったことがあったときは、デスクトップ画面上の  (パイオマニュアル CyberSupport) をダブルクリックして起動してください。次の項目についても「サイバーサポート」をご覧ください。

- ワイヤレスLANやBluetoothの使いかた
- CDの作成方法 など

安全のために	2	便利なボタンを使う	58
こんなときはこのマニュアル	6	ワイヤレス機能を使う	60
警告・ご注意	9	ワイヤレス機能を選択する	60
付属品を確かめる	19	ワイヤレスLANを 使ってできること	62
説明書	19	Bluetooth機能を 使ってできること	63
ディスク	20		
その他	20		
各部のなまえ	21	インターネットを始める	
本機正面	21	インターネット接続方法の 種類について	66
本機右側面	25	インターネット接続に 必要なものは	69
本機左側面	26	インターネット上の トラブルについて	72
本機後面	27	インターネットに 接続するまでの流れ	74
本機底面	28	インターネットに 接続したあとは	75
準備する		一般電話回線 / ADSL / ISDN / CATV インターネット回線につなぐ	76
電源を入れる	30	一般の電話回線につなぐときは	76
バッテリーを上手に使うには	34	ADSL接続サービスを 利用するときは	79
Windowsを準備する	35	ISDN回線を利用するときは	80
電源を切る	39	CATVインターネット回線を 利用するときは	80
カスタマー登録する	40	プロバイダと契約する	81
VAIOカスタマー登録について	40	チェックシートを作成する	83
VAIOカスタマー登録の方法	40	設定項目について	85
VAIOカスタマー登録情報を 変更するには	46		
基本的な使いかた			
タッチパッドを使う	48		
キーボードを使う	50		
ショートカットキー一覧	53		
内蔵カメラ (MOTION EYE)を使う	56		

接続のための設定をする (一般電話回線の場合)	89
接続のための設定をする (ADSLの場合)	95
インターネットに接続する (一般電話回線の場合)	99
接続を切断するには	102
ホームページを見る	103
電子メールソフトウェアの 設定をする	108
電子メールの設定を 変更するには	111
電子メールをやりとりする	113
セキュリティについて	117
その他	
メモリモジュールを 取り付ける／取りはずす	122
メモリモジュールを 取り付けるには	122
メモリモジュールを 取りはずすには	125
リカバリについて	127
リカバリする	130
Windowsからリカバリする	130
Windowsが起動しない状態で リカバリする	133
リカバリディスクを作成する	134
パーティションサイズを 変更する	137
パーティションサイズを 変更するには	138
リカバリ領域を削除する	138
リカバリディスクで リカバリ領域を作成する	140
使用上のご注意	141
お手入れ	148
保証書とアフターサービス	149
主な仕様	151
付属ソフトウェアの お問い合わせ先	157

困ったときは

トラブルを解決するには	168
VAIOカスタマーリンク お問い合わせ先	170
よくあるトラブルと解決方法	172
電源	173
Windowsの起動	176
省電力動作モード	178
タッチパッド／キーボード	179
文字入力	184
拡大ボタン	186
液晶ディスプレイ／ 外部ディスプレイ	187
CD／DVDディスク	189
“メモリースティック”	193
フロッピーディスク	193
内蔵カメラ(MOTION EYE)	194
モデム	197
インターネット／電子メール	203
ワイヤレスLAN	206
Bluetooth機能	211
スピーカー／ヘッドホン	213
マイク	214
プリンタ	214
DV機器／i.LINK機器	215
PCカード	216
ファン	216
パスワード	217
ハードディスク	217
プロセッサ(CPU)	218
メモリ	218
ソフトウェア	219
カスタマー登録	220
索引	221



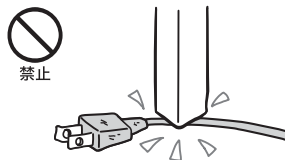
下記の注意事項を守らないと**火災・感電**などにより
死亡や大けがの原因となります。



電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 本機と机や壁などの間にはさみこんだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。
万一、電源コードが傷んだら、VAIOカスタマーリンク修理窓口にご依頼ください。



油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となります。この説明書に記されている使用条件以外の環境でのご使用は、火災や感電の原因となります。



内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続ケーブルを抜いて、VAIOカスタマーリンク修理窓口にご点検・修理をご依頼ください。



モデムは一般電話回線以外に接続しない

本機の内蔵モデムをISDN(デジタル)対応公衆電話のデジタル側のジャックや、構内交換機(PBX)へ接続すると、モデムに必要な以上の電流が流れ、故障・発熱・火災の原因となります。

特に、ホームテレホン・ビジネスホン用の回線などには、絶対に接続しないでください。



禁止

内部をむやみに開けない

- 本機および付属の機器(ケーブルを含む)は、むやみに開けたり改造したりすると火災や感電の原因となります。内部の点検、修理はVAIOカスタマーリンク修理窓口にご依頼ください。

- メモリモジュールを取り付けたり、取りはずすときは、「メモリモジュールを取り付ける／取りはずす」(122ページ)に従って注意深く作業してください。

また、指定されている部分以外には触れないでください。指定以外の部分にむやみに触れると、火災や感電の原因となります。



指定のACアダプタ以外は使用しない

火災や感電の原因となります。



禁止

ひざの上で長時間使用しない

長時間使用すると本機の底面が熱くなり、低温やけどの原因となります。



禁止

本機は日本国内専用です

本機に内蔵されているモデムは国内専用です。海外などでモデムを使用すると、故障・火災・感電の原因となることがあります。



指示

㊦㊦ (ネットワーク/LAN) コネクタに指定以外のネットワークや電話回線を接続しない

本機の ㊦㊦ (ネットワーク/LAN) コネクタに次のネットワークや回線を接続すると、コネクタに必要な以上の電流が流れ、故障や発熱、火災の原因となります。

特に、ホームテレホンやビジネスホンの回線には、絶対に接続しないでください。

- 10BASE-Tと100BASE-TXタイプ以外のネットワーク
- 一般電話回線
- ISDN(デジタル)対応公衆電話のデジタル側のジャック
- PBX(デジタル式構内交換機)回線
- ホームテレホンやビジネスホンの回線
- 上記以外の電話回線など

また、㊦㊦ (ネットワーク/LAN) コネクタをお使いになるときは、職場などのネットワーク管理者にご相談ください。



禁止

落雷のおそれがあるときは本機を使用しない

落雷により、感電したり本機が故障することがあります。雷が予測されるときは、火災や感電、製品の故障を防ぐためにテレホンコードや電源プラグを抜いてください。また、雷が鳴りだしたら、本機には触らないでください。



禁止



下記の注意事項を守らないと、医療機器などを誤動作させるおそれがあり事故の原因となります。

満員電車の中など混雑した場所ではワイヤレス機能を使用しない

付近に心臓ペースメーカーを装着されている方がいる可能性のある場所では、電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。



心臓ペースメーカーの装着部位から 22 cm 以上離して使用する

電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。



病院などの医療機関内、医療用電気機器の近くではワイヤレス機能を使用しない

電波が影響を及ぼし、医療用電気機器の誤動作による事故の原因となるおそれがあります。



航空機内ではワイヤレス機能を使用しない

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。



本製品を使用中に他の機器に電波障害などが発生した場合は、ワイヤレス機能を使用しない

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。



本製品を 5 GHz ワイヤレス機能で使用する場合は、屋外では使用しない

5 GHz (IEEE802.11a) ワイヤレス機能の屋外での使用は、法令により禁止されています。





警告

下記の注意事項を守らないと、健康を害するおそれがあります。

ディスプレイ画面を長時間続けて見ない

ディスプレイなどの画面を長時間見続けると、目が疲れたり、視力が低下するおそれがあります。ディスプレイ画面を見続けて体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。



禁止

キーボードを使いすぎない

キーボードやタッチパッドなどを長時間使い続けると、腕や手首が痛くなったりすることがあります。キーボードやタッチパッドを使用中、体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。



禁止

大音量で長時間つづけて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときはご注意ください。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。



禁止



注意

下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

ぬれた手で電源プラグの抜き差しをすると、感電の原因となることがあります。



接続するときは電源を切る

ACアダプタや接続ケーブルを接続するときは、本機や接続する機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。感電や故障の原因となることがあります。



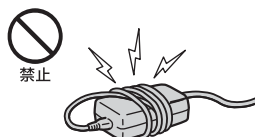
指定された電源コードや接続ケーブルを使う

この説明書に記されている電源コードや接続ケーブルを使わないと、感電や故障の原因となることがあります。



電源コードや接続ケーブルをACアダプタに巻き付けない

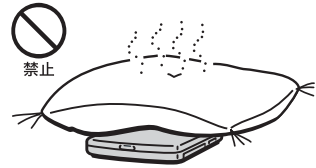
断線や故障の原因となることがあります。



排気口、吸気口をふさがない

排気口、吸気口をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。風通しをよくするために次の項目をお守りください。

- 毛足の長い敷物（じゅうたんや毛布など）の上に放置しない。
- 布などでくるまない。



排気口からの排気に長時間あたらない

本機をご使用中、その動作状況により排気口から温風が排出されることがあります。この温風に長時間あたると、低温やけどの原因となる場合があります。



通電中の本機やACアダプタに長時間ふれない

長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。



本機やACアダプタを布や布団などでおおった状態で使用しない

熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。



安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置かないでください。また、横にしたり、ひっくり返して置いたりしないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。



本機の上に重いものを載せない

壊れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。



お手入れの際は、電源を切って電源プラグを抜く

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



移動させるときは、電源コードや接続ケーブルを抜く

接続したまま移動させると、ケーブルが傷つき、火災や感電の原因となったり、接続している機器が落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

また、本機を落とさないようご注意ください。



コネクタはきちんと接続する

- コネクタの内部に金属片を入れないでください。ピンとピンがショート(短絡)して、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクタはまっすぐに差し込んで接続してください。斜めに差し込むと、ピンとピンがショートして、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクタに固定用のスプリングやネジがある場合は、それらで確実に固定してください。接続不良が防げます。



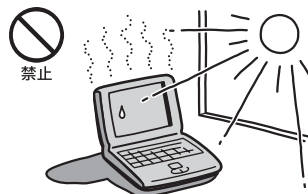
長時間使用しないときは電源プラグを抜く

長時間使用しないときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。



直射日光のあたる場所や熱器具の近くに設置・保管しない

内部の温度が上がり、火災や故障の原因となることがあります。



液晶画面に衝撃を与えない

液晶画面はガラス製のため、強い衝撃を与えると割れて、けがの原因となることがあります。



ディスプレイパネルの裏側を強く押さない

液晶画面が割れて、故障やけがの原因となることがあります。



本機に強い衝撃を与えない

故障の原因となることがあります。



電池についての安全上のご注意

漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、次の注意事項を必ずお守りください。

危険

- 指定された充電方法以外で充電しない。
- 火の中に入れてない。ショートさせたり、分解しない。電子レンジやオーブンで加熱しない。コインやヘヤーピンなどの金属類と一緒に携帯、保管するとショートすることがあります。
- 火のそばや炎天下などで充電したり、放置しない。
- バッテリーに衝撃を与えない。
落とすなどして強いショックを与えたり、重いものを載せたり、圧力をかけないでください。故障の原因となります。
- バッテリーから漏れた液が目に入った場合は、きれいな水で洗ったあと、ただちに医師に相談してください。
- 本機に付属または指定された別売りのバッテリー以外は使用しないでください。
- 以下のバッテリーを使用した場合の安全性は保証できません。
 - 本機に付属、または指定された別売りのバッテリー以外を使用した。
 - 分解、改造を行ったバッテリーを使用した。

警告

バッテリーを廃棄する場合は、次のご注意をお守りください。

- 地方自治体の条例などに従う。
- 一般ゴミに混ぜて捨てない。

または、リサイクル協力店へお持ちください。

本機の発熱についてのご注意

使用中に本機の表面やACアダプタ、バッテリーが熱くなることがあります

CPUの動作や充電時の電流によって発熱していますが、故障ではありません。使用している拡張機器やソフトウェアによって発熱量は異なります。

本機やACアダプタが普段よりも異常に熱くなったときは

本機の電源を切り、ACアダプタの電源コードを抜き、バッテリーを取りはずしてください。次に、VAIOカスタマーリンク修理窓口に修理をご依頼ください。

付属品を確かめる

本機をはじめて使うにあたって、次のものがすべてそろっているかご確認ください。

□マークにチェックしながら確認すると便利です。

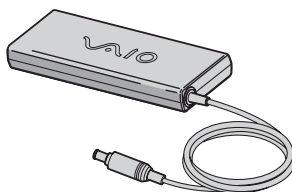
付属品が足りないときや破損しているときは、VAIOカスタマーリンクにご連絡ください。

なお、付属品は本機のみで動作保証されています。

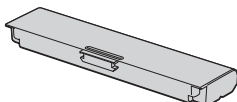
□ パソコン本体(1)



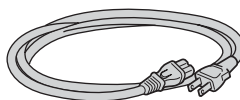
□ ACアダプタ(1)



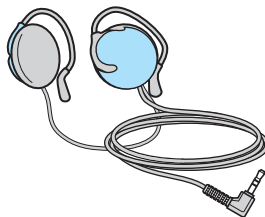
□ バッテリ(1)



□ 電源コード(1)



□ ヘッドホン(1)



説明書

- 取扱説明書(1)
- バイオで楽しもう！(1)
- ソフトウェア操作ガイド(1)
- 「Microsoft® Windows® XP Home Edition」ファースト ステップ ガイド
(PCG-TR3/B・TR3E/B・一部ソニースタイルモデル、1)

ディスク

- Microsoft® Office Personal Edition 2003* プレインストールパッケージ (PCG-TR3/B・TR3E/B・一部ソニースタイルモデル、1)
工場出荷時にプレインストールされています。起動方法について詳しくは「付属ソフトウェアのお問い合わせ先」の「ワープロ・表計算」(161ページ)をご覧ください。

* この説明書では以降、Office Personal 2003と略します。

- ゼンリン電子地図Z[zi:]6 DVD全国版(1)



本機はハードディスクからリカバリすることができるため、リカバリディスクは付属しておりません。

詳しくは「リカバリについて」(127ページ)をご覧ください。

その他

- VAIOカスタマー登録・保証書お申込書(1)

- バイオ サービス・サポートのご案内(1)

- VAIOカルテ(1)

- ソフトウェア使用許諾契約書(1)

- その他パンフレット類

- プロバイダを選ぶ際は、「できるインターネット プロバイダー選び編」をご活用ください。
- 大切な情報が記載されている場合があります。必ずご覧ください。



本機に付属のソフトウェアについては、「付属ソフトウェアのお問い合わせ先」(157ページ)をご覧ください。

この説明書の説明図や画面について

この説明書で使われている説明図や画面は実際のものとは異なる場合があります。特に指示のない限り、本文中の説明図にはPCG-TR3/Bを使用しています。

ソニースタイルモデルをご購入のお客様へ

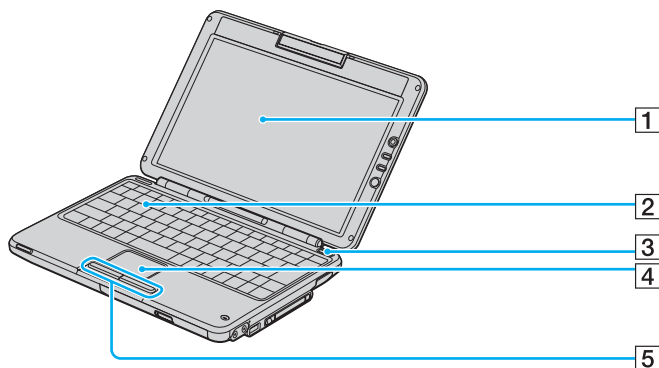
お客様が選択された商品により仕様が異なります。

詳しくは同梱されている「Sony Style ご利用のお客様へ」をご覧ください。

各部のなまえ

詳しい説明は、()内のページ、または「サイバーサポート」をご覧ください。

本機正面



① 液晶ディスプレイ (141、187ページ)

② キーボード (50、179ページ)

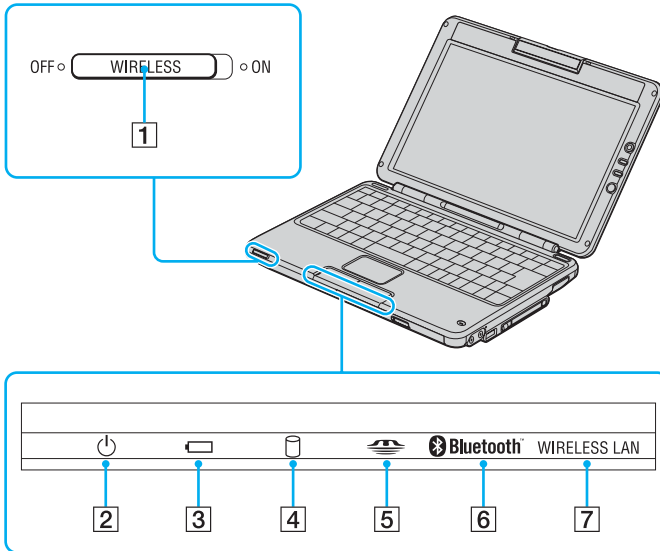
③ 電源(パワー)ボタン

④ タッチパッド (48、179ページ)

マウスの代わりに画面上のポインタを動かします。

⑤ 左/右ボタン (48ページ)

マウスの左/右ボタンに相当します。



① WIRELESSスイッチ (60、206、211ページ)

ワイヤレス LAN と Bluetooth 機能をオン/オフします。

ワイヤレス LAN と Bluetooth 機能について詳しくは、「サイバーサポート」をご覧ください。

② 電源(パワー)ランプ (33ページ)

電源が入ると緑色に点灯します。

③ (バッテリー)ランプ

バッテリーの動作状態をお知らせします。

④ (ハードディスク) アクセスランプ

ハードディスクにアクセスしているときに点灯します。

⑤ (メモリースティック) アクセスランプ

“メモリースティック”にアクセスしているときに点灯します。

⑥ Bluetooth ランプ (211ページ)

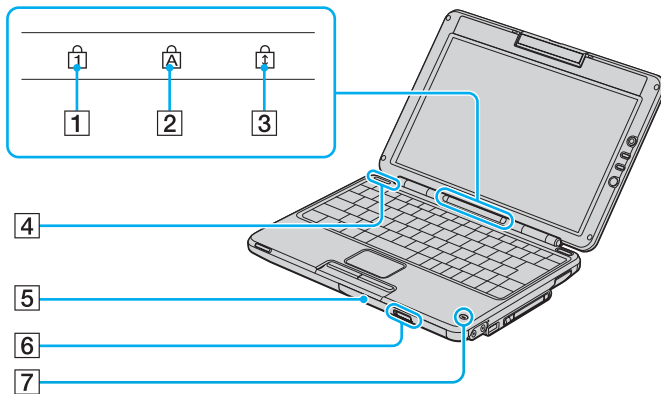
Bluetooth 機能が使える状態のときに点灯します。


Bluetooth 機能について詳しくは、「サイバーサポート」をご覧ください。

⑦ WIRELESS LAN ランプ


ワイヤレス LAN が使える状態のときに点灯します。

ワイヤレス LAN について詳しくは、「サイバーサポート」をご覧ください。




1  (Num Lock) ランプ (51、176、181、184ページ)

Num Lkキーを有効にすると点灯します。

2  (Caps Lock) ランプ (52、176、181、184ページ)

Caps Lockキーを有効にすると点灯します。

3  (Scroll Lock) ランプ (54ページ)

4 IDラベル(150、171ページ)



型名が記載されています。

5 CD-RW/DVD-ROM 一体型ドライブ(PCG-TR3/B・TR3E/B・一部ソニースタイルモデル*) / DVD-RWドライブ(一部ソニースタイルモデル*)

以降、CD-RW/DVD-ROM一体型ドライブをCD-RW/DVDドライブまたはドライブと略します。

また、DVD-RWドライブはドライブと略します。

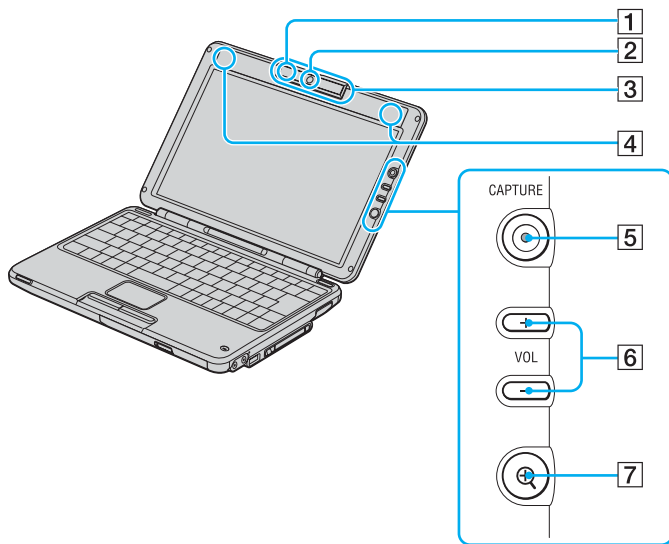
* ドライブを確認するには、本機正面のマークをご覧ください。

CD-RW/DVDドライブ:  

DVD-RWドライブ:  

6 ドライブ イジェクトボタン、アクセスランプ、マニュアルイジェクト穴

7 内蔵マイク



1 カメラランプ

内蔵カメラ(MOTION EYE)に映像が映っているときに点灯します。

2 内蔵カメラ(MOTION EYE) (56、145、149、194ページ)

動画や静止画を撮影したり、テレビ電話をするときに映像を映します。

3 ミラープレート (56、145、149、195ページ)

内蔵カメラ(MOTION EYE)のレンズ前面のプレートです。

4 内蔵ステレオスピーカー (53、213ページ)

5 CAPTURE(キャプチャ)ボタン (56ページ)

動画や静止画を撮影します。

6 VOL(ボリューム)ボタン (58、213ページ)

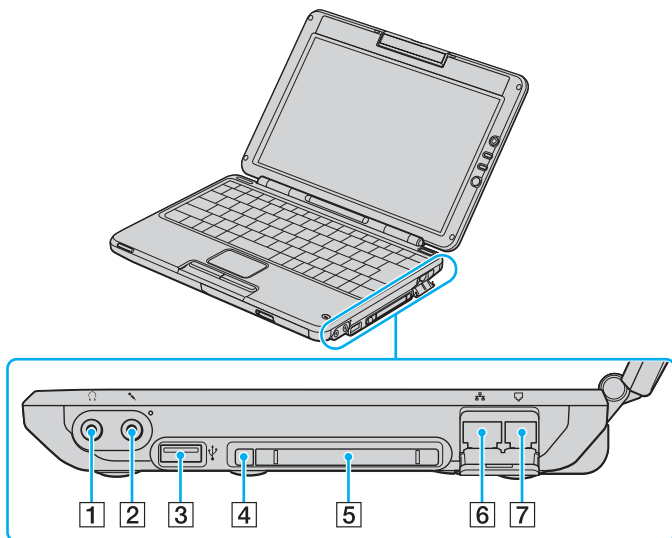
スピーカーやヘッドホンの音量を調節します。

-(マイナス)ボタンと区別がしやすいように、+(プラス)ボタンの横に突起がついています。

7 ⊕(拡大)ボタン (58、186ページ)

画面を拡大表示します。

本機右側面



① (ヘッドホン)コネクタ

ヘッドホンやスピーカーをつなぎます。

② (マイク)コネクタ

マイクをつなぎます。

ヘッドホンコネクタと区別がしやすいように、マイクコネクタの右上に突起がついています。

マイクをお使いになるときは、誤ってヘッドホンコネクタに接続しないようにご注意ください。

③ (USB)コネクタ

USB規格に対応した機器をつなぎます。

④ PCカード イジェクトボタン

PCカードを取り出します。

⑤ PCカードスロット(145ページ)

⑥ (ネットワーク/LAN)コネクタ

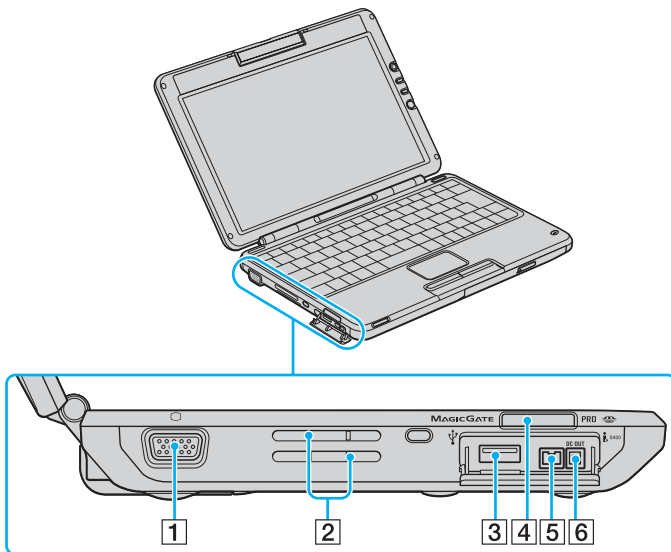
LANケーブルなどをつなぎます。

LANポートを使用するタイプのADSLモデムなどに接続するときに使います。
(79ページ)

⑦ (モジュラジャック)(77ページ)

電話回線をつなぎます。

本機左側面



① □ (モニター)コネクタ

外部ディスプレイや液晶プロジェクタをつなぎます。

② 排気口

③ USB (USB) コネクタ

USB規格に対応した機器をつなぎます。

④ (マジックゲート対応メモリスティック)スロット

“メモリスティック”を挿入します。

⑤ S400 (i.LINK) コネクタ

i.LINK端子の付いた他の機器とデータをやりとりできます。

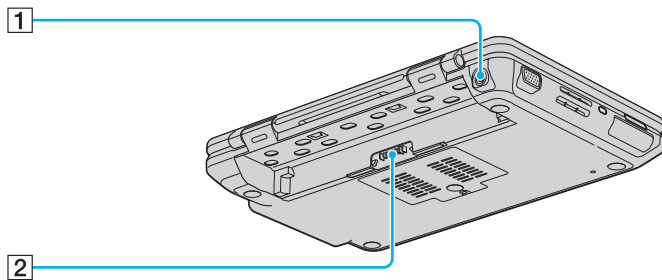
⑥ バイオノート関連製品専用 DC OUT (電源供給) コネクタ

バイオノート専用ドライブのみ接続してください。

バイオノート専用ドライブ以外のドライブを接続すると、本機の故障の原因となる場合があります。

以降、専用DC OUTコネクタと略します。

本機後面

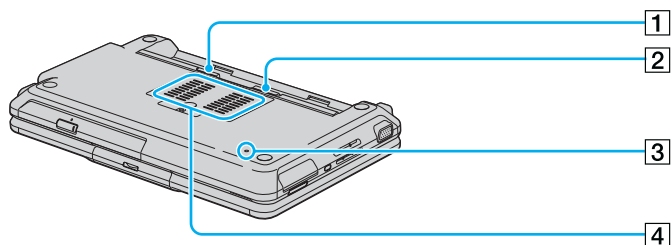


1 ◇◇ DC IN 16 Vコネクタ (31ページ)

ACアダプタをつなぎ、電源コンセントにつなぎます。

2 バッテリコネクタ

本機底面



① ロックレバー (30ページ)

バッテリーをロックします。

② RELEASE (リリース)レバー

バッテリーを取りはずします。

③ リセットスイッチ (173、174、175ページ)

④ 吸気口

準備する

電源を入れる

次の手順に従って、本機の電源を入れてください。

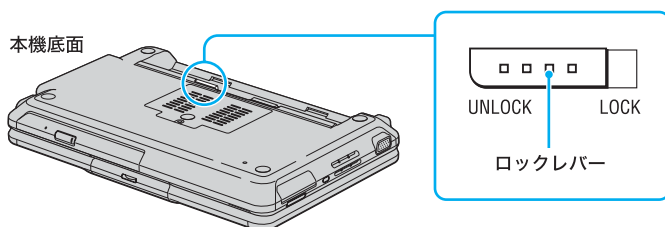
ご注意

安全のために、本機に付属または指定された別売りのバッテリーおよびACアダプタをご使用ください。

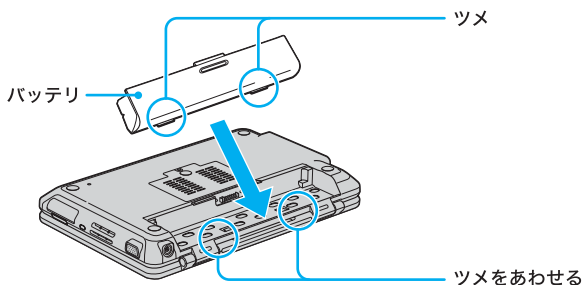
1 バッテリーを取り付ける。

停電や誤ってAC電源がはずれ、作業中のデータが失われてしまうことのないよう、付属のバッテリーを取り付けます。

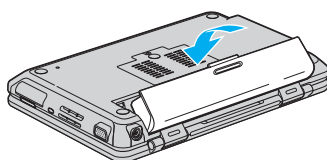
- ①本機底面のロックレバーが外側(UNLOCK側)にあることを確認する。



- ②本機後面にバッテリーにある2か所のツメをあわせる。
バッテリーのツメを下向きにして、斜めにツメをあわせてください。



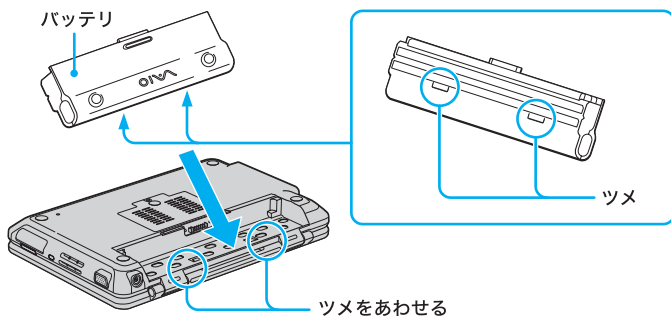
- ③バッテリーを矢印の方向に倒す。
正しく取り付けられると、「カチッ」と音がします。



- ④ロックレバーを内側(LOCK側)へずらして、バッテリーを固定する。

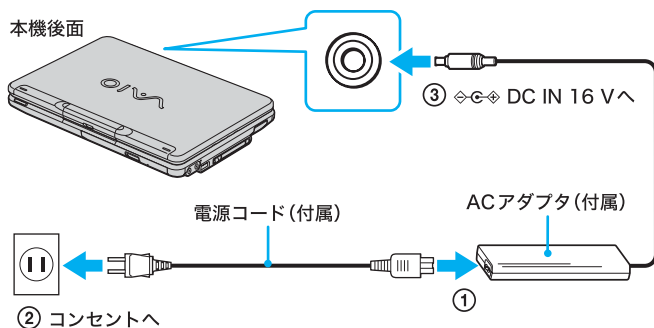
ご注意

別売りのLバッテリー PCGA-BP3Tを取り付けるときは、バッテリーのツメが見えませんが、ツメの位置をあわせるよう確認しながら取り付けてください。

**2 AC電源をつなぐ。**

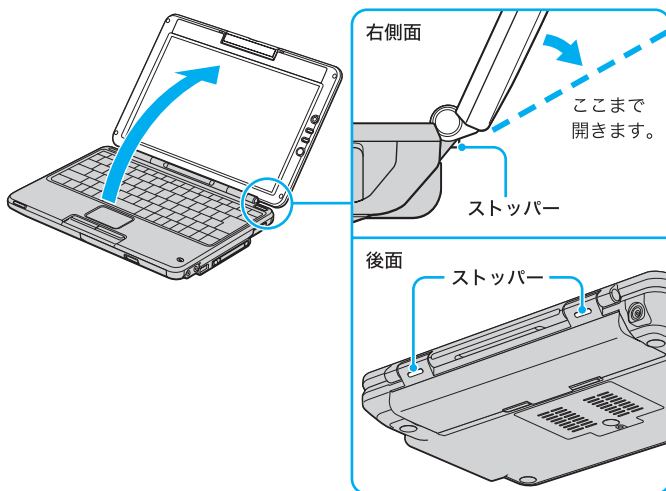
本機と壁のACコンセントを接続します。

- ① 電源コードのプラグをACアダプタに差し込む。
- ② 電源コードのもう一方のプラグを、壁のコンセントに差し込む。
- ③ ACアダプタのプラグを、本機後面の DC IN 16V コネクタに差し込む。



3 ディ스플레이パネルを開く。

本機の下側をしっかりと押さえて開いてください。そのとき、内蔵カメラ (MOTION EYE) 部分は持たないでください。故障の原因となります。



ご注意

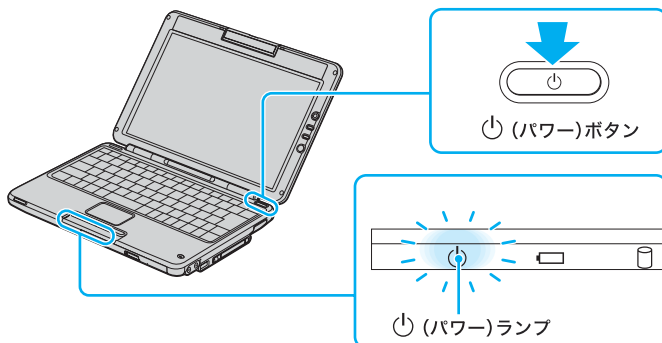
- ディ스플레이パネルを開くときは、ストッパーがありますので、それ以上開けないようにご注意ください。
- ディ스플레이パネルを開くときは、液晶部分を強く持たないでください。液晶ディスプレイが割れたりすることがあります。
- 内蔵カメラ (MOTION EYE) を外側に向けたままディスプレイパネルを閉じないでください。また、ディスプレイパネルを閉じた状態で内蔵カメラ (MOTION EYE) を回さないでください。

4 ㊦(パワー)ボタンを押し、㊦(パワー)ランプが点灯(グリーン)したら離す。

電源が入ると、㊦(パワー)ランプが点灯し、本機が起動します。

ご注意

㊦(パワー)ボタンを4秒以上押したままにすると、電源が切れてしまいます。㊦(パワー)ランプが点灯したら指を離してください。



本機の電源をはじめて入れる場合は、Windowsのロゴの画面が表示され、しばらくして「Microsoft Windowsへようこそ」画面が表示されます。「Windowsを準備する」(35ページ)の手順に従って、Windowsのセットアップを行ってください。

ご注意

- 「Microsoft Windowsへようこそ」画面が表示されるまでにしばらく時間がかかりますが、そのままお待ちください。途中で電源を切るなどの操作を行うと、本機の故障の原因となります。



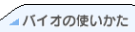
- 本機のキーボード左側部分に磁気製品などを近づけると、液晶ディスプレイパネルを閉じたときと同じ状態となり、LCD/Videoスタンバイまたは休止状態に移行します。本機の近くには磁気製品を近づけないよう、ご注意ください。
- 本機を安心してご使用になるために、大切なデータを失わないための対策や、第三者から本機を守るために「セキュリティについて」(117ページ)をご覧ください。



本機の2回目の起動時か、「Norton AntiVirus」ソフトウェアをはじめて起動したときは、「Norton AntiVirus情報ウィザード」画面が表示されます。画面の指示に従って操作してください。



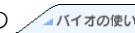
本機はエネルギースター規格に基づいて設計されており、工場出荷時の設定では、AC電源でご使用中に約30分操作しないと、自動的に現在作業中の状態を保持したまま、省電力動作モードへ移行します(スタンバイ^{*1})。キーボードのいずれかのキーを押すか、⏻(パワー)ボタン^{*2}を一瞬押すと、元の状態に戻ります。また、バッテリーでご使用中に約30分操作をしないと、自動的に本機の電源を切ります(休止状態^{*})。元の状態に復帰させるには、⏻(パワー)ボタン^{*2}を押してください。

^{*1} 詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[電源/バッテリー/省電力]→[省電力]→[本機を使っていないときに消費電力をおさえる(省電力動作モード)]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

^{*2} ⏻(パワー)ボタンを4秒以上押しつづけると保存された状態が破棄されますのでご注意ください。

バッテリーを上手に使うには

本機をバッテリーで使用しているときに、次のようなことに気をつけるとバッテリーを長持ちさせることができます。

詳しくは、デスクトップ上の「バッテリーを上手に使うヒント」アイコンをクリックするか、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[電源/バッテリー/省電力]→[バッテリー]→[バッテリーを上手に使うヒント]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

- 液晶ディスプレイの明るさを暗くする
工場出荷時の設定は明るくなっています。
液晶ディスプレイは、暗くして使用するほうがバッテリーを長持ちさせることができます。
- 省電力の機能を使う
こまめにスタンバイや休止状態にすることで、バッテリーを長持ちさせることができます。
また、休止状態の場合は、電源オフからの起動よりも早く復帰できます。

Windowsを準備する

本機を使う前に、Windowsを使うための準備が必要です。

Windowsが使える状態になると、本機に付属のソフトウェアやいろいろな機能も使えるようになります。次の手順に従って、Windowsを使う準備をします。

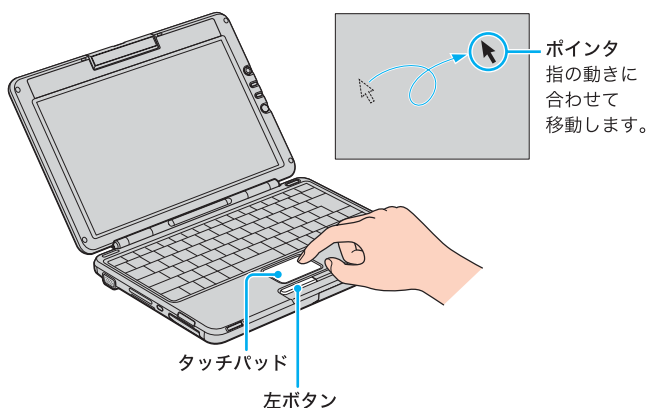


- 停電や誤ってAC電源がはずれ、作業中のデータが失われてしまうことのないよう、次の操作を行う前に付属のバッテリーを本機に取り付けてください。取り付けかたについては「電源を入れる」(30ページ)をご覧ください。
- 「タッチパッドを使う」(48ページ)や「キーボードを使う」(50ページ)では、タッチパッドやキーボードの使いかたについて説明しています。そちらもあわせてご覧ください。

1 「Microsoft Windowsへようこそ」画面が表示されたら、画面右下にある[次へ]をクリックする。

タッチパッドに触れて指を動かし、[次へ]の上までポインタを移動し、左ボタンを「カチッ」と1回押してすぐに離します。

これを「クリックする」と言います。





ここをクリックする。

「使用許諾契約」画面が表示されます。

2 画面に表示された内容を読み、内容に同意するときは[同意します]の○をクリックして●にし、[次へ]をクリックする。



ここをクリックすると、文章が上下に移動する。

ここをクリックする。
○が●になる。

ご注意

[同意しません]の○をクリックすると、Windowsの準備作業は中止され、Windowsと本機に付属のソフトウェアはお使いになれません。

「コンピュータに名前を付けてください」画面が表示されます。

3 必要な場合はコンピュータ名を変更し、[次へ]をクリックする。

コンピュータ名は、本機をネットワークに接続して使用する場合にコンピュータを識別するために必要です。「このコンピュータの名前」の欄に自動的に表示されますが、必要な場合は認識しやすい名前に変更してください。

また、コンピュータにわかりやすい説明をつけることもできます。その場合は「コンピュータの説明」欄に入力してから[次へ]をクリックしてください。

Windows XP Home Edition搭載モデルをお使いの場合は、手順6へ進んでください。

- 4 「管理者パスワードを設定してください」画面が表示されたら、「管理者パスワード」と「パスワードの確認入力」の欄にパスワードを入力し、[次へ]をクリックする。
- 5 「このコンピュータをドメインに参加させますか？」画面が表示されたら、ネットワーク環境に合わせて設定し、[次へ]をクリックする。
- 6 「インターネットに接続する方法を指定してください。」または「インターネット接続が選択されませんでした。」画面が表示されたら、[省略]をクリックする。

「Microsoftにユーザー登録する準備はできましたか？」画面が表示されます。



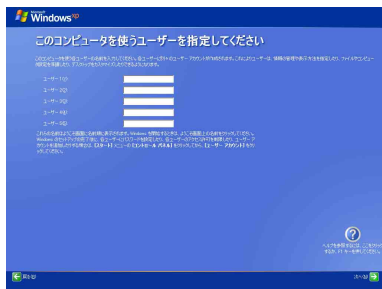
「インターネットに接続する方法を指定してください。」画面でお使いのデバイスの○をクリックして[次へ]をクリックすると、デバイスによってはインターネットへ接続するための設定画面が表示されます。

その場合は画面の指示に従って操作してください。

また、インターネットに接続するための設定は、Windowsのセットアップ完了後にも行うことができます。詳しくは「インターネットを始める」(66ページ)をご覧ください。

- 7 [いいえ、今回はユーザー登録しません]の○をクリックして●にし、[次へ]をクリックする。

「このコンピュータを使うユーザーを指定してください」画面が表示されます。

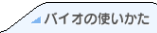


「Microsoftにユーザー登録する準備はできましたか？」画面で、[はい、今すぐユーザー登録します]を選んで[次へ]をクリックすると、マイクロソフトへのオンライン登録ができます。ただし、オンライン登録するには本機を電話回線に接続しておく必要があります。

インターネットに接続するための設定について詳しくは「インターネットを始める」(66ページ)をご覧ください。

8 ユーザーの名前を入力し、[次へ]をクリックする。

複数のユーザーを入力した場合、ここで入力した名前は、本機の電源を入れたときに表示される「ようこそ」画面に表示されます。Windowsを起動するときは、表示された名前をクリックします。

Windowsのセットアップ完了後に、使用するユーザーを追加したり、設定を変更することもできます。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[コンピュータの基礎を学ぶ] できるWindows for VAIO]をクリックして表示される情報をご覧ください。

「設定が完了しました」画面が表示されます。

9 [完了]をクリックする。

10 Windowsの起動後、本機に設定されている日時を確認し、現在の日時に合わせる。

- 1 [スタート]をクリックして、[コントロール パネル]→[日付、時刻、地域と言語のオプション]→[日付と時刻]の順にクリックする。
「日付と時刻のプロパティ」画面が表示されます。
- 2 [日付と時刻]タブをクリックして、「日付」と「時刻」を現在の日時に合わせる。
- 3 [OK]をクリックする。
日時の設定が有効になります。

これでWindowsが使えるようになりました。

引き続きいろいろな操作をするためには、「サイバーサポート」画面上部の

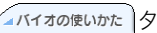
 タブをクリックして表示される情報をご覧ください。

電源の切りかたについて詳しくは、「電源を切る」(39ページ)をご覧ください。

ご注意

- 本機に付属のOS(Operating System)以外をインストールした場合の動作保証はいたしかねます。本機のOSは、「Microsoft® Windows® XP Professional*」または「Microsoft® Windows® XP Home Edition*」です。
* この説明書では、WindowsまたはWindows XPと略します。
- デスクトップ画面上にあるアイコンには、一定の期間使用しないと自動的にデスクトップ画面上から削除されるものがあります。Windowsの初回起動時から2週間後に、アイコンを削除するかどうかを確認する画面が表示されます。その後60日ごとに、使用していないデスクトップ画面上のアイコンが自動的に検索され、削除するかどうかを確認する画面が表示されます。デスクトップ画面上のアイコンを削除しても、ソフトウェア自体は削除されません。

本機を複数のユーザーで使えます

登録したユーザーごとに専用のデスクトップ画面やマイドキュメントが用意され、それぞれのユーザーが自分専用のコンピュータのように使用することができます。複数のユーザーでのWindowsの使用について詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[コンピュータの基礎を学ぶ] できるWindows for VAIO]をクリックして表示される情報をご覧ください。

電源を切る

次の手順に従って、本機の電源を切ります。

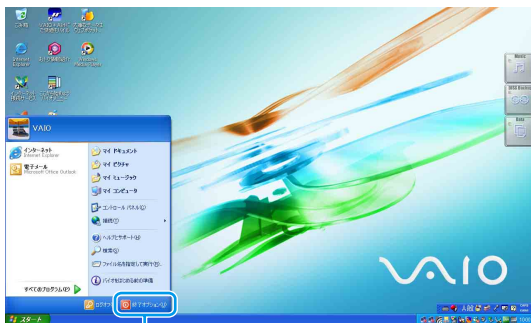
ご注意

- 必ず次の手順に従って電源を切ってください。手順に従って電源を切らないと本機の故障の原因となったり、作成した文書などのファイルが使えなくなることがあります。
- 内蔵カメラ(MOTION EYE)を外側に向けたままディスプレイパネルを閉じないでください。
- ディスプレイパネルを閉じた状態で内蔵カメラ(MOTION EYE)を回さないでください。

1 [スタート]ボタンをクリックする。

「スタート」メニューが表示されます。

2 メニューの[終了オプション]をクリックする。



ここをクリックする。

「コンピュータの電源を切る」画面が表示されます。



画面は実際のものとは異なる場合があります。

3 [電源を切る]をクリックする。



ここをクリックする。

数秒後に本機の電源が自動的に切れ、⏻ (パワー) ランプ(グリーン)が消灯します。

液晶ディスプレイパネルを閉じるときは、⏻ (パワー) ランプが消灯したのを確認してから閉じてください。

これで、本機を使う上で必要な準備と操作はひととおり終わりました。

カスタマー登録する

VAIOカスタマー登録について

ソニーマーケティング株式会社およびソニー株式会社(以下、「ソニー」)はバイオをご所有のお客様へセキュリティ情報などの必要な情報をお知らせし、充実したサービス・サポートをご提供するために、「VAIOカスタマー登録」を行っていただくことをおすすめしています。ご登録のメリットについては、VAIOホームページ(<http://www.vaio.sony.co.jp/>)をご覧ください。また、出荷時点で付属する保証書が提供する製品の保証期間はご購入時から3か月間です。

ご登録を行っていただくことで、カスタマー専用デスクから、ご購入日より1年間有効な保証書と「My Sony ID」と「お客様サポート番号」を記したご登録証「VAIO Customer's Card」をお送りします。

なお、保証について詳しくは「保証書とアフターサービス」(149ページ)をご覧ください。

VAIOカスタマー登録に関してのお問い合わせは、「カスタマー専用デスク」までご連絡ください。

詳しくは、本機に付属の「バイオ サービス・サポートのご案内」の「各種お問い合わせ先」をご覧ください。

VAIOカスタマー登録の方法

電話回線を通じて手軽にご登録が行えます。

インターネット経由でもご登録が行えます。詳しくは、画面の指示に従って操作してください。また、プロキシの設定などについては、各法人・団体様のシステム管理者におたずねください。



- 付属の「VAIOカスタマー登録・保証書お申込書」にご記入の上、郵送いただくことでもご登録を行えます。
付属の「VAIOカスタマー登録・保証書お申込書」を使ってお申し込みいただく場合は、「VAIOカスタマーID」を記したご登録証「VAIO Customer's Card」をお送りします。その後、次の手順に従って、「My Sony ID」を取得することができます。

- 次の場合を除き、ソニーがお客様の同意なく登録内容を外部へ開示することはありません。ただし、お客様個人を特定できない統計情報はこの限りではありません。
 - お客様にお知らせした使用目的のために、業務を委託する協力会社へ開示が必要な場合。(ソニーは、当該協力会社に対して、お客様の情報の厳重な管理と使用目的の遵守を徹底します。)
 - 司法機関または行政機関から法的義務を伴う要請を受けた場合。
- VAIOカスタマー登録は、本機のリカバリをしたあとなどに再び行う必要はありません。住所などのご登録内容の変更を行うときは、VAIOホームページ内 (<http://www.vaio.sony.co.jp/>) のページ上で、変更手続きが行えます。また、[スタート]ボタンをクリックして、[すべてのプログラム]にポインタをあわせ、[VAIO オンラインカスタマー登録]をクリックして変更手続きを行うこともできます。
- 13才より小さいおこさまは、ほごしゃのかたといっしょにとうるくしてください。

ご注意

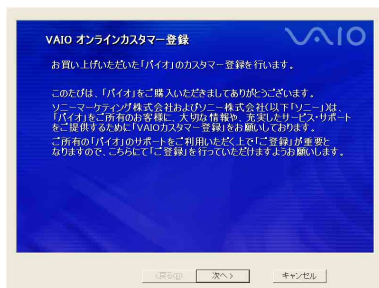
- VAIOオンラインカスタマー登録を行うには、「コンピュータの管理者」など、管理者権限を持つユーザーとしてログオンする必要があります。
- VAIOオンラインカスタマー登録にご使用いただく電話回線は一般電話回線だけでなく、ISDN回線にも対応しています。(80ページ)

1 電話回線につなぐ。

76ページの手順に従ってつなぎます。

2 [スタート]ボタンをクリックして[すべてのプログラム]にポインタを合わせ、[VAIO オンラインカスタマー登録]をクリックする。

「VAIO オンラインカスタマー登録」画面が表示されます。



カスタマー登録をしない、または後でするときは、[キャンセル]をクリックして表示される画面で[終了]をクリックしてください。

3 [次へ]をクリックする。

「登録手順について」画面が表示されます。



1つ前の画面を見たいときは、[戻る]をクリックします。

4 [次へ]をクリックする。

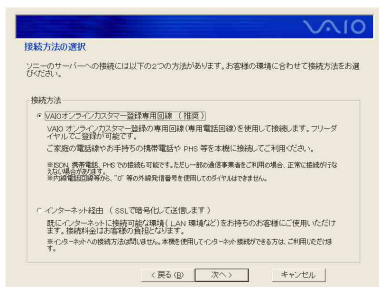
「ID・パスワードの入力」画面が表示されます。



本機を含めてパイオをすでに2台以上お持ちの方など、すでに「VAIO カスタマーID」や「My Sony ID」をお持ちの方はIDを入力し、画面の指示に従って操作してください。

5 [次へ]をクリックする。

「接続方法の選択」画面が表示されます。



6 「VAIOオンラインカスタマー登録専用回線」の○をクリックして◎にし、[次へ]をクリックする。

「発信方式の設定」画面が表示されます。

ご注意

- ・ 外線発信 (0発信) はできません。
- ・ 「インターネット経由」を選んでご登録いただく場合、接続料金はおお客様の負担となります。
- ・ ターミナルアダプタ、携帯電話、PHSなど、お使いになる通信機器によっては、正しく接続できないことがあります。この場合は、本機の□ (モジュラージャック) と一般電話回線をつなぎ (76ページ)、通信を行ってください。



[次へ]をクリックすると、手順7に進む前に「接続デバイスの選択」画面が表示されることがあります。この場合は、通信に使う機器を選び、[次へ]をクリックしてください。

7 お使いの電話回線の発信方式(ダイヤル方法)を選び、[次へ]をクリックする。

ご注意

ターミナルアダプタ、携帯電話、PHSなど、お使いになる通信機器によっては、正しく接続できないことがあります。この場合は、本機の☐(モジュラージャック)と一般電話回線をつなぎ(76ページ)、通信を行ってください。



- 本機を一般電話回線につないでいるときのみトーン式/パルス式ダイヤルを選びます。
- トーン式ダイヤルとは
電話機のダイヤルボタンを押すと「ピボパ」と音がし、「カチカチ」という音がしない電話機のダイヤル方法です。
- パルス式ダイヤルとは
ボタンではなくダイヤルを回す電話機、またはダイヤルボタンを押すたびに「カチカチ」という音がする電話機のダイヤル方法です。
- お使いの電話回線のダイヤル方法がわからない場合は、電話会社から送られてくる請求内訳表をご覧ください。請求内訳表の中に「プッシュ回線使用料」と記載されている場合は「トーン式ダイヤル」です。回線(基本)使用料のみ記載されている場合は「パルス式ダイヤル」です。電話回線のダイヤル方法について詳しくは、契約している電話会社へお問い合わせください。

8 電話回線がつながっていることを確認し、[問い合わせ]をクリックする。

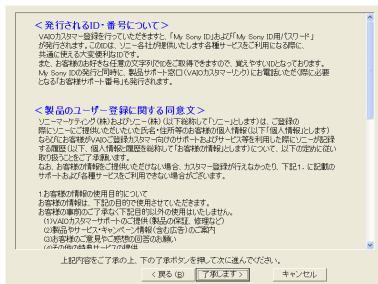
電話回線を通じて通信が行われ、完了すると「問い合わせ完了」画面が表示されます。

9 [次へ]をクリックする。

「VAIO カスタマー登録の特典/VAIO カスタマー登録のご注意」画面が表示されます。

10 [次へ]をクリックする。

「発行されるID・番号について/製品のユーザー登録に関する同意文」画面が表示されます。



11スクロールバーの▲または▼をクリックして、画面に現れた内容をすべて読み、内容を了承するときは[了承します]をクリックする。
「IDの規約の確認」画面が表示されます。

12スクロールバーの▲または▼をクリックして、画面に現れた内容をすべて読み、内容に同意するときは[同意する]をクリックする。
「お客様氏名の入力」画面が表示されます。
画面の指示に従って操作してください。入力が完了すると、「希望するID・パスワードの入力」画面が表示されます。

ご注意

- ・ [同意しない]をクリックすると、カスタマー登録は完了しません。
- ・ 「お客様ご住所等の入力」画面の「郵便番号」はハイフンを除いて入力してください。
- ・ 「お客様ご住所等の入力」画面下部の「保証書等の送付先住所は上記と同様でよろしいですか？」の項目は必ず入力してください。



「お客様ご住所等の入力」画面で「郵便番号」を入力した後、[住所検索]をクリックすると、簡単に住所検索ができます。

13「My Sony ID」の「@」前にご希望の文字列、「My Sony ID用パスワード」、「パスワード初期化のための合言葉」を入力し、[次へ]をクリックする。

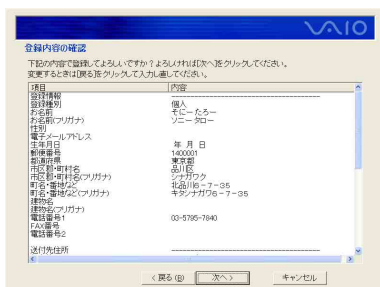
「パスワード初期化のための合言葉」は、「My Sony ID用パスワード」を忘れてしまったときに備え、あらかじめ設定しておいた質問と答えを使って、パスワードの初期化と再設定を行う機能です。

「製品情報の入力」画面が表示されます。

画面の指示に従って操作してください。入力が完了すると、「登録内容の確認」画面が表示されます。

ご注意

- 「My Sony ID用パスワード」は英字と数字を混ぜて入力してください。英字のみ、または数字のみのパスワードは設定できません。
- 「My Sony ID用パスワード」は「登録内容の確認」画面では表示されません。「My Sony ID用パスワード」を忘れないようご注意ください。

**14**登録内容を確認し、[次へ]をクリックする。

「確認してください」画面が表示されます。

ご注意

ターミナルアダプタ、携帯電話、PHSなど、お使いになる通信機器によっては、正しく接続できないことがあります。この場合は、本機の□(モジュラジャック)と一般電話回線をつなぎ(76ページ)、通信を行ってください。

15[登録する]をクリックする。

登録内容が電話回線を通じて送られ、送信が終わると「登録完了」画面が表示されます。

16[次へ]をクリックする。

「ご登録の完了」画面が表示されます。

☞ 「My Sony ID」と「お客様サポート番号」について

VAIO登録カスタマー向けのサービスをご利用の際には「My Sony ID」をお使いください。

VAIOカスタマーリンクへ電話でお問い合わせいただく際には「お客様サポート番号」をご使用ください。

ご注意

VAIOカスタマーリンクへ電話でお問い合わせいただく際に、「My Sony ID」はご使用できません。

17[IDと番号をファイルに保存する]をクリックする。

「名前を付けて保存」画面が表示されます。

18 ファイルに任意の名前を付け、[保存]をクリックする。

お客様の「My Sony ID」と「お客様サポート番号」の情報がファイルとして「マイ ドキュメント」フォルダの中に保存されます。

ご注意


保存されたデータを他人に見られたり、紛失しないようご注意ください。

19 [OK]をクリックする。

これでVAIOオンラインカスタマー登録は終了です。



[OK]をクリックすると、サービス内容などをお知らせする画面が表示されることがあります。この場合は、[次へ]をクリックしてください。

VAIOカスタマー登録が終わると、デスクトップ画面上に  が表示されます。このアイコンをダブルクリックすると、VAIOに関するサービス・サポート情報やVAIOホームページのご案内などのお知らせを見ることができます。

VAIOカスタマー登録情報を変更するには

1 [スタート]ボタンをクリックして[すべてのプログラム]にポインタをあわせ、[VAIO オンラインカスタマー登録]をクリックする。

「お客様はすでにVAIOカスタマーに登録されています。……」というメッセージが表示されます。

2 [はい]をクリックする。

「VAIO オンラインカスタマー登録」画面が表示されます。

3 [次へ]をクリックする。

「登録情報変更手順について」画面が表示されます。

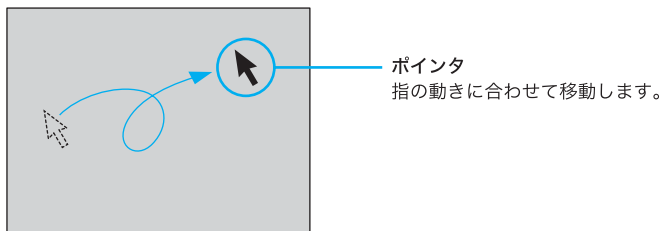
4 [次へ]をクリックする。

「My Sony ID、My Sony ID用パスワードの入力」画面が表示されます。画面の指示に従って操作し、登録内容を変更してください。

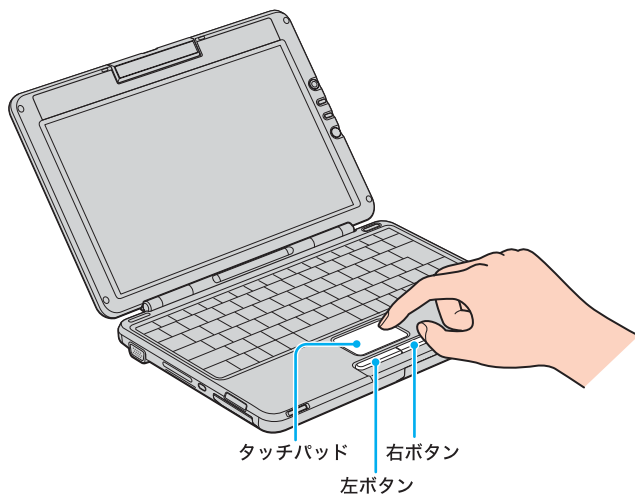
基本的な使いかた

タッチパッドを使う

タッチパッドに触れて指を動かすと、画面上のポインタも同じ方向に移動します。



ポインタを目的の位置まで動かして左または右のボタンを押すだけで、メニューを選んだり、さまざまな命令をコンピュータに伝えることができます。



クリックする

ポインタを希望の位置に合わせて、タッチパッドの手前にある左ボタンを1回押します。[OK]や[キャンセル]などのボタンを押したり、メニューを選ぶときなどに使います。

また、タッチパッドを指で1回軽くたたいても同じ働きをします。

ダブルクリックする

ポインタを希望の位置に合わせて、左ボタンを2回続けて押します。

ワードプロセッサや表計算などのソフトウェアを実行したり、作成した文書などのファイルを開くときなどに使います。

また、タッチパッドを2回続けて軽くたたいても同じ働きをします。

右クリックする

ポインタを希望の位置に合わせて、右ボタンを1回押します。

押したときのポインタの位置によって、さまざまな内容のポップアップメニューが表示されます。

ドラッグする

ポインタを希望の位置に合わせて、左ボタンを押したまま、タッチパッド上で指を動かします。ファイルを移動したり、ウィンドウの大きさを変更するときなどに使います。

また、タッチパッドを2回続けて軽くたたき、そのままタッチパッド上で指を動かしても同じ働きをします。

ドラッグアンドドロップする

ファイルなどのアイコンをドラッグし、他のフォルダやウィンドウ、ソフトウェアのアイコンなどの上で左ボタンを離します。ファイルを移動したり、コピーするときなどに使います。

また、タッチパッドを2回続けて軽くたたき、そのままタッチパッド上で指を動かしてアイコンなどの上で指を離しても同じ働きをします。

スクロールする

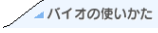
指をタッチパッド上の右端に合わせて、上下に動かします。選択されているウィンドウ上の垂直方向のスクロールバーを移動できます。

指をタッチパッドの右上または右下に置いたままにして、ウィンドウを上方向または下方向にスクロールし続けることができます。

また、指をタッチパッドの下端に合わせて、左右に動かします。選択されているウィンドウ上の水平方向のスクロールバーを移動できます。




タッチパッドの設定を変更したり、より便利に使うこともできます。

詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[キーボード/タッチパッド]→[タッチパッド]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

キーボードを使う

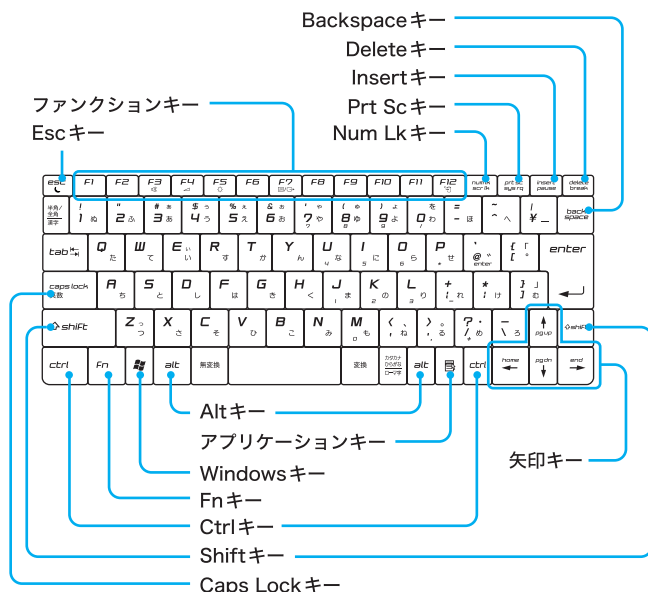
キーボードを使って文字や記号を入力したり、コンピュータへ命令を送ることができます。ここでは、主なキーのなまえと機能を紹介します。使用するソフトウェアによって働きが異なるものもあります。各ソフトウェアのヘルプもあわせてご覧ください。


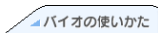

文字の入力のしかたについて詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の





 [パイオの使いかた](#) タブをクリックし、画面左側にある[コンピュータの基礎を学ぶ]できるWindows for VAIO]をクリックして表示される情報をご覧ください。

ご注意

- キートップがはずれてしまったら、「キートップがはずれた。」(182ページ)をご覧ください。正しく取り付け直してください。
- キートップを故意にはずしたり、取り付けるときに無理に力を加えると故障や破損の原因となります。取り扱いにはご注意ください。

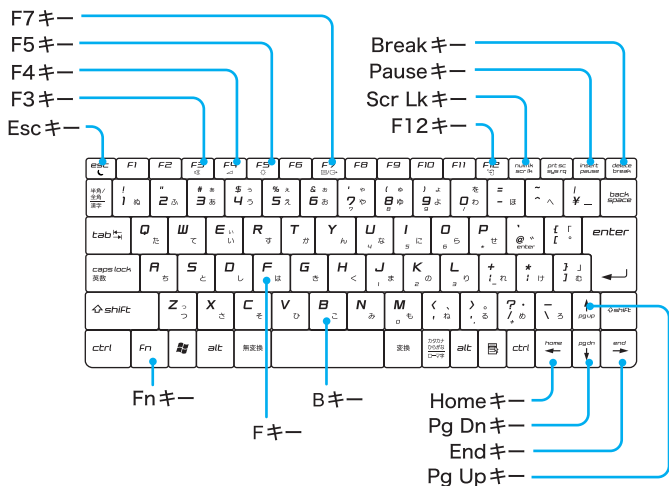


なまえ	機能
Esc (エスケープ)キー	設定を取り消したり、実行を中止するときなどに押します。
ファンクション キー	使用するソフトウェアによって働きが異なります。 Fn キーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。詳しくは、「 Fn キーとの組み合わせ」(53ページ)をご覧ください。
Num Lk (ナムロック)キー	テンキーと組み合わせて使うと、数字を入力できます。 Num Lk キーを押すと、液晶ディスプレイの下にある  (Num Lock) ランプが点灯します。もう1度 Num Lk キーを押すと、消灯します。 詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある [各部の説明] → [キーボード] → [キーボードの各部名称] の順にクリックして表示される情報をご覧ください。
Prt Sc (プリントスクリーン) キー	表示されている画面全体をクリップボードに取り込みます。 Alt キーを押しながらこのキーを押すと、選択されているウィンドウだけを取り込みます。取り込んだ画像は「ペイント」などのソフトウェアで保存、加工、印刷できます。
Insert (インサート)キー	文字入力モードを切り替えます。文字を入力するとき、このキーを押すごとにカーソルの位置に文字を挿入するか、カーソルの位置から文字を上書きするか切り替えることができます。使用するソフトウェアによっては働かない場合があります。
Delete (デリート)キー	カーソルの右側の文字を消します。
Backspace (バックスペース) キー	カーソルの左側の文字を消します。
矢印キー	カーソルを動かしたり、数ページにわたる画面の次ページまたは前ページを表示できます。
アプリケーション キー 	タッチパッドの右ボタンを押したときと同じ働きをします。

なまえ	機能
Alt (オルト)キー	文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。オルタネートキーともいいます。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは、各ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
Windows (ウィンドウズ)キー 	Windows の[スタート]メニューが表示されます。他のキーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  バイオの使いかた タブをクリックし、画面左側にある[各部の説明]→[キーボード]→[キーボードの各部名称]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。
Fn (エフエヌ)キー	キーボード上で紫色で表記されている機能を使うとき、このキーと組み合わせて押します。詳しくは、「Fnキーとの組み合わせ」(53ページ)をご覧ください。
Ctrl (コントロール)キー	文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは、各ソフトウェアのヘルプをご覧ください。例) Ctrl キーを押しながら、 S キーを押す。メニューから「保存する」を選ばずに、ファイルを保存できます。
Shift (シフト)キー	文字キーと組み合わせて使うと、大文字を入力できます。また、文字キーと他の機能キーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。
Caps Lock (キャスロック)キー	Shift (シフト)キーを押しながらこのキーを押し、液晶ディスプレイの下にある  (Caps Lock) ランプが点灯しているときに、文字キーを押すと、アルファベットの大文字を入力できます。もう1度、 Shift キーを押しながらこのキーを押すと、  (Caps Lock) ランプが消え、アルファベットの小文字入力に戻ります。

ショートカットキー一覧




Fnキーとの組み合わせ

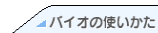


キー操作の表記

例:Fn + ※ (F3)→Fnキーを押しながら F3キーを押す。

組み合わせ	機能
Fn + ◀ (Esc)	現在の本機の状態をメインメモリに記憶させ、液晶ディスプレイとCPUの電源供給を停止して、使用電力を低減します(スタンバイ)。
Fn + ※ (F3)	スピーカーやヘッドホンの音声を入/切します。
Fn + ▲ (F4)	スピーカーやヘッドホンの音量を調節できます。このコマンドを実行すると、数秒間だけ音量表示が表示されます。 ↑または→キーを押すと大きくなり、↓または←キーを押すと小さくなります。
Fn + ☀ (F5)	液晶ディスプレイの明るさを調節できます。このコマンドを実行すると、数秒間だけ明るさ表示が表示されます。 ↑または→キーを押すと明るい画像になり、↓または←キーを押すと暗い画像になります。

組み合わせ	機能
Fn +  /  (F7)	<p>本機の□(モニタ)コネクタに接続した外部ディスプレイなどと、本機の液晶ディスプレイの表示を切り替えます。</p> <p>このコマンドを実行すると、数秒間だけ出力先表示が表示されます。</p> <p>Fnキーを押しながらF7キーを押して、出力先表示を切り替えてください。</p> <p>出力先表示は、Fnキーを押しながらF7キーを押すたびに切り替わります。</p> <p>出力先表示は以下のように表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本体液晶:液晶ディスプレイのみに表示されます。 • 本体液晶+外部モニタ(VGA):液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時に表示されます。* • 外部モニタ(VGA):外部ディスプレイのみに表示されます。* • 設定:外部ディスプレイに表示するときの解像度設定画面が表示されます。 <p>* 外部出力表示は、外部ディスプレイなどが接続されていないときは表示されません。</p> <p>ご注意</p> <ul style="list-style-type: none"> • 動画再生中や内蔵カメラ(MOTION EYE)使用中に、ディスプレイの切り替えをすることはできません。 • 外部ディスプレイに切り替えると、液晶ディスプレイの解像度が自動的に変わることがあります。
Fn +  (F12)	<p>本機の液晶ディスプレイやCPUだけでなく、ほとんどの電源供給を停止します(休止状態)。使用環境はハードディスクに書き込まれるので復帰後もそのまま作業ができ、電源オフからの起動よりも早く本機を使用できます。</p>
Fn + Scr Lk (スクロールロック)	<p>使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは、各ソフトウェアのヘルプをご覧ください。</p>
Fn + Pause (ポーズ)	<p>使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは、各ソフトウェアのヘルプをご覧ください。</p>


組み合わせ	機能
Fn + Break (ブレイク)	使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは、各ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
Fn + Pg Up (ページアップ)	現在表示している画面の前のページを表示します。
Fn + End(エンド)	行またはページの最後にカーソルを移動します。
Fn + Pg Dn (ページダウン)	現在表示している画面の次のページを表示します。
Fn + Home (ホーム)	行またはページの先頭にカーソルを移動します。
Fn + B	メガベース(高低音増幅機能、ヘッドホンや外部スピーカー使用時のみ)のオン/オフを切り替えます。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[ディスプレイ/音]→[音]→[メガベースの設定を変更する]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。
Fn + F	画面の解像度を液晶パネルの解像度より低くしているとき、液晶ディスプレイ表示の拡大/縮小を切り替えることができます。拡大するときは、解像度を変えずに画面いっぱいに表示することができます。 ご注意 <ul style="list-style-type: none"> • 本機の液晶ディスプレイに表示している場合のみ、拡大/縮小表示することができます。 • 動画再生中や内蔵カメラ(MOTION EYE)使用中に、拡大/縮小の切り替えをすることはできません。

ご注意

Windows起動後でないとは動かないものがあります。




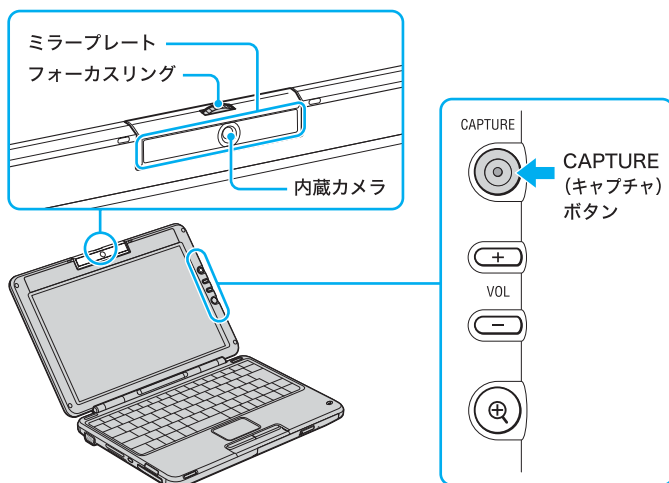
Fnキーを5回押して「固定Fnキー機能」画面を表示し、[固定Fnキー機能を使用する]をチェックしてから[OK]をクリックすると、同時に2つのキーを押さずに、Fnキーと他のキーをそれぞれ押してこれらの操作を行うことができます。

Fnキーの固定を解除するには、通知領域の を右クリックし、[固定Fnキー機能を無効にする]をクリックします。

内蔵カメラ (MOTION EYE) を使う

本機の内蔵カメラ (MOTION EYE) で静止画や動画を撮ることができます。内蔵カメラの使いかたについて詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の

 バイオの使いかた タブをクリックし、画面左側にある [内蔵カメラ (MOTION EYE)] をクリックして表示される情報をご覧ください。



CAPTURE (キャプチャ) ボタン

動画や静止画を撮影します。

また、「Network Smart Capture」ソフトウェアを起動します。

内蔵カメラ (MOTION EYE)

動画や静止画を撮影したり、テレビ電話をするときに映像を映します。

ご注意

内蔵カメラ (MOTION EYE) のレンズ前面のミラープレートに触らないでください。ミラープレートに傷がつくと、撮影した画像にも傷が映ってしまいます。

ミラープレート

内蔵カメラ (MOTION EYE) のレンズ前面のプレートです。

フォーカスリング

ピントをあわせます。

また、本機には内蔵カメラ (MOTION EYE) を使う以下のソフトウェアが付属されています。

これらのソフトウェアの使いかたについて詳しくは、各ソフトウェアのヘルプや、付属の「ソフトウェア操作ガイド」、「サイバーサポート」をご覧ください。

- 「Network Smart Capture」ソフトウェア
内蔵カメラ (MOTION EYE) で静止画や動画を撮ることができます。
また、設定された条件に従って自動的に静止画を撮ることもできます (定点観測)。
- 「Windows ムービーメーカー」ソフトウェア
動画を撮影することができます。
- 「Windows Messenger」ソフトウェア
インターネット経由で相手の顔をみながらおしゃべりしたり、文字で会話すること (ビデオチャット) ができます。
- 「VAIO CameraVJ Screen Saver」ソフトウェア
カメラに映っている映像を、自動的にスクリーンセーバーにすることができます。

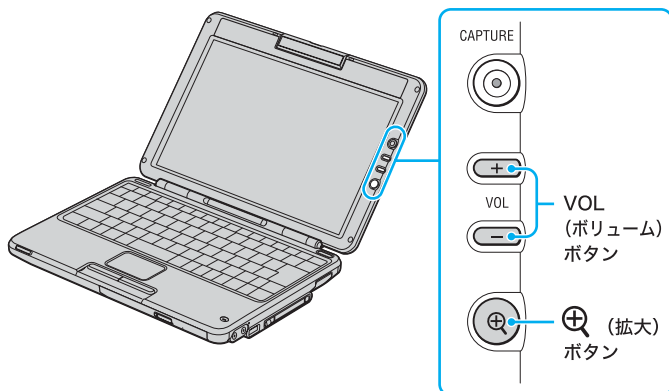


「Windows Messenger」ソフトウェアでビデオチャットをするときは、市販のヘッドセットを使うと、よりクリアな音声でテレビ電話を楽しむことができます。
付属のヘッドホンを使うこともできます。

ご注意

「Network Smart Capture」ソフトウェアなど、内蔵カメラ (MOTION EYE) を使うソフトウェアは同時に使用することができません。「Network Smart Capture」ソフトウェアなどを使うときは、これら他のソフトウェアを終了してください。

便利なボタンを使う



VOL(ボリューム)ボタン

VOL(ボリューム)ボタンを押すことで、スピーカーやヘッドホンの音量を調節できます。

[+]ボタンを押すと大きくなり、[-]ボタンを押すと小さくなります。



Fnキーを押しながら、F4キーを押しても音量を調節できます。

⌕ (拡大) ボタン

液晶ディスプレイに表示される文字などが小さい場合には、⌕ (拡大) ボタンを押すことにより、即座に画面を拡大して見やすくすることができます。

⌕ (拡大) ボタンを押すと、解像度を変更されて画面が拡大表示され、もう1度押すと前の設定に戻ります。



液晶ディスプレイの解像度(標準時/拡大時)は次のとおりです。

標準時: 1,280 × 768 ドット、最高(32ビット)

拡大時: 1,024 × 600ドット、最高(32ビット)

ご注意

⊕ (拡大) ボタンを使って解像度を変更する場合は下記の点にご注意ください。

- 外部ディスプレイをつないで表示しているときに ⊕ (拡大) ボタンを押しても、解像度を変更することはできません。
- 動作中の画面解像度変更に対応しないソフトウェアでは不具合が生じることがあります。この場合は、ソフトウェアをいったん終了してから ⊕ (拡大) ボタンを押してください。
- 解像度を変更することで画面の拡大表示を行っているため、画像などの表示には効果がないことがあります。
- 拡大表示時や元の設定に戻ったときに、ソフトウェアのウィンドウの位置やサイズが変更されていることがあります。
- 画面を拡大表示しているときに外部ディスプレイに表示を切り替えると、拡大表示は解除され、画面は元の解像度で表示されます。
- 拡大表示した画面は拡大表示 (補完表示) しているため、ややぼけた感じの画面となります。

ワイヤレス機能を使う

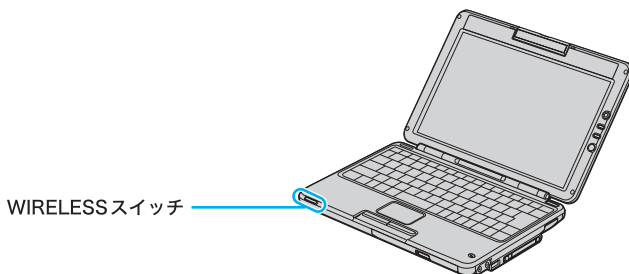
ワイヤレス機能を選択する

本機には、以下のワイヤレス通信機能が搭載されています。

- 5 GHzワイヤレスLAN機能(IEEE802.11a)
(PCG-TR3/B・ソニースタイルモデル)
- 2.4 GHzワイヤレスLAN機能(IEEE802.11b/g)
(PCG-TR3/B・TR3E/B・ソニースタイルモデル)
- Bluetooth機能

次のように操作することで、本機で使用する通信機能を切り替えることができます。

1 本機の電源を入れ、WIRELESSスイッチを「ON」にあわせる。



工場出荷時の設定では、本機の電源が入っているときに WIRELESS スイッチを「ON」にすると「ワイヤレス機能の選択」画面が表示されます。その場合は、手順3に進んでください。

「WIRELESS スイッチを「ON」にした時にこのダイアログを自動で表示する」のチェックボックスをクリックしてチェックをはずすと、WIRELESS スイッチを「ON」にしても、「ワイヤレス機能の選択」画面は表示されません。

- 2 デスクトップ画面右下の通知領域にある **LAN**、**LAN** または **B** などの「ワイヤレススイッチ」アイコンを右クリックし、「ワイヤレス機能の選択」ダイアログを表示]を選んでクリックする。
「ワイヤレス機能の選択」画面が表示されます。



- 3 ご使用になるワイヤレス機能のチェックボックスをクリックしてチェックし、[OK]をクリックする。
選択したワイヤレス機能が有効になります。

ご注意

「5 GHzワイヤレスLAN機能を利用する」を選択できるのは、PCG-TR3/B・ソニースタイルモデルのみです。

「ワイヤレススイッチ」アイコンとランプの見かた

通知領域に表示される「ワイヤレススイッチ」アイコンと本機のランプで、現在使用中のワイヤレス機能を知ることができます。

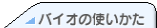
アイコン	ランプ*	使用中のワイヤレス機能
	WIRELESS LAN ランプ点灯(グリーン)	ワイヤレス LAN 機能のみ
	WIRELESS LAN ランプ点灯(グリーン)と Bluetooth ランプ点灯(ブルー)	ワイヤレス LAN 機能および Bluetooth 機能
	Bluetooth ランプ点灯(ブルー)	Bluetooth 機能のみ
	消灯	ワイヤレス通信機能 無効

* WIRELESS スイッチを「ON」にあわせたとき、選択されているワイヤレス機能のランプが点灯します。

ご注意

本機で 2.4 GHz ワイヤレス LAN 機能と Bluetooth 機能を同時に使用すると、お互いの電波が影響し合い、通信速度などに影響を及ぼす場合があります。

ワイヤレスLANを使ってできること

ワイヤレスLANは、ケーブル接続のわずらわしさを一切なくし、無線でLAN(ローカルエリアネットワーク)環境を構築できます。ワイヤレスLANについて詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[ワイヤレス機能]→[ワイヤレスLAN]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

本機には、5 GHzワイヤレスLAN機能(IEEE802.11a)(PCG-TR3/B・ソニースタイルモデル)および2.4 GHzワイヤレスLAN機能(IEEE802.11b/g)が搭載されています。

IEEE802.11aとは(PCG-TR3/B・ソニースタイルモデル)

IEEE802.11aは、5 GHz帯を使っているワイヤレスLAN機能の方式です。最大54 Mbpsの高速性能で、高品質な映像や音楽を伝送できます。

IEEE802.11b / IEEE802.11gとは

IEEE802.11bとIEEE802.11gは、2.4 GHz帯を使っているワイヤレスLAN機能の方式です。

ワイヤレスLANの業界標準として、オフィスや家庭、公衆無線LANサービスなどを行っている場所で多く使われています。

電子メールやインターネットなどをワイヤレスでお使いになる場合に適しています。

IEEE802.11gは、IEEE802.11bより高速の通信が可能です。

ワイヤレスLANの接続形態には、ワイヤレスLANアクセスポイント(別売り)を中心にネットワークを構成する「インフラストラクチャモード」と、アクセスポイントを使用せずコンピュータ同士が直接接続する「Ad hocモード」の2つがあります。

インフラストラクチャモードで使用する場合、ご家庭やオフィス、またはワイヤレスLANアクセスポイントが設置されたカフェや空港など外出先からもインターネットやメール交換が楽しめます。また、ADSLモデムなどにつながれたアクセスポイントと通信すれば、ブロードバンドネットワークも実現できます。

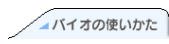
ご注意

- 外出先でワイヤレスLAN通信を行う際は、ワイヤレスLAN接続サービスを提供する会社との契約が必要となる場合があります。
- 5 GHzワイヤレスLAN(IEEE802.11a)機能と2.4 GHzワイヤレスLAN(IEEE802.11b)機能とでは、使用している周波数帯域が異なるため、互いに接続することはできません。(PCG-TR3/B・ソニースタイルモデル)
- 5 GHzワイヤレスLAN(IEEE802.11a)機能の屋外での使用は、法令により禁止されています。(PCG-TR3/B・ソニースタイルモデル)
- 本機で2.4 GHzワイヤレスLAN機能とBluetooth機能を同時に使用すると、お互いの電波が影響し合い、通信速度などに影響を及ぼす場合があります。

Bluetooth機能を使ってできること

Bluetooth機能は、ケーブル接続のわずらわしさを一切なくし、近距離間の無線通信を実現する技術です。


本機とBluetooth機能対応のコンピュータや携帯電話、モデム、PDA、デジタルスチルカメラなどをケーブルでつなぐことなく、簡単に無線通信をすることができます。Bluetoothについて詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の

 タブをクリックし、画面左側にある[ワイヤレス機能]→[Bluetooth機能]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

本機でBluetooth機能を使って通信を行うには、付属の「BlueSpace NE」ソフトウェアを使います。

ご注意

- Bluetooth対応機器は、ご使用の機器やソフトウェアのバージョンなどによって、正しく動作しない場合があります。Bluetooth対応機器をご購入の際は、あらかじめ動作環境をご確認ください。
VAIOのBluetooth対応機器に関する情報は、VAIOカスタマーリンクのホームページなどをご確認ください。
また、本機はセキュリティ保護のため、認証されていない機器間の接続を拒否するように設定されています。接続するには、接続する機器ごとに認証が必要になります。
ソニーのBluetooth商品との接続情報や接続手順などに関しては「Sony Bluetooth プロダクトインフォメーション」(<http://www.sony.jp/products/bluetooth/select/index.html>)をご覧ください。
- 「BlueSpace Version 2.1.1」より前のバージョンがインストールされたコンピュータとは接続できない場合があります。このときは、BlueSpaceをバージョンアップすることにより問題が解決します。
ただし、次の機種では以下の制限があります。
PCG-SR9G/KおよびPCG-C1VRX/Kから「BlueSpace NE」への接続は行えません。また、PCG-SR9M/KおよびPCG-C1VSX/Kから「BlueSpace NE」へ接続するには、OS(オペレーティングシステム)をWindows XPにアップグレードした上で、BlueSpaceとBluetoothドライバをアップデートする必要があります。
アップデートについて詳しくは、VAIOカスタマーリンクのホームページ(<http://vcl.vaio.sony.co.jp/>)をご覧ください。
- 「BlueSpace NE」ソフトウェアはIP接続およびチャット機能には対応していません。このため、以前のバージョンのBlueSpaceがインストールされている機種とIP接続やチャットをすることはできません。
- Bluetooth規格の制約上、電波状況などにより、大容量のファイルの送信を続けると、まれに転送したファイルに不具合が生じる場合がありますのでご注意ください。



インターネットを 始める

インターネット接続方法の種類について

インターネットに接続する方法には、いろいろな種類があります。接続方法によって、通信速度やプロバイダの料金、接続に必要な機器などが異なります。詳しくは、プロバイダにお問い合わせいただくか、または「インターネット接続に必要なものは」(69ページ)をご覧ください。

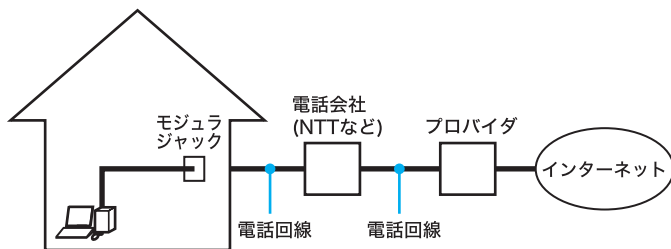
各接続方法の特徴

回線の種類	接続可能 エリア	高速通信	常時接続
一般電話回線	◎	△	△
ADSL	○	○	◎
ISDN	○	△	△
CATVインターネット	△	○	◎
光 (FTTH)	△	◎	◎

◎:最適 ○:適している △:あまり適さない

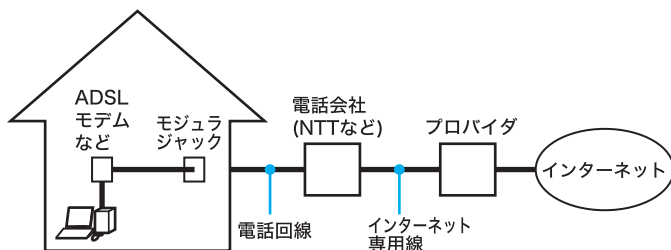
一般電話回線

通常の電話回線を使ってインターネットに接続します。バイオのようなモデム内蔵タイプのコンピュータを利用する場合には、特別な機器を必要としません。



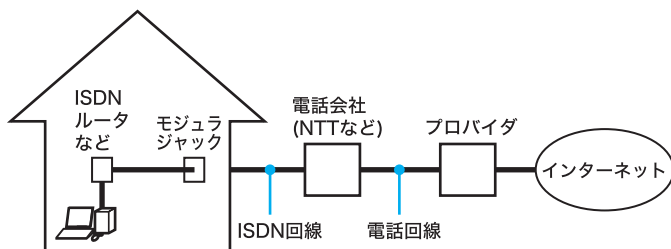
ADSL

通常の電話回線を使ってインターネットに接続します。高速通信・常時接続ができる接続方法です。回線の申し込みや、ADSLで接続するための機器(ADSLモデムなど)が必要です。



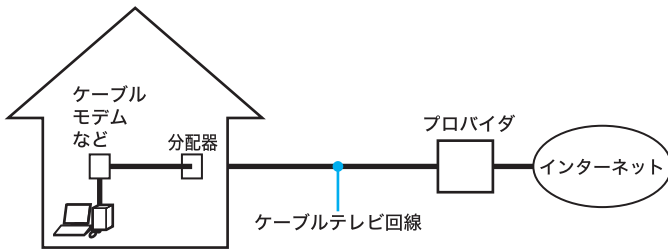
ISDN

NTTのデジタル回線を使ってインターネットに接続します。一般電話回線よりも高速ですが、ADSLよりは低速です。回線の申し込みや、ISDNで接続するための機器(ISDNルータなど)が必要です。なお、ISDNからADSLへ接続方法を切り替える場合は、回線変更の申し込みが必要になります。



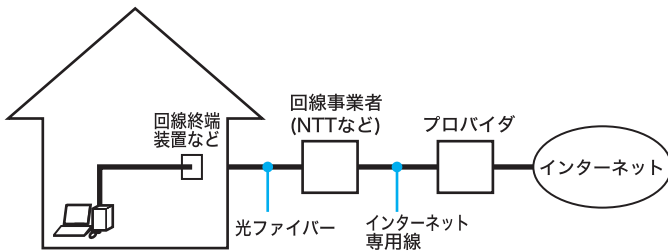
CATVインターネット

ケーブルテレビの回線を使ってインターネットに接続します。多くの場合、ADSLと同程度の速度で接続ができます。ケーブルテレビ局への申し込みが必要で、接続にはケーブルテレビの端末を使います。



光 (FTTH)

光ファイバーケーブルの回線を使ってインターネットに接続します。一般的にADSLより高速に接続できます。回線の申し込みが必要です。



その他、インターネット回線が用意されているマンションや、無線による接続など、特殊な接続方法もあります。詳しくはプロバイダにお問い合わせください。

インターネット接続に必要なものは

世界中の情報に接することのできるインターネットですが、情報を受け取ったり、発信したりするためには接続する回線や機器、専用のソフトウェアが必要になります。

また、電話回線などを通してインターネットにつなぐためにプロバイダと契約する必要があります。

インターネットに接続するために必要な主なものは以下のとおりです。

接続回線

インターネットに接続するための回線には、主に以下のような種類があります。

接続について詳しくは「一般電話回線／ADSL／ISDN／CATVインターネット回線につなぐ」(76ページ)をご覧ください。

回線の種類	解説	お問い合わせ先
一般電話回線	通常の電話が使っている回線です。	プロバイダ
ADSL	ADSLとは「Asymmetric Digital Subscriber Line」の略で、一般電話回線を利用してインターネットに常時接続できるサービスのことです。 ご注意 ISDN回線でADSLを利用することはできません。詳しくは、契約するADSL接続業者にお問い合わせください。	ADSL接続サービスを提供しているプロバイダ
ISDN	NTTのデジタル通信網を使った回線で、1回線で従来の2回線分の通話/通信ができます。	NTT(局番なし116番)
CATVインターネット	CATV事業者が提供するCATVインターネット回線を利用してインターネットに常時接続できるサービスのことです。	CATV事業者
その他	上記のほかに光ファイバーで接続する方法(FTTH)や、外出先などでも接続可能な無線での接続方法などもあります。	プロバイダ NTTなどの回線事業者

インターネット接続サービス(インターネットサービスプロバイダ:ISP)との契約

インターネットにつながるためには、インターネット接続サービスを提供する会社と契約する必要があります。この会社のことを「インターネットサービスプロバイダ」(ISP)または単に「プロバイダ」と言います。

プロバイダはインターネットと本機との間を仲介する役割を持っています。プロバイダと契約すると、インターネットを使って、いろいろな情報が載ったホームページを見ることができます。また、ほとんどのプロバイダでは、「電子メールアドレス」という、あなたの住所のようなものが契約時に用意されます。電子メールアドレスは、電子メールを送受信するときの宛先になります。これらの他に、契約するプロバイダによっていろいろなサービスがあります。

プロバイダと契約すると、サービスに応じた接続料金がかかります。また、プロバイダとの契約条件によっては、接続料金とは別に電話回線の通話料がかかることがあります。

プロバイダについて詳しくは、「付属ソフトウェアのお問い合わせ先」の「ISP サインアップ」(159ページ)をご覧ください。

ご注意

- 本機および付属ソフトウェアの設定によっては、本機の電源を切っている間でも、自動的にインターネットに接続することがあります。自動接続すると、接続を自動的に終了しないことがあります。この場合、通話料と接続料金が多額になる可能性がありますので、ご注意ください。
- インターネットに接続している間は、電話をかけたり、受けたりできないことがあります。

モデム

インターネット上のホームページを見たり、電子メールをやりとりするために電話をかける装置です。回線の種類によって、以下のようなものがあります。

回線の種類	モデムの種類
一般電話回線	モデム(本機内蔵)
ADSL	ADSL モデム(別売り)
ISDN	ISDNダイヤルアップルータ(別売り) または、ターミナルアダプタ(別売り)
CATVインターネット	ケーブルモデム(別売り)

ソフトウェア

インターネットに接続してホームページを見るには専用のソフトウェア（「ウェブブラウザ」と言います。）が必要です。また、電子メールをやりとりするにも専用のソフトウェアが必要です。本機には両方の専用ソフトウェアが付属しています。

本機には以下のウェブブラウザおよび電子メールソフトウェアが付属しています。

□ ウェブブラウザ



Microsoft Internet Explorer

□ 電子メールソフトウェア



Outlook Express

この説明書では、「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアと「Outlook Express」ソフトウェアの設定と使いかたを中心に説明していきます。これらのソフトウェアの特長については、「サイバーサポート」画面上部の タブをクリックし、画面左側にある[付属ソフトご紹介/お問い合わせ先]→[インターネット・メール]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

📶 ワイヤレス LAN での接続について

ワイヤレス LAN 機能を使えば、接続回線とコンピュータの間の接続を無線にすることができます。例えば、部屋の中で接続コードを気にせずコンピュータを移動させてインターネットを楽しんだり、接続コードの長さを気にせずにコンピュータを設置することができます。

ワイヤレス LAN 機能^{*1}を使ってインターネットに接続する場合は、ワイヤレス LAN アクセスポイント^{*2}が必要です。

ワイヤレス LAN アクセスポイントの設定については、ワイヤレス LAN アクセスポイントに付属の取扱説明書をご覧ください。また、外出先などからワイヤレス LAN サービスを利用してインターネットに接続することも可能です。外出先でのインターネット接続をする場合は、対応しているプロバイダや、NTTなどの回線事業者にお問い合わせください。

^{*1} ワイヤレス LAN 機能搭載モデルをお使いの場合は、無線でインターネットに接続できます。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の タブをクリックし、画面左側にある[ワイヤレス機能]→[ワイヤレス LAN]→[ワイヤレス LAN 機能の基礎を学ぶ]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。（ワイヤレス LAN 内蔵モデルのみ）

ワイヤレス LAN を搭載していないモデルをお使いの場合は、ワイヤレス LAN カードなどが必要です。

^{*2} ADSL モデムなどに内蔵されている場合もあります。

インターネット上のトラブルについて

現在一般に普及し、さまざまなサービスを提供しているインターネットですが、普及に伴いトラブルも発生しています。

インターネットは非常に便利なものですが、使いかたを誤ったり、安易な気持ちで使用するとおぼろげなトラブルにあう可能性があります。

インターネット上の情報について

インターネット上の情報はすべてが正しいとは限りません。

ひぼう・中傷・暴力・わいせつなど、情報を受ける側もモラルを持って情報を利用する必要があります。

また、情報を発信する場合もマナーを守って行わないと、気がつかないところで自分が加害者になる恐れもあります。

ユーザー名やパスワードなどは他人に知られないように管理してください。

コンピュータウイルスやチェーンメールなどの被害について

ホームページからダウンロードしたファイルや悪意を持った人たちから突然送られてくる電子メールには、コンピュータウイルス(コンピュータの動作に悪影響を与えるプログラム)が潜んでいたり、チェーンメールなどにより不快な内容の電子メールが送られてくることもあります。

不審な電子メールが送られてきた場合は、安易に開いたり、添付されているプログラムを実行せずに削除してください。

また、できるだけインターネットサービスプロバイダなどに報告して、自分が加害者にならないようにしましょう。

情報の機密性について

ソフトウェアやOSなどの不具合により、コンピュータの情報などがインターネット上にもれ出すことがあります。悪意を持った人たちの標的になりやすいため対応することが必要です。

ウェブブラウザやOSの各ソフトウェアの情報が、開発元のホームページなどに掲載されていますので、不具合情報をこまめに確認することをおすすめします。

また、電子メールには完全な機密性はありません。送信する内容にはご注意ください。

インターネットショッピングでのトラブル

インターネットショッピングをするときに、むやみにクレジットカードの番号を入力しないようにご注意ください。プライバシー情報がもれる可能性があります。

注文した品物と違う、代金を送金したのに品物が届かないなどのトラブルも発生しています。できるだけ信用のおけるところを利用するなどの注意が必要です。

その他

インターネット上で無料で公開されているソフトウェアの中には、国際電話やダイヤルQ2などに接続してしまうものもあります。

知らない間に接続し、課金されている場合がありますのでご注意ください。

- インターネット上での個人情報の公開には細心の注意を払いましょう。
- 社会的に犯罪とされているものはインターネット上でも犯罪です。

インターネットに接続するまでの流れ

インターネットを利用してホームページを見たり、電子メールをやりとりするには、本機をインターネットに接続する必要があります。

以下の流れに従ってインターネットに接続します。ここでは一般電話回線を使ってインターネットに接続する流れを説明します。詳しくは、各手順の参照ページをご覧ください。

ご注意

インターネットに接続するための設定を行うには、「コンピュータの管理者」など、管理者権限を持つユーザーとしてログオンする必要があります。

手順1 電話回線につなぎましょう(76ページ)

本機を電話回線につなぎます。



手順2 プロバイダと契約しましょう(81ページ)

プロバイダと契約します。契約すると、インターネット接続に必要な情報が記載された資料が郵送されてきます。



手順3 チェックシートを作成しましょう(83ページ)

プロバイダから郵送されてきた資料をもとに、チェックシートを作成します。資料の内容など、インターネット接続の設定の際の不明点については、契約したプロバイダにお問い合わせください。(81ページ)

ご注意

郵送されてくるまでしばらく時間がかかります。



手順4 接続のための設定をしましょう
(一般電話回線の場合:89ページ、ADSLの場合:95ページ)

チェックシートをもとに、本機を使ってインターネットに接続するための設定をします。



手順5 電子メールソフトウェアの設定をしましょう
(108ページ)

電子メールを使うときは電子メールを使うための設定をします。



手順6 インターネットに接続してみましよう(99ページ)

契約したプロバイダに接続します。

インターネットに接続したあとは

ホームページを見てみましょう(103ページ)

ホームページを見る練習をします。

電子メールをやりとりしてみましよう(113ページ)

電子メールをやりとりする練習をします。

一般電話回線 / ADSL / ISDN / CATV インターネット回線につなぐ

インターネットに接続するには、一般の電話回線に接続する方法や、ADSLに接続する方法などがあります。ここでは、一般の電話回線での接続方法と、ADSL(79ページ)、ISDN(80ページ)、CATVインターネット(80ページ)での機器の接続について説明します。

一般の電話回線につなぐときは

別売りのテレホンコードを使って本機と一般の電話回線をつなぐと、インターネットを楽しんだり、ファックスを送受信できるようになります。本機の内蔵モデムの通信速度は、データ受信時最大56 kbpsです。データ送信時は最大33.6 kbpsに制限されています。電話回線の状況によって通信速度は変化することがあります。

ご注意

本機の内蔵モデムで使用可能な回線は、一般電話回線です。その他の回線に接続した場合には、故障・発火の原因となることがあります。

1 お使いの電話回線のダイヤル方法(トーン式またはパルス式)を確認する。

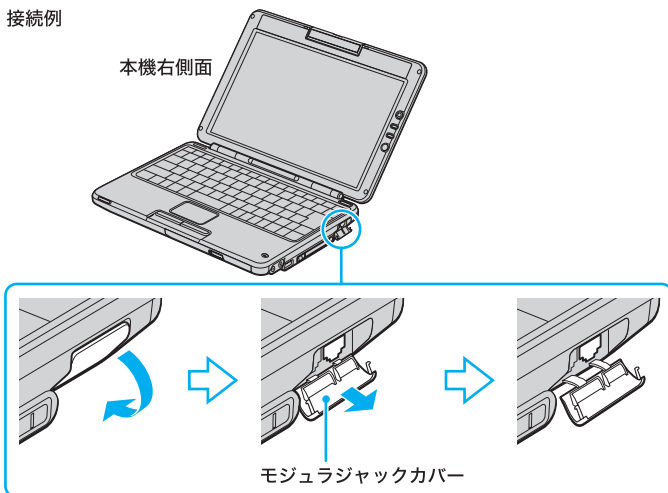
電話機のダイヤルボタンを押すと「ピポパ」と音がし、「カチカチ」という音がしないときはトーン式ダイヤルです。ボタンではなくダイヤルを回す電話機、またはダイヤルボタンを押すたびに「カチカチ」という音がする電話機は、パルス式ダイヤルです。

2 モデムのダイヤル方法を設定する。

- ① [スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックする。
- ② [プリンタとその他のハードウェア]アイコンをクリックする。
- ③ [電話とモデムのオプション]アイコンをクリックする。
「電話とモデムのオプション」画面が表示されます。
- ④ 設定されている所在地をクリックして選び、[編集]をクリックする。
「所在地の編集」画面が表示されます。
該当する所在地がないときは[新規]をクリックすると「新しい所在地」画面が表示されます。
- ⑤ 手順1で確認したお使いの電話回線のダイヤル方法に合わせて
[トーン]または[パルス]を選択する。
- ⑥ ダイヤル元の市外局番を半角の数字で入力する。
外線発信番号が必要な場合は、「市内通話の場合の外線発信番号」と
「市外電話の場合の外線発信番号」ともに入力してください。
- ⑦ [OK]をクリックし、「所在地の編集」画面を閉じる。
- ⑧ [OK]をクリックし、「電話とモデムのオプション」画面を閉じる。

3 モジュラジャックカバーを開けて、少し引っ張り出し、下方向に開く。

接続例

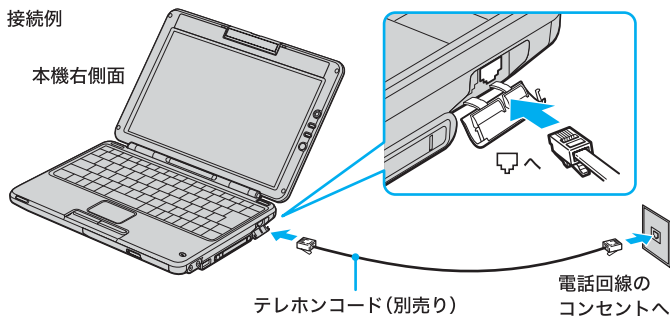


ご注意

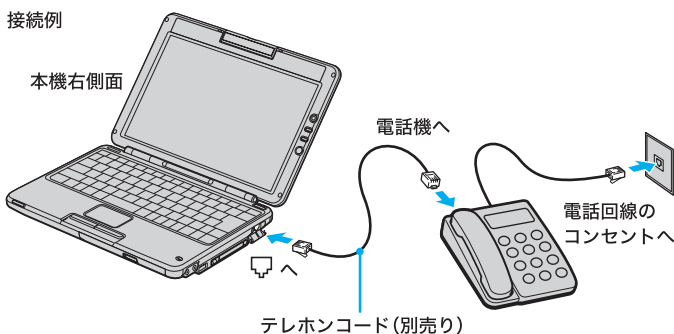
カバーを開く際は、強く引っ張りすぎないようにご注意ください。
引っ張りすぎると破損の原因となります。

4 電話回線につなぐ。



モジュラプラグのツメが「カチッ」とロックするまでまっすぐに差し込みます。



モジュラジャックが2つある電話機をお使いのときは、下図のようにつながります。

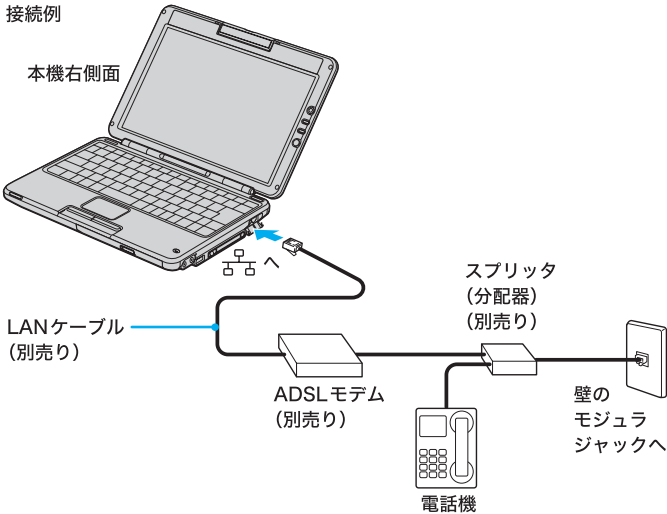


ご注意

- 接続後、お使いになる通信用ソフトウェアで、電話機やファックス、通信方法などの設定をする必要があります。詳しくは、それぞれのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
- 接続する機器によってこの接続例とは異なる場合があります。
- 本機右側面の  (ネットワーク/LAN) コネクタにテレホンコードを接続しないようご注意ください。
- 本機の  (モジュラジャック) にはテレホンコード以外をつながないようご注意ください。

ADSL接続サービスを利用するときは


ADSLとは、「Asymmetric Digital Subscriber Line」の略で、一般電話回線を利用してインターネットに常時接続できるサービスです。このサービスを利用するには、ADSL接続サービスを提供している接続業者（プロバイダ）に申し込み、契約する必要があります。料金やサービスの内容をご検討のうえ、ご自分にあったプロバイダと契約することをおすすめします。プロバイダとの契約については「プロバイダと契約する」（81ページ）をご覧ください。



ご注意

- ADSLの接続や設定に関しては、必ず各プロバイダにお問い合わせください。各プロバイダのお問い合わせについては「付属ソフトウェアのお問い合わせ先」の「ISP サインアップ」をご覧ください。(159ページ)
- プロバイダや接続する機器によってこの接続例とは異なる場合があります。

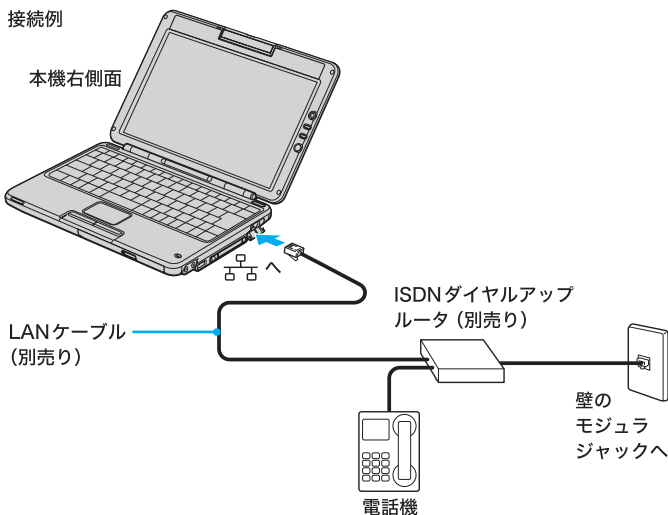


ADSL接続サービスを利用するときや、職場などのネットワーク(LAN)に接続するときは、本機右側面の  (ネットワーク/LAN) コネクタにつなぎます。

ISDN回線を利用するときは

「ISDN回線」とはNTTのデジタル通信網を使った電話回線で、1回線で従来の2回線が使えます。ISDN回線を使って本機を使用するには、本機の他に「ISDNダイヤルアップルータ」や「ターミナルアダプタ」が必要です。

接続例



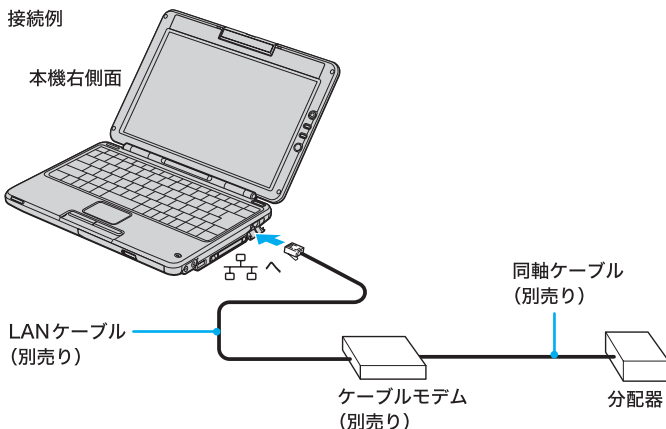
ご注意

接続する機器によってこの接続例とは異なる場合があります。

CATVインターネット回線を利用するときは

CATVインターネットとは、CATV事業者が提供するCATVインターネット回線を利用してインターネットに常時接続できるサービスのことです。CATVインターネット回線を使って本機を使用するためには、本機の他に「ケーブルモデム」が必要です。

接続例



ご注意

CATV事業者や接続する機器によってこの接続例とは異なる場合があります。

プロバイダと契約する

インターネットに接続するには、インターネット接続サービスを提供する会社「プロバイダ」と契約する必要があります。数多くのプロバイダがありますので、料金やサービスの内容をご検討のうえ、ご自分にあったプロバイダと契約することをおすすめします。

本機では、あらかじめ一般の電話回線に接続しておけば、デスクトップ画面上の[インターネット接続サービス]アイコンをダブルクリックし、表示される画面からプロバイダと契約することができます(「オンラインサインアップ」)。各プロバイダのアイコンをクリックし、料金やサービス内容をご確認のうえ、お申し込みください。一般の電話回線への接続については詳しくは、「一般電話回線/ADSL/ISDN/CATVインターネット回線につながる」の「一般の電話回線につながるときは」(76ページ)をご覧ください。また、すでにインターネットをご利用になっていて、ADSLなどのブロードバンド環境への乗りかえをされる場合は、デスクトップ画面上の「ブロードバンドに乗りかえよう！」アイコンをダブルクリックしてお申し込みください。



- デスクトップ画面上の[インターネット接続サービス]アイコンをダブルクリックしたあとに、特定のプロバイダの紹介画面が最初に表示されます。その他のプロバイダの紹介をご覧になるときは、現在のネットワーク環境に応じて[インターネットを始める方]または[ブロードバンドへ乗りかえの方]をクリックしてください。
- 各プロバイダの紹介は「付属ソフトウェアのお問い合わせ先」の「ISP サインアップ」(159ページ)をご覧ください。
- 各プロバイダの詳細については付属の「できるインターネット プロバイダ選び編」もあわせてご覧ください。

ご注意

- 契約時にクレジットカードが必要になるプロバイダもあります。
- 接続料金はプロバイダにより異なります。

プロバイダと契約したあとは

契約後は、契約内容とインターネットに接続するために必要な情報が記載された資料が、プロバイダからお手元に郵送されてくるまでお待ちください。すぐにインターネットに接続したいときは、契約するプロバイダにご相談ください。

ご注意

接続や設定に関しては、必ず各プロバイダにお問い合わせください。

各プロバイダのお問い合わせについては「付属ソフトウェアのお問い合わせ先」の「ISP サインアップ」(159ページ)をご覧ください。

以下のネットワークサービス各社は「VAIO Solution Partner」として、「With You Call」「VAIO Media」に、より適した接続サービスメニューを提供しています。

(2003年10月末日現在の参加ネットワーク接続サービス、アルファベット順(参加予定含む))

- AOL(株式会社ドコモAOL)
- @nifty(ニフティ株式会社)
- BIGLOBE(日本電気株式会社)
- DION(KDDI株式会社)
- ホットスポット(NTTコミュニケーションズ株式会社)
- OCN(NTTコミュニケーションズ株式会社)
- ODN(日本テレコム株式会社)
- ぶらら(株式会社ぶららネットワークス)
- So-net(ソニーコミュニケーションネットワーク株式会社)
- Yahoo! BB(ヤフー株式会社、ソフトバンクBB株式会社)

チェックシートを作成する

プロバイダと契約を結ぶと、通常、インターネットに接続するために必要な情報が記載された資料が郵送されてきます。

その資料をもとにインターネットに接続するための設定をします。

プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になりながら、次ページのチェックシートをコピーするなどして、あらかじめ作成しておく、「接続のための設定をする」(一般電話回線の場合:89ページ、ADSLの場合:95ページ)および「電子メールソフトウェアの設定をする」(108ページ)の手順でインターネットに接続するための設定が簡単になります。

「設定項目について」(85ページ)からの説明に従ってチェックシートの各項目をご記入ください。

ご注意

- ADSLの接続や設定に関しては、必ず各プロバイダにお問い合わせください。
- チェックシートに書き込む内容は、あなたの個人情報です。取り扱いには充分ご注意ください。
- チェックシートは、将来、再度設定し直さなければならないときなどにも活用できますので、チェックシートは大切に保管しておいてください。
- 他人にご自分のパスワードなどの情報がもれないようにご注意ください。パスワードは、他人に自分の名前が使われたり、電子メールを読まれたりしないようにするためのものです。できるだけ紙に書き留めず、記憶しておくことをおすすめします。
- 「(4)パスワード(PPP)」はプロバイダに電話回線を通じて接続できるようにするためのパスワードです。「(14)パスワード(POPアカウントパスワード)」は電子メールを受信できるようにするためのパスワードです。これらのパスワードは両方とも同じでも、別々でもかまいません(プロバイダによって、自由に設定できる場合と、プロバイダが規定する場合があります)。



- チェックシートをコピーするなどしたうえで各項目を記入し、他人に見られないことがないように、厳重に保管することをおすすめします。
- チェックシートをコピーするなどして記入しておく、「接続のための設定をする」(一般電話回線の場合:89ページ、ADSLの場合:95ページ)の手順を行うときに便利です。

設定項目	あなたの設定値	例 (So-netの場合)
(1) ダイヤルアップ接続名		So-net
(2) 電話番号 (アクセスポイント)		0570-00-1616
(3) ユーザー名 (PPP)		ichiro@aa2
(4) パスワード (PPP)		
(5) 市外局番		03
(6) トーン/パルス (電話回線の種類)		
(7) DNSサーバーアドレス (プライマリDNS)	. . .	202.238.95.24
(8) 別のDNSサーバーアドレス (セカンダリDNS)	. . .	202.238.95.26
(9) 表示名 (差出人フィールド での表示)		Ichiro Suzuki
(10) 電子メールアドレス	@	ichiro@aa2.so-net.ne.jp
(11) 受信メール (POP3、IMAPまたはHTTP) サーバー		pop.aa2.so-net.ne.jp
(12) 送信メール (SMTP) サーバー		mail.aa2.so-net.ne.jp
(13) POPアカウント名		ichiro
(14) パスワード (POPアカウントパスワード)		
(15) インターネットメール アカウント名		ichiro@aa2.so-net.ne.jp

記入内容がわからないときは契約したプロバイダにお問い合わせください。



「(7)DNSサーバーアドレス(プライマリDNS)」、「(8)別のDNSサーバーアドレス(セカンダリDNS)」、「(11)受信メール(POP3、IMAPまたはHTTP)サーバー」、「(12)送信メール(SMTP)サーバー」は、プロバイダによっては設定しなくてよいことがあります。

設定項目について

(1) ダイアルアップ接続名

デスクトップ画面左下の[スタート]ボタンをクリックして、[接続]にポインタを合わせ、[すべての接続の表示]をクリックして表示される「ネットワーク接続」画面の中の接続アイコンの名前です。

お好みの名前をご記入ください。

例: So-net



- プロバイダによっては、オンラインサインアップソフトウェアを使って契約すると自動的に接続アイコンが作られ、名前も付けられます。
- 接続アイコンをデスクトップ画面上に作ることもできます。(91ページ)

(2) 電話番号(アクセスポイント)

プロバイダから送られてきた資料をご覧くださいになり、プロバイダのアクセスポイントの電話番号(接続先の電話番号)をご記入ください。アクセスポイントは「V.90」に対応しているものをお選びになると、より高速な通信ができます。

例: 0570-00-1616

ご注意

- ここで記入する電話番号はご自分の電話番号ではありませんのでご注意ください。
- 電話番号は必ず市外局番からご記入ください。
- ISDN回線をお使いの場合やPHSを使ってインターネットに接続するとき、電話番号が異なる場合があります。詳しくは、契約したプロバイダにお問い合わせください。

(3) ユーザー名(PPP)

プロバイダから郵送されてきた資料をご覧くださいになり、プロバイダにダイアルアップ接続するとき使用するユーザー名をご記入ください。

例: ichiro@aa2



ユーザー名は「ユーザーID」、「PPPログイン名」、「ネットワークID」、「接続ログイン名」、「アカウント名」、「ログオン名」などともいいます。

(4) パスワード(PPP)

プロバイダから郵送されてきた資料をご覧くださいになり、プロバイダにダイアルアップ接続するとき使用する、ユーザー名に対するパスワードを記入します。



- このパスワードは「PPPパスワード」、「ネットワークパスワード」、「接続パスワード」などともいいます。
- パスワードの入力は、一般的に半角の英数字や記号などを使います。

(5) 市外局番

ご自分の電話番号の市外局番をご記入ください。

例:03

(6) トーン/パルス(電話回線の種類)

お使いの電話回線のダイヤル方法がトーン式かパルス式か確認してご記入ください。

トーン式:

電話機のダイヤルボタンを押すと「ピポパ」と音がし、「カチカチ」と音がしない電話機のダイヤル方法です。

パルス式:

ボタンではなくダイヤルを回す電話機、またはダイヤルボタンを押すたびに「カチカチ」と音がする電話機のダイヤル方法です。パルス式ダイヤルの場合、ダイヤルボタンを押すと受話器から電子音が聞こえるものもあります。

お使いの電話回線のダイヤル方法がわからない場合は、NTTなど電話会社から送られてくる請求内訳表をご覧ください。請求内訳表の中に「ブッシュ回線使用料」と記載されている場合は「トーン式ダイヤル」です。回線(基本)使用料のみ記載されている場合は「パルス式ダイヤル」です。電話回線のダイヤル方法について詳しくは、NTT(局番なしの116番)など電話会社にお問い合わせください。

(7) DNSサーバーアドレス(プライマリDNS)

プロバイダから郵送されてきた資料をご覧ください。ご記入ください。

例:202.238.95.24



- DNSサーバーは「ネームサーバー」、「プライマリDNSサーバー」、「プライマリネームサーバー」、「ドメインネームサーバー」ともいいます。
- この項目が必要ないプロバイダもあります。詳しくは、プロバイダから郵送されてきた資料をご覧ください。契約したプロバイダにお問い合わせください。

(8) 別のDNSサーバーアドレス(セカンダリDNS)

上記の「(7)DNSサーバーアドレス」以外のアドレスがプロバイダから郵送されてきた資料に書かれている場合はご記入ください。

DNSサーバーアドレスは1つだけのプロバイダもあります。この場合は、「(8)別のDNSサーバーアドレス」は空欄のままかまいません。

例:202.238.95.26

(9) 表示名(差出人フィールドでの表示)

あなたが送る電子メールの差出人欄に表示する名前をお好みでご記入ください。通常はご自分の名前のフルネームにします。

例: Ichiro Suzuki



この表示名は全角の漢字でも良いですが、日本語圏以外の相手に電子メールを送ることが多いかたは半角のアルファベットにすることをおすすめします。こうすることによって電子メールを送った相手には「Ichiro Suzuki <ichiro@aa2.so-net.ne.jp>」などと表記されます。

(10) 電子メールアドレス

電子メールをやりとりするときのあなたの宛先をご記入ください。プロバイダから郵送されてきた資料には「xxxxx@xxxx.xx.xx」と記載されています。電子メールアドレスは、あなたの住所と同じ役割をします。

例: ichiro@aa2.so-net.ne.jp



電子メールアドレスは、「E-Mailアドレス」、「Mailアドレス」、「メールアドレス」などともいいます。

(11) 受信メール(POP3、IMAPまたはHTTP)サーバー

プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になり、電子メールを受け取るサーバーのアドレスをご記入ください。受信メールサーバーは、郵便局のような役割をします。受信メールサーバーからあなたの電子メールアドレスに電子メールが送られます。

例: pop.aa2.so-net.ne.jp



- 受信メールサーバーは、「メールサーバー」、「POPサーバー」、「メール受信サーバー」、「POP3」などともいいます。
- この項目が自動的に設定されるプロバイダもあります。詳しくは、プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になるか、契約したプロバイダにお問い合わせください。

(12) 送信メール(SMTP)サーバー

プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になり、電子メールを送信するサーバーのアドレスをご記入ください。送信メールサーバーも郵便局のような役割をします。あなたが送った電子メールを受け取り、送り先の電子メールアドレスに送ります。

例:mail.aa2.so-net.ne.jp



- 送信メールサーバーは「メールサーバー」、「SMTPサーバー」、「メール送信サーバー」、「SMTP」などともいいます。「(11)受信メールサーバー」と同じ場合もあります。
- この項目が自動的に設定されるプロバイダもあります。詳しくは、プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になるか、契約したプロバイダにお問い合わせください。

(13) POPアカウント名

プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になり、受信メールサーバーにアクセスするためのアカウント名をご記入ください。「(10)電子メールアドレス」の「@」(アットマーク)より前の部分を記入します。電子メールを見るためには、このアカウント名と「(14)パスワード」の両方が必要になります。

例:「ichiro@aa2.so-net.ne.jp」が電子メールアドレスなら、POPアカウント名は「ichiro」になります。



POPアカウント名は「メールアカウント名」、「メールサーバーログイン名」、「メールログイン名」、「POPサーバーアカウント」、「POPサーバーログイン名」ともいいます。「(3)ユーザー名」と同じ場合もあります。

(14) パスワード(POPアカウントパスワード)

受信メールサーバーにアクセスするためのアカウント名に対するパスワードを半角の英数字でご記入ください。

電子メールを見るためには、「(13)POPアカウント名」とこのパスワードの両方が必要になります。



このパスワードは、「メールパスワード」、「メールサーバーパスワード」などともいいます。

(15) インターネットメールアカウント名

お好みの名前をご記入ください。わかりやすいように電子メールアドレスを入れることをおすすめします。

例:ichiro@aa2.so-net.ne.jp

接続のための設定をする(一般電話回線の場合)

本機をインターネットに接続するための設定を行います。ここでは、本機の内蔵モデムを使って一般電話回線に接続し、インターネットにダイヤルアップ接続するための設定方法を説明します。

「チェックシートを作成する」(83ページ)で作成したチェックシートをご覧になりながら、各項目に記入した内容を実際の画面の入力欄にキーボードを使って入力していきます。以下の手順に従って操作してください。

ご注意

ADSLでの設定に関しては、必ず各プロバイダにお問い合わせください。ADSLでの設定については「接続のための設定をする(ADSLの場合)」(95ページ)をご覧ください。また、各プロバイダにお問い合わせについては「付属ソフトウェアのお問い合わせ先」の「ISP サインアップ」(159ページ)をご覧ください。

1 デスクトップ画面左下の[スタート]ボタンをクリックして、[インターネット]をクリックする。

「新しい接続ウィザードの開始」画面が表示されます。



接続のための設定が終わったあとは[スタート]→[インターネット]をクリックすると、「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアが起動するようになります。もう1度「新しい接続ウィザード」を表示させたいときは、デスクトップ画面左下の[スタート]ボタンをクリックして[すべてのプログラム]にポインタを合わせ、[アクセサリ]、[通信]、[新しい接続ウィザード]の順にクリックします。

2 [次へ]をクリックする。

「ネットワーク接続の種類」画面が表示されます。

3 [インターネットに接続する]の ○ をクリックして ● にし、[次へ]をクリックする。

「準備」画面が表示されます。

4 2番目の[接続を手動でセットアップする]の ○ をクリックして ● にし、[次へ]をクリックする。

「インターネット接続」画面が表示されます。

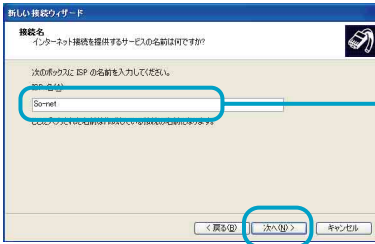


Windows XP アップグレードサービスをご利用の場合など、すでにプロバイダのインターネットサーバーに接続したことがあるときは、[インターネットサービスプロバイダ(ISP)の一覧から選択する]の ○ をクリックして ● にし、[次へ]をクリックしてください。そのあとは、画面の指示に従って操作してください。

5 [ダイヤルアップ モデムを使用して接続する]の ○ をクリックして ● にし、[次へ]をクリックする。

「接続名」画面が表示されます。

6 「ISP名」(ダイヤルアップ接続名)を入力し、[次へ]をクリックする。



チェックシートの (1) ダイヤルアップ接続名を入力する。

ここをクリックする。

「ダイヤルする電話番号」画面が表示されます。

7 アクセスポイントの電話番号を入力し、[次へ]をクリックする。

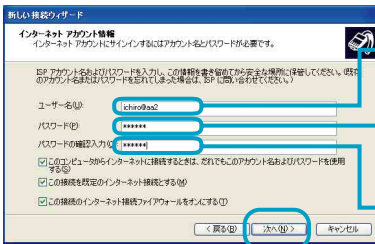


チェックシートの (2) 電話番号 (アクセスポイント)を入力する。

ここをクリックする。

「インターネット アカウント情報」画面が表示されます。

8 ユーザー名とパスワードを入力し、「パスワードの確認入力」に同じパスワードを再度入力してから、[次へ]をクリックする。



チェックシートの (3) ユーザー名 (PPP) を入力する。

チェックシートの (4) パスワード (PPP) を入力する。

チェックシートの (4) パスワード (PPP) を再度入力する。

ここをクリックする。

「新しい接続ウィザードの完了」画面が表示されます。



「パスワード」はパスワードの文字数と同じ数の「*」で表示されます。

9 [完了]をクリックする。

「新しい接続ウィザード」が終了します。



「新しい接続ウィザードの完了」画面の「この接続へのショートカットをデスクトップに追加する」にチェックしておく、デスクトップ画面上にダイヤルアップ接続のアイコンが作られます。

10 デスクトップ画面左下の[スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックする。

「コントロール パネル」画面が表示されます。



手順 11 および 12 の「コントロール パネル」画面での操作は、お買い上げ時の状態のものです。

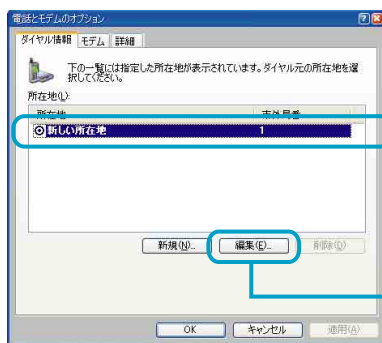
11 [プリンタとその他のハードウェア]アイコンをクリックする。

「プリンタとその他のハードウェア」画面が表示されます。

12 [電話とモデムのオプション]アイコンをクリックする。

「電話とモデムのオプション」画面が表示されます。

13 設定されている所在地をクリックして選び、[編集]をクリックする。



ここをクリックして選ぶ。

ここをクリックする。

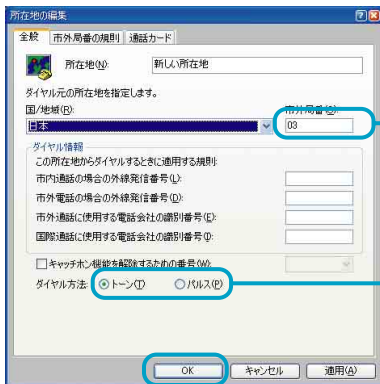
「所在地の編集」画面が表示されます。



該当する所在地がないときは[新規]をクリックしてください。「新しい所在地」画面が表示されます。

14 各項目を以下のように設定し、[OK]をクリックする。

- **市外局番**:ダイヤル元の市外局番を半角の数字で入力する。
外線発信番号が必要な場合は、「市内通話の場合の外線発信番号」と「市外通話の場合の外線発信番号」ともに入力してください。
- **ダイヤル方法**:お使いの電話回線のダイヤル方法に合わせて[トーン]または[パルス]をクリックして選ぶ。



チェックシートの (5)
市外局番を入力する。

ここをクリックして選ぶ。
(チェックシート (6)
トーン/パルス
(電話回線の種類))

ここをクリックする。

15 「電話とモデムのオプション」画面の[OK]をクリックする。

16 デスクトップ画面左下の[スタート]ボタンをクリックして[接続]にポインタを合わせ、[すべての接続の表示]をクリックする。

「ネットワーク接続」画面が表示されます。



以下の方法でも「ネットワーク接続」画面を表示することができます(お買い上げ時のウィンドウの設定の場合)。

デスクトップ画面左下の[スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックする。表示された「コントロール パネル」画面で[ネットワークとインターネット接続]アイコンをクリックする。表示された「ネットワークとインターネット接続」画面で[ネットワーク接続]アイコンをクリックする。

17 ダイヤルアップ接続(チェックシートの(1))のアイコンをダブルクリックする。

So-netの例では[So-net]をダブルクリックします。

「So-netへ接続」画面が表示されます。

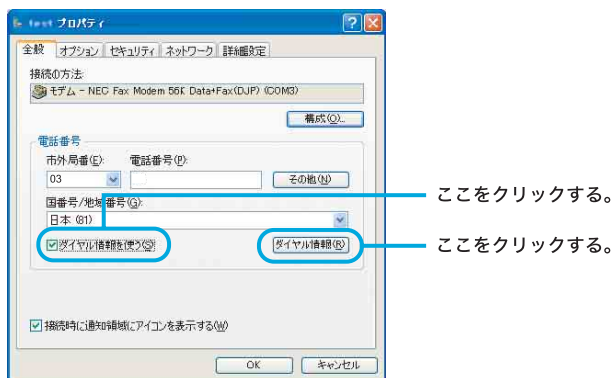


手順9で、「新しい接続ウィザードの完了」画面の「この接続へのショートカットをデスクトップに追加する」にチェックしておく、デスクトップ画面にダイヤルアップ接続のアイコンが作られます。これをダブルクリックして、手順18に進むこともできます。

18 [プロパティ]をクリックする。

ダイヤルアップ接続名のプロパティ画面が表示されます。

19 [ダイヤル情報を使う]の をクリックして にし、[ダイヤル情報]をクリックする。



「電話とモデムのオプション」画面が表示されます。

20 複数の所在地があるときは、「所在地」から設定されている所在地をクリックして選ぶ。

21 「電話とモデムのオプション」画面の[OK]をクリックする。

手順22～25は、チェックシートに「(7) DNSサーバーアドレス(プライマリDNS)」および「(8)別のDNSサーバーアドレス(セカンダリDNS)」を記入した場合(プロバイダから郵送されてきた資料にDNSサーバーアドレスが記入されている場合)のみ操作を行ってください。

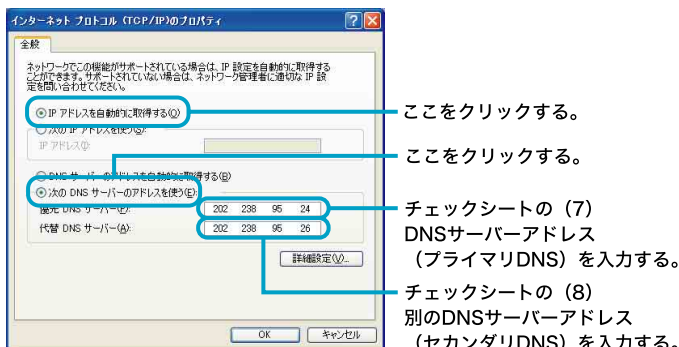
22 [ネットワーク]タブをクリックする。

23 「この接続は次の項目を使用します」で[インターネット プロトコル(TCP/IP)]をクリックし、[プロパティ]をクリックする。

「インターネット プロトコル(TCP/IP)のプロパティ」画面が表示されます。

24各項目を以下のように設定する。

- [IPアドレスを自動的に取得する]をクリックする。
- [次のDNSサーバーのアドレスを使う]をクリックし、DNSサーバーアドレスを入力する。



「(7) DNSサーバーアドレス(プライマリDNS)」と「(8) 別のDNSサーバーアドレス(セカンダリDNS)」は同じ場合があります。このときは「代替DNSサーバー」には入力する必要はありません。

25[OK]をクリックする。

「インターネット プロトコル(TCP/IP)のプロパティ」画面が閉じます。

26ダイヤルアップ接続名のプロパティ画面で[OK]をクリックする。

ダイヤルアップ接続名のプロパティ画面が閉じます。

27「(ダイヤルアップ接続名)へ接続」画面で[キャンセル]をクリックする。

「(ダイヤルアップ接続名)へ接続」画面が閉じます。

これでインターネット接続のための設定は終わりです。

接続のための設定をする(ADSLの場合)

本機をインターネットに接続するための設定を行います。ここでは、ADSLモデムを使ってADSL回線に接続し、インターネットに接続するための設定方法を説明します。

「チェックシートを作成する」(83ページ)で作成したチェックシートをご覧になりながら、各項目に記入した内容を実際の画面の入力欄にキーボードを使って入力していきます。以下の手順に従って操作してください。

ADSLモデムについて

ADSLに必要なADSLモデムには、一般的に下記の2タイプがあります。

①ブリッジタイプのADSLモデム

→コンピュータとADSLモデムを接続し、コンピュータ側で設定(PPPoEの設定)を行います。

②ルータータイプのADSLモデム

→コンピュータとADSLモデムを接続し、ルーターの設定を行います。

ご注意

- ADSLでの設定に関しては、必ず各プロバイダにお問い合わせください。各プロバイダのお問い合わせについては「付属ソフトウェアのお問い合わせ先」の「ISP サインアップ」(159ページ)をご覧ください。
- ISDN回線でADSLを利用することはできません。詳しくは、契約するADSL接続業者にお問い合わせください。

ここでは、①のブリッジタイプのADSLモデムを使った一般的な設定のしかたについて説明します。

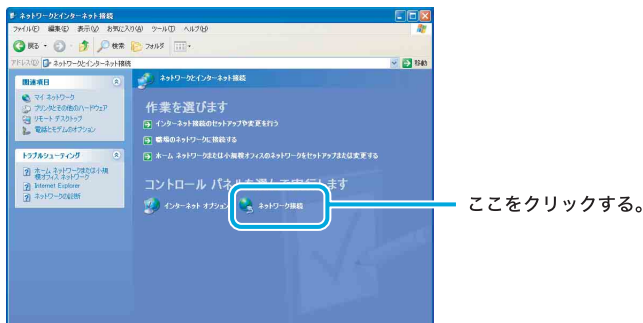
1 デスクトップ画面左下の[スタート]ボタンをクリックして、[コントロールパネル]をクリックする。

「コントロールパネル」画面が表示されます。

2 「コントロールパネル」画面で[ネットワークとインターネット接続]をクリックする。

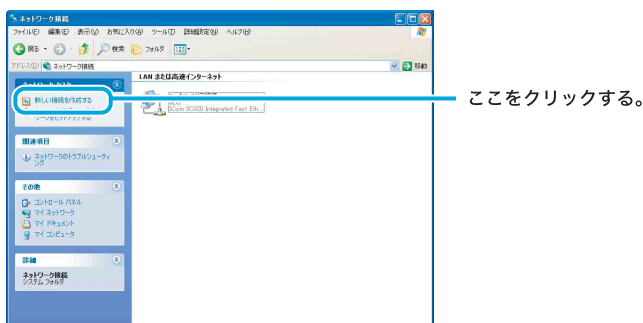
「ネットワークとインターネット接続」画面が表示されます。

3 「ネットワークとインターネット接続」画面で[ネットワーク接続]をクリックする。



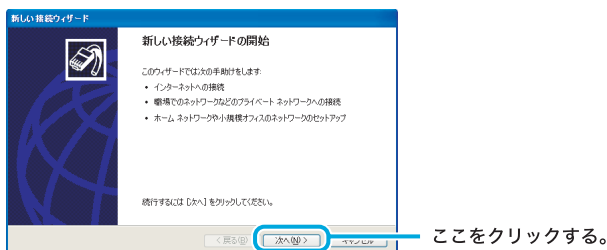
「ネットワーク接続」画面が表示されます。

4 「ネットワーク接続」画面の「ネットワークタスク」から[新しい接続を作成する]をクリックする。



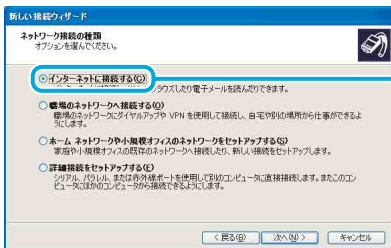
「新しい接続ウィザードの開始」画面が表示されます。

5 「新しい接続ウィザードの開始」画面で[次へ]をクリックする。



「ネットワークの接続の種類」画面が表示されます。

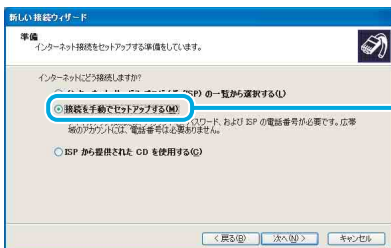
- 6 「ネットワーク接続の種類」画面で[インターネットに接続する]の ○ をクリックして ● にし、[次へ]をクリックする。



ここをクリックする。

「準備」画面が表示されます。

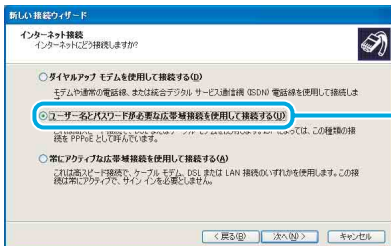
- 7 「準備」画面で[接続を手動でセットアップする]の ○ をクリックして ● にし、[次へ]をクリックする。



ここをクリックする。

「インターネット接続」画面が表示されます。

- 8 「インターネット接続」画面で[ユーザー名とパスワードが必要な広帯域接続を使用して接続する]の ○ をクリックして ● にし、[次へ]をクリックする。



ここをクリックする。

「接続名」画面が表示されます。

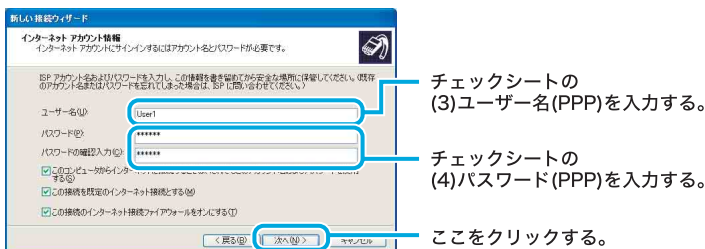
9 「接続名」画面で「ISP名」にご契約のADSL接続業者の名前を入力し、[次へ]をクリックする。



「インターネット アカウント情報」画面が表示されます。

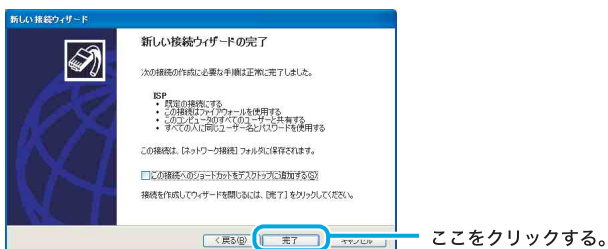
なお、お使いの環境によっては「インターネット アカウント情報」画面が表示される前に、「接続の利用範囲」画面が表示されることがあります。その場合は、接続を利用するユーザーを選んでから[次へ]をクリックしてください。

10 「インターネット アカウント情報」画面でユーザー名、パスワードをご契約のADSL接続業者から指定されている情報で入力し、「パスワードの確認入力」に同じパスワードを再度入力してから、[次へ]をクリックする。



「新しい接続ウィザードの完了」画面が表示されます。

11 [完了]をクリックする。



「新しい接続ウィザードの完了」画面が閉じます。

これでADSLでPPPoEを使用してインターネットに接続するための設定は終わりです。

インターネットに接続する(一般電話回線の場合)

契約したプロバイダのインターネットサーバーに一般電話回線を使用して接続するには、以下の手順に従って操作してください。

ご注意

ADSLの接続や設定に関しては、必ず各プロバイダにお問い合わせください。

各プロバイダのお問い合わせについては「付属ソフトウェアのお問い合わせ先」の「ISP サインアップ」(159ページ)をご覧ください。

1 デスクトップ画面左下の[スタート]ボタンをクリックして[接続]にポインタを合わせ、[すべての接続の表示]をクリックする。

「ネットワーク接続」画面が表示されます。



以下の方法でも「ネットワーク接続」画面を表示することができます(お買い上げ時のウィンドウの設定の場合)。

① デスクトップ画面左下の[スタート]ボタンをクリックして、[コントロールパネル]をクリックする。

「コントロールパネル」画面が表示されます。

② [ネットワークとインターネット接続]アイコンをクリックする。

「ネットワークとインターネット接続」画面が表示されます。

③ [ネットワーク接続]アイコンをクリックする。

2 ダイヤルアップ接続(チェックシートの(1))のアイコンをダブルクリックする。

So-netの例では[So-net]をダブルクリックします。

「So-netへ接続」画面が表示されます。



「接続のための設定をする(一般電話回線の場合)」(89ページ)の手順9で、「新しい接続ウィザードの完了」画面の「この接続へのショートカットをデスクトップに追加する」にチェックしておく、デスクトップ画面上にダイヤルアップ接続のアイコンが作られます。これをダブルクリックして、手順3に進むこともできます。

3 「So-netへ接続」画面の各項目を入力または確認する。

①パスワード(チェックシートの(4))を入力する。



So-net へ接続

ユーザー名(U): ichiro@aa2

パスワード(P): *****

次のユーザーが接続するとき使用するために、このユーザー名とパスワードを保存する(S):

このユーザーのみ(O)

このコンピュータを使うすべてのユーザー(A)

ダイヤル(D): 0570-00-1616

ダイヤル(D) キャンセル フォアティ(O) ヘルプ(H)

チェックシートの(4)パスワード(PPP)を入力する。

ご注意

「次のユーザーが接続するとき使用するために、このユーザー名とパスワードを保存する」の をクリックして に、「このユーザーのみ」の をクリックして にすると次回からパスワードを入力する手間が省けます。「このコンピュータを使うすべてのユーザー」の をクリックして にすると、他人に勝手にインターネットに接続される恐れがありますのでご注意ください。



- 「パスワード」(チェックシートの(4)パスワード(PPP))は「*」で表示されます。
- 「パスワード」入力欄は、「電子メールソフトウェアの設定をする」(108ページ)の手順5で、「パスワードを保存する」の をクリックして にすると、入力された状態が表示されます。

②ユーザー名(チェックシートの(3))が正しいか確認する。



So-net へ接続

ユーザー名(U): ichiro@aa2

パスワード(P): *****

次のユーザーが接続するとき使用するために、このユーザー名とパスワードを保存する(S):

このユーザーのみ(O)

このコンピュータを使うすべてのユーザー(A)

ダイヤル(D): 0570-00-1616

ダイヤル(D) キャンセル フォアティ(O) ヘルプ(H)


ここを確認する。

③[ダイヤル]をクリックする。


プロバイダのインターネットサーバーに接続します。

「(ダイヤルアップ接続名)は現在接続しています。」画面が表示されたときは、[OK]をクリックします。

[OK]をクリックする前に[今後、このメッセージを表示しない]をチェックしておけば、次回からこの画面は表示されません。

デスクトップ画面右下には  が表示されます。

これで、接続は完了です。



インターネットに接続しているときは、常にデスクトップ画面右下に  が表示されます。

- ホームページを見るには
「ホームページを見る」(103ページ)をご覧ください。
- 電子メールをやりとりするには
「電子メールをやりとりする」(113ページ)をご覧ください。
- 接続を切断するときは
「接続を切断するには」(102ページ)をご覧ください。
- 接続できなかった場合は
「よくあるトラブルと解決方法:インターネット/電子メール」(203ページ)をご覧ください。


接続を切断するには

一般電話回線やISDNなどで、プロバイダと契約した内容によっては、インターネットに接続している間は、ホームページを見たり、電子メールをやりとりするなどの操作を行っていないときでも通話料やプロバイダへの接続料金がかかることがあります。また、「Microsoft Internet Explorer」や「Outlook Express」ソフトウェアを終了しても、インターネットへの接続は解除されません。操作を行わないときや操作が終わった後などは、インターネットの接続を切断してください。

接続を切断するには、以下の3つの方法があります。



- デスクトップ画面右下の  を右クリックして表示されるメニューから[切断]をクリックする。
- デスクトップ画面右下の  をダブルクリックして表示される「自動切断」画面で[今すぐ切断する]をクリックする。
- 通信用ソフトウェアで、通信を終了するコマンドを実行する。



- 電子メールを書いているときや電子メールを受け取った後に読むときは、インターネットの接続を切断しておけば接続料金はかかりません(オフライン作業)。
- ワイヤレスLAN機能などを同時に使用していると、デスクトップ画面右下の通知領域に  が複数表示されます。
アイコンにポインタを当てて接続しているアイコン名を確認してから切断してください。
- ADSLやCATVインターネットについては、基本的に常時接続となりますので、特に接続を切断しなくても問題ありません。

ホームページを見る

インターネット上のホームページを見てみます。ホームページを見るには、「ウェブブラウザ」という専用ソフトウェアが必要です。ここでは、付属の「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを使ってホームページを見てみます。

以下の操作をする前に、デスクトップ画面右下の  が表示されていることを確認してください。表示されていれば、インターネットに接続しています。インターネットに接続していない場合は、下記の操作を行うと、「新しい接続ウィザード」が起動します。「インターネットに接続する(一般電話回線の場合)」(99ページ)の手順に従い、インターネットに接続し、 を表示させてください。

[1] 「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを起動する

まず「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを起動します。

1 デスクトップ画面左下の[スタート]ボタンをクリックして、[インターネット]をクリックする。

「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアが起動し、ホームページが表示されます。

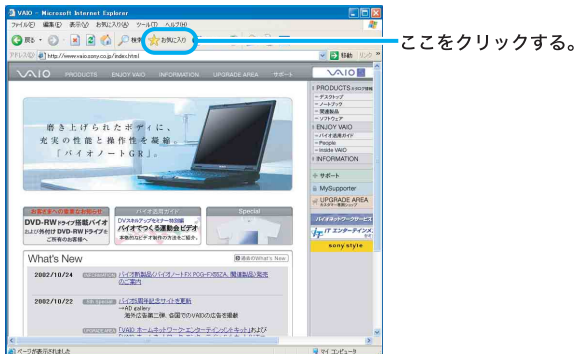
ご注意

「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを起動したときに表示されるホームページは各自の設定により異なります。設定のしかたについては、「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

[2] 「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアにあらかじめ登録されているホームページを見る

「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアにあらかじめ登録されているホームページを見ることができます。ここでは、VAIOカスタマーリンクのホームページを見てみましょう。

1 画面上部の【お気に入り】をクリックする。



メニューが表示されます。

2 【バイオを楽しむためのサイト】にポインタを合わせ、【VAIOホームページ】→【SUPPORT(サービス・サポート情報)】の順にクリックする。

VAIOカスタマーリンクのホームページが表示されます。

[3] ホームページのURLを入力してホームページを見る


見たいホームページのURLをすでにご存知の場合は、アドレスバーにそのURLを入力します。

ここでは、VAIOカスタマーリンクのホームページ(<http://vcl.vaio.sony.co.jp/>)を見てみます。

1 アドレスバーに「<http://vcl.vaio.sony.co.jp/>」と入力する。



☺ 「~」(チルダ)を入力するには

URLの中には「~」(チルダ)という特殊な記号を入力するものがあります。「~」(チルダ)を入力するには、MS-IME ツールバーで「半角英数」または「直接入力」を選び、Shift(シフト)キーを押しながら  キーを押します。

2 キーボードのEnter(エンター)キーを押す。

VAIOカスタマーリンクのホームページが表示されます。

[4] リンクをたどる



ホームページから他のホームページにジャンプしたり、データをインターネット上から本機にコピーすることができます。このように、ホームページから、他のページにジャンプしたり、データにジャンプすることを「リンクする」と言います。

ここでは、VAIOカスタマーリンクのホームページから、ENJOY VAIOのホームページにジャンプしてみましょう。

1 マウスやタッチパッドなどを使って (ポインタ)を [ENJOY VAIO]に移動して、 に変わったらクリックする。

ENJOY VAIOのホームページが表示されます。



ホームページの中で、 (ポインタ)が  に変わる文字や画像は、リンクが張られているところです。

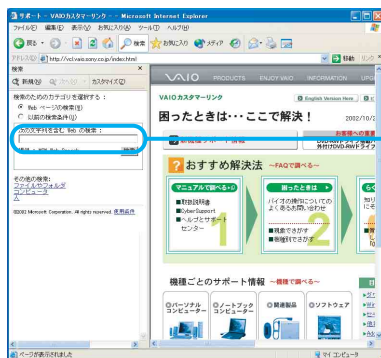
[5] 目的のホームページを検索して見る

目的のホームページを「検索」メニューで検索することができます。ここでは「VAIO」を検索してみましょう。

1 ツールバーの[検索]をクリックする。

検索画面が表示されます。

2 検索画面の中央上にある の中に「VAIO」と入力する。

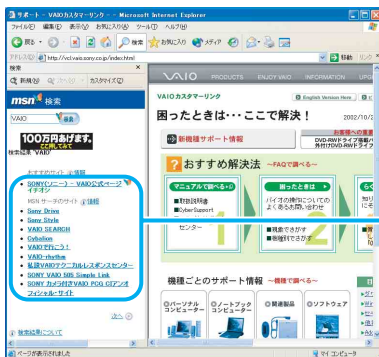


ここに「VAIO」と入力する。

3 [サーチ]をクリックする。

該当するホームページの検索結果が一覧表示されます。

4 見たいホームページをクリックする。



見たいホームページをクリックする。

クリックしたホームページが表示されます。

[6] よく見るホームページを登録する

よく見るホームページを「お気に入り」メニューの中に登録することができます。

ここではSony Japanのホームページを登録してみましょう。



Sony Japanはインターネット上のソニーエレクトロニクスとエンターテインメントのホームページです。

1 アドレスバーに「http://www.sony.co.jp/」と入力する。



ここに入力する。

2 キーボードのEnter(エンター)キーを押す。

Sony Japanのホームページが表示されます。

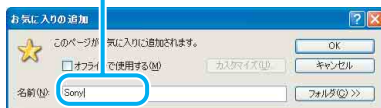
3 メニューバーの[お気に入り]をクリックし、次に[お気に入りに追加]をクリックする。

「お気に入りの追加」画面が表示されます。

4 「名前」に、登録するホームページを示すお好みの名前を入力し、 [OK]をクリックする。

ここでは「Sony Japan」と入力します。

ここに「Sony Japan」と入力する。



Sony Japan ホームページが登録され、入力した名前が「お気に入り」メニューの中に表示されるようになります。

[7] 「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを終了する

最後に「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを終了します。

1 画面左上の[ファイル]にポインタを合わせ、クリックする。

「ファイル」メニューが表示されます。

2 [閉じる]にポインタを合わせ、クリックする。

「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアが終了します。

ご注意

インターネットに接続している間は、ホームページを見たり、電子メールをやりとりするなどの操作を行っていないときでも、通話料やプロバイダへの接続料金がかかります。また、「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを終了しても、インターネットへの接続は解除されません。ホームページを見ている間など、操作を行わないときや、操作が終わった後などは、インターネットへの接続を切断してください。(102ページ)

「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアについて詳しくは、ヘルプをご覧ください。「Microsoft Internet Explorer」のヘルプを見るときは、「Microsoft Internet Explorer」画面上部の[ヘルプ]をクリックしてください。

電子メールソフトウェアの設定をする

電子メールのやりとりを正しく行えるようにするための設定を行います。「チェックシートを作成する」(83ページ)で作成したチェックシートをご覧になりながら、各項目に記入した内容を実際の画面の入力欄にキーボードを使って入力していきます。以下の手順に従って操作してください。ここでは、本機に付属の電子メールソフトウェア「Outlook Express」を例に電子メールのやりとりするための設定をしていきます。



「Outlook Express」ソフトウェアの設定は1度行えば、2回目以降の起動時には不要です。

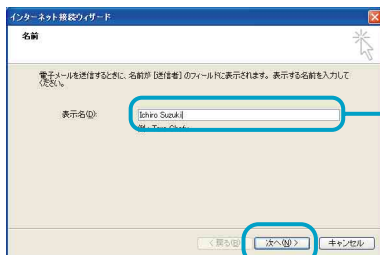
1 デスクトップ画面左下の[スタート]ボタンをクリックして[すべてのプログラム]→[Outlook Express]をクリックする。

インターネット接続ウィザードの「名前」画面が表示されます。



- お使いの機種によっては、「名前」画面とは違う画面が表示されることがあります。この場合は、画面の指示に従って操作し、手順2の画面まで進んでください。
- 電子メールソフトウェアの設定が終わったあとは[スタート]→[すべてのプログラム]→[Outlook Express]をクリックすると、「Outlook Express」ソフトウェアが起動するようになります。電子メールのアカウントを追加するなど、もう一度「インターネット接続ウィザード」を表示させたいときは、「Outlook Express」ソフトウェアを起動時に、画面上部の[ツール]をクリックし、[アカウント]をクリックします。表示される「インターネットアカウント」画面で[追加]→[メール]の順にクリックします。

2 表示したい名前を入力し、[次へ]をクリックする。

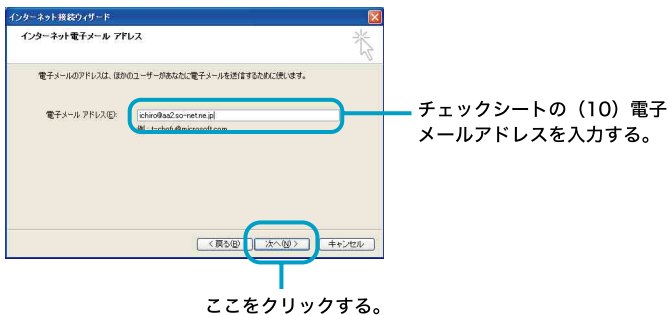


チェックシートの (9) 表示名 (差出人フィールドでの表示) を入力する。

ここをクリックする。

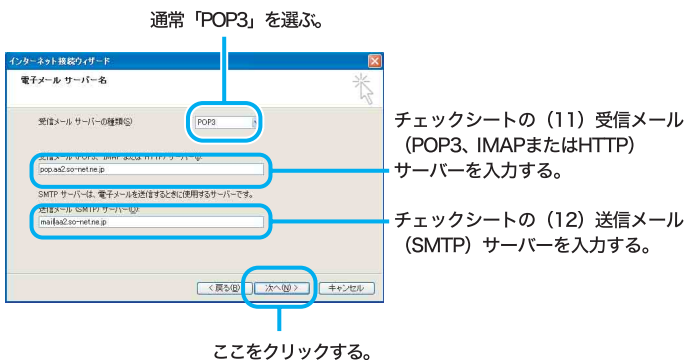
「インターネット電子メール アドレス」画面が表示されます。

- 3 「電子メールアドレス」に電子メールアドレスを入力して、[次へ]をクリックする。



「電子メール サーバー名」画面が表示されます。

- 4 受信メールサーバーと送信メールサーバーの名前を入力し、[次へ]をクリックする。



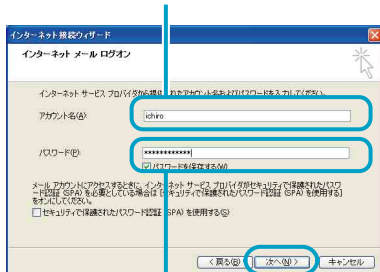
「インターネット メール ログオン」画面が表示されます。



「(11)受信メール(POP3、IMAPまたはHTTP)サーバー」の名前と「(12)送信メール(SMTP)サーバー」の名前は同じ場合があります。

5 アカウント名とパスワードを入力し、[次へ]をクリックする。

チェックシートの (13) POPアカウント名を入力する。



ここをクリックする。

チェックシートの (14) パスワード (POPアカウントパスワード) を入力する。

「設定完了」画面が表示されます。



- 「パスワード」は「*」で表示されます。
- 「パスワードを保存する」の をクリックして にすると、実際にインターネット接続するときの接続画面でパスワードを入力する手間が省けます。しかし、他人に勝手にインターネットに接続される恐れがありますのでご注意ください。

6 [完了]をクリックする。

自動的に「Outlook Express」ソフトウェアが起動します。

ご注意

[完了]をクリックしたあと、その他の画面が表示されることがあります。この場合は、画面の指示に従って操作してください。



「Outlook Express」ソフトウェアで作成したメッセージは初期設定でHTML形式になります。HTML形式に対応していない電子メールソフトウェアを使っている相手にHTML形式のメッセージを送ると、相手側が正しく受け取れないことがあります。メッセージはテキスト形式で送ることをおすすめします。メッセージをテキスト形式で送るように設定するには、次の手順に従ってください。

①「Outlook Express」画面上部の[ツール]をクリックし、表示されるメニューから[オプション]をクリックする。

「オプション」画面が表示されます。

②[送信]タブをクリックする。

「送信」画面が表示されます。

③「メール送信の形式」で[テキスト形式]をクリックし、[OK]をクリックする。

送信するメッセージがテキスト形式になります。

電子メールをテキストのみで送りたいときも同様の設定でお使いください。

7 画面右上の（「閉じる」ボタン）をクリックする。

「Outlook Express」ソフトウェアが終了します。

電子メールの設定を変更するには

チェックシートの「(15)インターネットメールアカウント名」は、下記の方法で変更できます。

1 「Outlook Express」画面上部の[ツール]をクリックする。

「ツール」メニューが表示されます。

2 [アカウント]をクリックする。

「インターネットアカウント」画面が表示されます。

3 [メール]タブをクリックする。

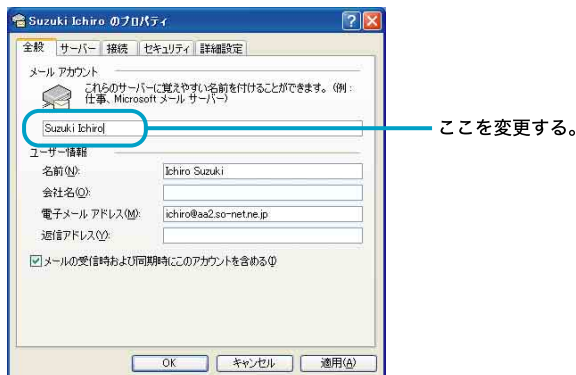
「メール」画面が表示されます。

4 [プロパティ]をクリックする。

プロパティ画面が表示されます。

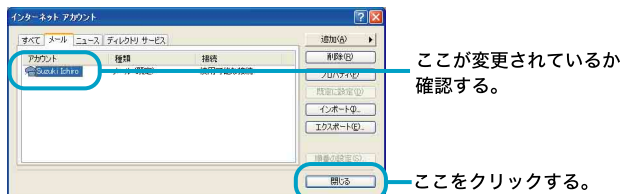
5 「メールアドレス」(「pop.aa2.so-net.ne.jp」が反転表示されている部分)を変更する。

ここでは「Suzuki Ichiro」と入力してみます。



6 [OK]をクリックする。

7 名前を変更した場合は、変更されているか確認して[閉じる]をクリックする。



8 「Outlook Express」画面で右上の (「閉じる」ボタン)をクリックする。

「Outlook Express」ソフトウェアが終了します。

電子メールをやりとりする

インターネットを使って、電子メールをやりとりできます。電子メールをやりとりするには、電子メールソフトウェアが必要です。
ここでは、「Outlook Express」ソフトウェアを使って自分の電子メールアドレスに電子メールを送ったり、受け取ったりしてみます。

ご注意

電子メールをやりとりする手順は、インターネットへの接続やソフトウェアの設定によって変わることがあります。

[1] 「Outlook Express」ソフトウェアを起動する

まず「Outlook Express」ソフトウェアを起動します。

1 デスクトップ画面左下の[スタート]ボタンをクリックして[すべてのプログラム]→[Outlook Express]をクリックする。

「Outlook Express」ソフトウェアが起動します。

「ダイヤルアップの接続」画面が表示されたときは、[キャンセル]をクリックして画面を閉じてください。



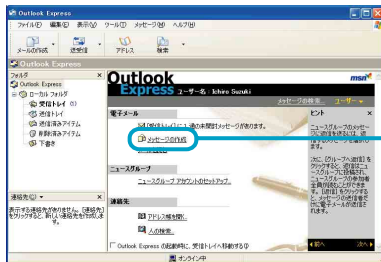
「ダイヤルアップの接続」画面で[キャンセル]をクリックするとオフライン作業となります。

[2] 電子メールを送信する

ために自分のメールアドレス宛に電子メールを送信してみましょう。

1 [メッセージの作成]をクリックする。

「メッセージの作成」画面が表示されます。

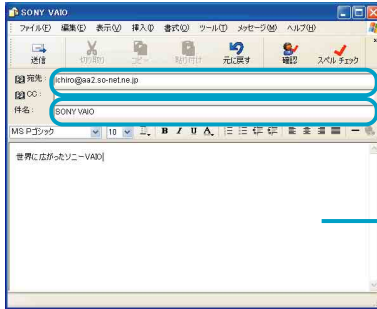


ここをクリックする。



電子メールを書くときや電子メールを受け取った後に読むときは、インターネットに接続していない状態(オフライン作業)の方が接続料金と通話料がかからなくてすみます。

2 メッセージを作成する。



ここに送り先（今回は自分）の電子メールアドレスを入力する。

ここにメッセージのタイトルを入力する。

ここにメッセージの本文を入力する。

ここでは、メッセージに「世界中にひろがったソニーVAIO」と入れてみます。

タイトルは「SONY VAIO」にしましょう。

3 画面左上の[送信]をクリックする。

「(ダイヤルアップ接続名)に接続中」画面が表示されたのち、[接続]をクリックすると、作成した電子メールが送り先に送られます。

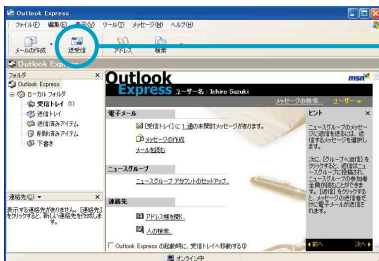
ご注意

オフライン(インターネットに接続していない状態)で[送信]をクリックした場合は、電子メールは送信トレイに保管されます。「Outlook Express」画面左上の[送受信]をクリックすると、電子メールが送り先へ送られます。

[3] 電子メールを受信する

手順[2]で送った自分のメールアドレス宛の電子メールを受信してみましょう。

1 インターネットに接続した状態で、画面左上の[送受信]をクリックする。



ここをクリックする。

手順[2]で送った電子メールが届きます。

ご注意

オフライン(インターネットに接続していない状態)のときは、「オフライン作業しています。オンラインに切り替えますか?」というメッセージが表示されます。この場合は、「はい」をクリックしてください。



- 作成した電子メールが送信トレイにある場合は、同時に送り先に送られます。インターネットに接続していない場合は、「接続」画面が表示され、接続を促します。インターネットに接続したあとに電子メールが送受信されます。
- 電子メールの送受信のあと、ホームページを見たりしないときは、インターネットの接続を切断しましょう。(102ページ)

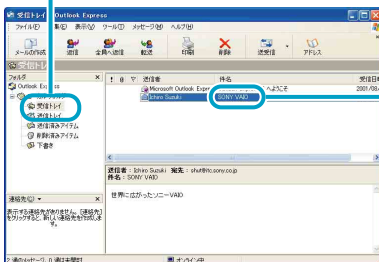
[4] 受け取った電子メールを見る

手順[3]で届いた電子メールを見てみます。

1 画面左側の[受信トレイ]をクリックし、[SONY VAIO]をクリックする。

受け取った電子メールのメッセージが表示されます。

ここをクリックする。



ここをクリックする。

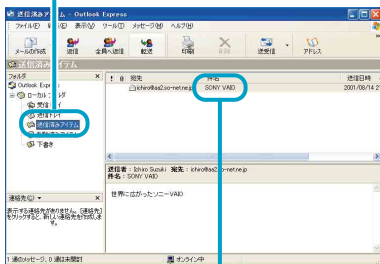
[5] 送った電子メールを見る

手順[2]で送った電子メールを見てみます。

1 画面左側の[送信済みアイテム]をクリックし、[SONY VAIO]をクリックする。

送った電子メールのメッセージが表示されます。

ここをクリックする。



ここをクリックする。

[6] 「Outlook Express」ソフトウェアを終了する

最後に「Outlook Express」ソフトウェアを終了します。

1 画面左上の[ファイル]をクリックする。

「ファイル」メニューが表示されます。

2 [終了]をクリックする。

「Outlook Express」ソフトウェアが終了します。

ご注意

インターネットに接続している間は、ホームページを見たり、電子メールをやりとりするなどの操作を行っていないときでも、通話料やプロバイダへの接続料金がかかります。また、「Outlook Express」ソフトウェアを終了しても、インターネットへの接続は解除されません。ホームページを見ている間など、操作を行わないときや、操作が終わった後などは、インターネットへの接続を切断してください。(102ページ)

「Outlook Express」ソフトウェアについて詳しくは、ヘルプをご覧ください。「Outlook Express」のヘルプを見るときは、「Outlook Express」画面上部の[ヘルプ]をクリックしてください。

セキュリティについて

パソコンを安心してご使用になるために、大切なデータを失わないための対策や、第三者からパソコンを守るためのセキュリティについてご紹介します。

コンピュータウイルスについて

コンピュータウイルスとは、コンピュータの中のファイルやプログラムに悪影響を与えるプログラムのことです。ほとんどがいたずら半分で作成されたものですが、下記の「コンピュータウイルスに侵入されると...」に見られるような被害が起きてしまいます。

コンピュータウイルスは他のプログラムと異なり、それ自体が増殖し、データのコピーなどを通じて他のコンピュータにも悪影響を及ぼしていきます。

コンピュータウイルスに侵入されると...

- 意味不明なメッセージや、ウイルスが侵入したことを知らせるメッセージが画面上に表示される。
- ファイルが勝手に消去される。
- ハードディスク上の情報が意味のないもの書き換えられる。
- 画面上に意味のないものが表示される。
- ハードディスクの空き容量が急に少なくなる。

「Norton AntiVirus」ソフトウェアについて

本機には、コンピュータウイルス検査・ウイルス除去用ソフトウェアとして「Norton AntiVirus」ソフトウェアがインストールされています。コンピュータウイルスから守るため、定期的なウイルスチェックをおすすめします。

ウイルス定義ファイルなどのアップデートについて

本機をウイルスから守るために、定期的に「LiveUpdate」を実行してください。なお、「LiveUpdate」を実行するには、インターネットに接続する必要があります。

次の手順で「LiveUpdate」を行ってください。

- ① [スタート] ボタンをクリックして、[すべてのプログラム] → [Norton AntiVirus] → [LiveUpdate - Norton AntiVirus] の順にクリックする。
- ② 表示される画面の指示に従って、「LiveUpdate」を実行する。

「Norton AntiVirus」ソフトウェアの操作方法について詳しくは、「Norton AntiVirus」のヘルプをご覧になるか、下記にお問い合わせください。

シマンテック テクニカルサポートセンター

電話番号：(03)5836-2621 ファックス番号：(03)5836-2623

電話受付時間：月曜～金曜 10時～12時、13時～17時(年末年始・祝日を除く)
なお、シマンテック テクニカルサポートセンターをご利用いただくためには以下のシマンテックホームページにて、カスタマーIDの取得が必要です。

<http://www.symantecstore.jp/oem/sony/>

カスタマーID取得については、下記にお問い合わせください。

シマンテック カスタマーサービスセンター

電話番号：(03)5836-2654 ファックス番号：(03)5836-2655

電話受付時間：月曜～金曜 10時～12時、13時～17時(年末年始・祝日を除く)



「Norton AntiVirus」ソフトウェアは、本機初回起動時より90日間無償でウイルス定義ファイル(ワクチンファイル)のアップデートができます。それ以降は、ウイルス定義ファイルのアップデートは有償になります。新種のウイルスに対応するため、ウイルス定義ファイルは常に更新することをおすすめします。

また、テクニカルサポート提供期間は、ウイルス定義ファイル無償更新期間と同じく、90日間となります。ただし、有償アップデートのお申し込みを頂くとテクニカルサポートの提供期間も延長されます。

ウイルス定義ファイルの有償アップデートについて詳しくは、以下のシマンテック ホームページをご覧ください。

<http://www.symantecstore.jp/oem/sony/>

ウイルス定義ファイルの有償アップデートのお申し込みについては、下記にお問い合わせください。

シマンテックストア

電話番号：(03)3476-1192 ファックス番号：(03)5836-3871

電話受付時間：月曜～金曜 10時～12時、13時～17時(年末年始・祝日を除く)

「Windows Update」の「重要な更新と Service Pack」のご利用について

次の手順で「Windows Update」にて提供されるプログラムの更新を定期的に行ってください。

「Windows Update」を行うには、あらかじめインターネットに接続していることが必要です。

- 1 **【スタート】ボタンをクリックして、【すべてのプログラム】→【Windows Update】の順にクリックする。**

「Windows Update へようこそ」画面が表示されます。

- 2 **【更新をスキャンする】をクリックする。**

「利用可能な更新を検索しています」というメッセージが表示され、検索が始まります。

- 3 **画面左側の「インストールする更新の選択」メニューの【重要な更新と Service Pack】をクリックし、【更新の確認とインストール】をクリックして「重要な更新と Service Pack」をインストールする。**

ご注意

「Windows XP」や「ドライバの更新」の更新はおすすめしません。

ドライバの更新により、本機のプレインストール状態の動作に不具合を生じる場合があります。ドライバを更新する場合は、VAIO カスタマーリンクのホームページ上で提供されるドライバを適用してください。

本機の Windows Update に関する情報は、次の VAIO カスタマーリンクのホームページをご参照ください。

- 「Windows Update 関連情報」
<http://vcl.vaio.sony.co.jp/products/winupdate/index.html>
- 「Windows XP サービスパック 関連情報」
<http://vcl.vaio.sony.co.jp/products/winxpservice/index.html>

インターネット接続ファイアウォール機能について

本機では、インターネット接続ファイアウォール機能と呼ばれるファイアウォール形式のインターネットセキュリティが提供されています。本機能を有効にすると、インターネットに接続するコンピュータを保護することが可能となりますが、次のような一部の機能が正常に動作しなくなることがあります。

- Windowsの一部の機能
- 本機搭載のアプリケーション

正常に動作させるにはインターネット接続ファイアウォールの設定変更が必要となります。

上記の設定変更などの詳細につきましては、下記のホームページをご参照ください。

VAIO カスタマーリンク ホームページ

インターネット接続ファイアウォール機能について

<http://vcl.vaio.sony.co.jp/products/xptech/info1.html>

本機能を有効にしない場合、インターネットに接続するコンピュータが保護されなくなりますので次のような対策をとられることをおすすめします。

- ハードウェアファイアウォール(ワイヤレスLANアクセスポイントやブロードバンドルータなどの製品の多くに搭載されています)による保護を行う。
- 「Windows Update」の実施により、システムを最新の状態に更新し、セキュリティを強化する。
- 本機にインストールされているコンピュータウイルス検査・ウイルス除去用ソフトウェアを使い、定期的なウイルスチェックを行う。

インターネットのセキュリティについて

インターネットに接続してご使用中は、常にセキュリティが守られなくなる可能性や、コンピュータウイルスによる被害などの危険性が潜んでいます。セキュリティやウイルスに関する最新情報および修正プログラムを入手することにより、より安全な環境でご使用いただけます。

ソニーでは、セキュリティやウイルスに関する最新情報を下記のホームページにて提供しております。定期的に最新情報をご確認ください。

VAIO カスタマーリンク ホームページ セキュリティについて

<http://vcl.vaio.sony.co.jp/notices/security.html>

また、セキュリティに関するご質問・ご相談につきましては、下記の窓口までお問い合わせください。

VAIO カスタマーリンク セキュリティお問い合わせ窓口

電話番号：(0466)30-3016

受付時間：平日 10:00～20:00、土・日・祝日 10:00～17:00



その他

メモリモジュールを取り付ける／取りはずす

本機にはメモリモジュールを取り付けるスロットが2つあり、最大1 Gバイトまでメモリを増設できます。*

メモリ容量が大きいと、データの処理速度や、複数のソフトウェアを同時に起動したときの処理が速くなります。

* PCG-TR3/Bは、工場出荷時に512 Mバイトメモリモジュールが1枚取り付けられています。メモリを1 Gバイトまで増設する場合は、別売りの拡張用512 Mバイトメモリモジュールをもう1枚取り付けてください。

PCG-TR3E/Bは、工場出荷時に256 Mバイトメモリモジュールが1枚取り付けられています。メモリを1 Gバイトまで増設する場合は、すでに取り付けられている256 Mバイトメモリモジュールを取りはずし、別売りの拡張用512 Mバイトメモリモジュールを2枚取り付けてください。

メモリモジュールを取り付けるには

ご注意

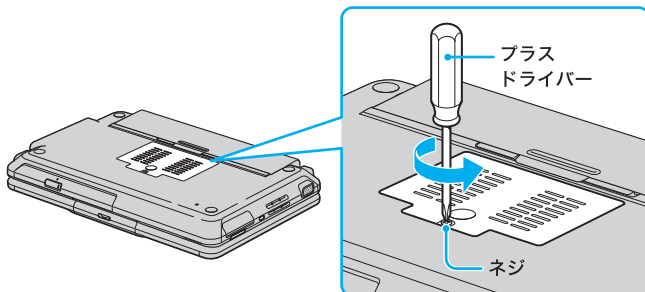
- メモリモジュールを取り付ける前に、本機の電源を切り、約1時間ほどおいてから作業を行ってください。電源を切ったすぐあとは、本機の内部が熱くなっており、やけどをするおそれがあります。
- コンピュータ内部はとても精密にできています。そのため、メモリモジュールの取り付けや取りはずしは注意深く行う必要があります。取り付けかたや取りはずしかたを誤ると、本機の故障の原因になります。破損した場合は有償修理となります。
メモリモジュールの取り付けや取りはずしに関するご相談やご質問は、VAIOカスタマーリンクまでご連絡ください。
- 別売りのソニー製メモリーモジュールPCGA-MM256R/MM512U以外では、正常に認識されなかったり、Windowsの動作が不安定になるものがあります。他社のメモリモジュールをお使いになる場合には、販売店またはメモリモジュールの製造メーカーにご相談ください。
- 水などの液体や、ネジなどの異物が入ると故障の原因となりますので、ご注意ください。

💡 メモリモジュールの取り扱いについて

- 静電気でメモリモジュールを破壊しないように、メモリモジュールを取り扱うときは、次のことをお守りください。
 - －メモリモジュールを取り付けるときは、静電気の起こりやすい場所(カーペットの上など)では作業しないでください。
 - －静電気を体から逃がすため、本機の金属部に触れてから作業を始めてください。ただし、本機内部の金属部には触らないようご注意ください。
 - －メモリモジュールは静電気防止袋に入っています。取り付け直前まで袋から出さないでください。
- メモリモジュールを保管するときは、静電気防止袋またはアルミホイルで覆ってください。

1 本機と周辺機器の電源を切り、電源コードやバッテリー、およびすべての接続ケーブルを取りはずす。

2 本機を裏返し、底面のふたを開ける。



ご注意

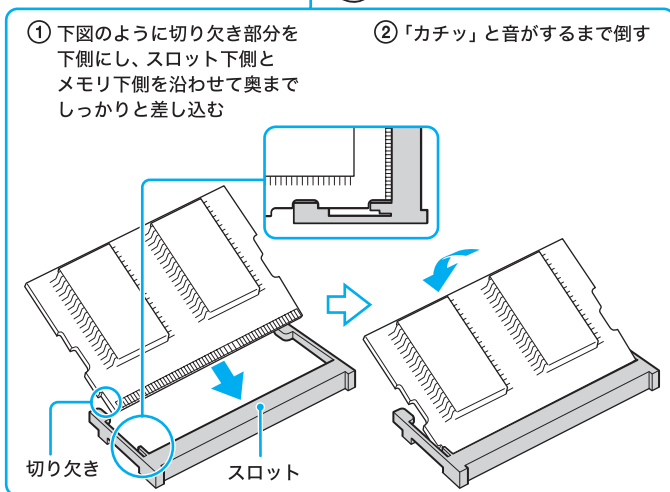
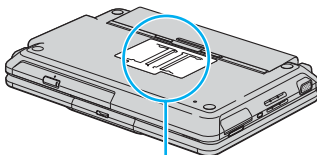
- ドライバーはネジのサイズにあったもの(精密ドライバーなど)をお使いください。
- 指定以外のネジをはずしたり、ゆるめたりしないでください。本機の故障の原因となるおそれがあります。
- はずしたネジが、周囲のすき間から機器内に落ちないようにご注意ください。

3 本機の金属部に触れて体の静電気を逃がしてから、メモリモジュールを静電気防止袋から取り出す。

ただし、本機内部の金属部には触らないようご注意ください。

4 メモリモジュールを取り付ける。

- ①メモリモジュールのエッジコネクタ部分を右にむけ、切り欠き部分を下側にして、斜めにスロットの奥までしっかりと差し込む。
- ②「カチッ」と音がするまで、矢印の方向にメモリモジュールを倒す。倒れにくいときは、再度スロットに奥までしっかりと差し込んでから倒してください。
メモリモジュールの両端が固定されます。



ご注意

メモリモジュール以外の基板には触れないようご注意ください。

5 ふたを元に戻し、ネジをしっかり締める。

6 手順1で取りはずした電源コードやバッテリーなどを取り付ける。

7 メモリの容量を確認する。

- ① 本機の電源を入れる。
- ② [スタート]ボタンをクリックして、[すべてのプログラム]→[Sony Notebook Setup]の順にポインタをあわせ、[Sony Notebook Setup]をクリックする。
「Sony Notebook Setup」画面が表示されます。
- ③ [システム情報]タブをクリックして、「システム メモリ」の項目を確認する。
メモリ容量が正しくないときは、本機の電源を切って、もう1度正しく取り付けの手順を繰り返してください。

メモリモジュールを取りはずすには

ご注意

メモリモジュールを取りはずす前に、本機の電源を切り、約1時間ほどおいてから作業を行ってください。電源を切ったすぐあとは、本機の内部が熱くなっており、やけどをするおそれがあります。

💡 メモリモジュールの取り扱いについて

- 静電気でメモリモジュールを破壊しないように、メモリモジュールを取り扱うときは、次のことをお守りください。
 - ーメモリモジュールを取りはずすときは、静電気の起こりやすい場所(カーペットの上など)では作業しないでください。
 - ー静電気を体から逃がすため、本機の金属部に触れてから作業を始めてください。
ただし、本機内部の金属部には触らないようご注意ください。
- メモリモジュールを保管するときは、静電気防止袋またはアルミホイルで覆ってください。

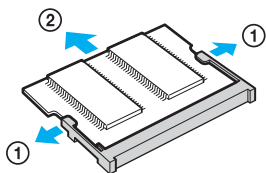
1 本機と周辺機器の電源を切り、電源コードやバッテリー、およびすべての接続ケーブルを取りはずす。

2 「メモリモジュールを取り付けるには」の手順2を行う。

3 本機の金属部に触れて体の静電気を逃がしてから、メモリモジュールを取りはずす。

ただし、本機内部の金属部には触らないようご注意ください。

- ①メモリモジュールを固定しているタブを、注意しながら同時に押し広げる。
- ②メモリモジュールを矢印の方向に引き抜く。



4 ふたを元に戻し、ネジをしっかりと締める。

5 手順1で取りはずした電源コードやバッテリーなどを取り付ける。

リカバリについて

リカバリとは

下記のような場合に本機のハードディスクの内容を工場出荷時の状態に戻すことを「リカバリ」といいます。

- コンピュータウイルスに感染し、本機が起動できなくなったとき
- 何らかの原因で本機が不安定になったとき
- 誤ってC:ドライブを初期化してしまったとき

本機は、リカバリディスクを使用しなくても、ハードディスクのリカバリ領域からリカバリすることができます。

また、リカバリディスクを作成することもできます。(134ページ)



VAIOカスタマーリンクでは、リカバリディスクを有償にてご提供するサービスを行っています。VAIOカスタマーリンクが別途指定するWebページ「マイサポーター」からお申し込みいただけます。詳しくは下記のホームページをご覧ください。

<http://vcl.vaio.sony.co.jp/cdromss/rdisc.html>

* ご購入にはVAIOカスタマー登録(40ページ)が必要です。

リカバリでできること

- ハードディスクを初期化した上で、すべてのファイルを復元する(工場出荷時の状態に戻る)。
- ハードディスクのパーティションのサイズを変更する。(137ページ)

ご注意

- 本機で作成したリカバリディスクは本機でのみ使用できます。他の製品には使用できません。詳しくは、「リカバリディスクを作成する」(134ページ)をご覧ください。
- リカバリで復元できるのは、本機に標準で付属されているソフトウェアのみです。ご自分でインストールしたソフトウェアや作成したデータを復元することはできません。また、Windowsだけを復元することもできません。付属ソフトウェアの一部においては、アプリケーション単独でアンインストール、インストールが行えるものもあります。ただし、このような操作を行った場合の動作環境は行っておりません。
- ご自分で変更された設定は、リカバリ後はすべて工場出荷時の設定に戻ります。リカバリ後に、もう1度設定し直してください。
- リカバリする際は、必ず「システムリカバリ」と「アプリケーションリカバリ」の両方のリカバリを行ってください。「アプリケーションリカバリ」を行わずにリカバリを完了すると、本機の動作が不安定になる場合があります。
- 「Sony Notebook Setup」ソフトウェアでパスワードを登録している場合、パスワードを忘れるとリカバリができなくなります。パスワードは必ずメモを取るなどして、忘れないようにしてください。万一パスワードを忘れてしまったときは、修理(有償)が必要となります。VAIOカスタマーリンクにご連絡ください。
- パーティションを操作する一部のプログラムをインストールすると、ハードディスクのリカバリ領域を使ってリカバリしたり、リカバリディスクの作成が行えなくなることがあります。そのような場合に備えて、リカバリディスクを作成しておくことをおすすめします。(134ページ)

リカバリの種類

リカバリ方法を次の3種類から選択することができます。通常は、「C:ドライブのリカバリ」を行うことをおすすめします。

C:ドライブのリカバリ	C:ドライブにあるすべてのデータを削除した上で、出荷時の設定を復元します。C:ドライブ以外のドライブにあるデータは削除されません。
パーティションサイズを変更してリカバリ	現在あるC:ドライブとD:ドライブのパーティションを削除して、サイズを変更します。その後ハードディスクをフォーマットした上で出荷時の設定を復元します。それ以前にハードディスクにあったデータは、C:ドライブ、D:ドライブとも失われてしまいます。リカバリディスクを作成している場合(134ページ)は、リカバリディスクを使ってリカバリ領域*を削除することができます。
出荷時状態へリカバリ	現在あるC:ドライブとD:ドライブのパーティションを削除し、出荷時状態へパーティションを強制的に戻します。その後ハードディスクをフォーマットした上で出荷時の設定を復元します。それ以前にハードディスクにあったデータは、C:ドライブ、D:ドライブとも含めてすべて失われてしまいます。リカバリディスクを作成している場合(134ページ)は、リカバリディスクを使って、削除したリカバリ領域*を復元することができます。

* リカバリ領域とは、リカバリを行うための「システムリカバリ」と「アプリケーションリカバリ」に必要なデータがおさめられているハードディスク内の領域のことです。

通常のご使用ではリカバリ領域のデータが失われることはありません。しかし、ハードディスクの領域を操作するような特殊な市販アプリケーションソフトウェアをご使用になり、リカバリ領域のパーティション情報を変更されると、ハードディスクのリカバリ領域からリカバリできなくなる場合があります。

リカバリする前に

本機をリカバリする前に、大切なデータは必ずバックアップをとってください。

バックアップをとるには、次の方法があります。

- フロッピーディスクにコピーする。
- CDなどのディスクにコピーする。
- D:ドライブにデータを残して、リカバリを行う。

本機のハードディスクは、C:ドライブとD:ドライブの2つのパーティションに分かれています。「リカバリする」(130ページ)の手順に従って操作すると、C:ドライブのデータはすべて消えてしまいますが、D:ドライブにあるデータは残ります。



「SonicStage」ソフトウェアに取り込んだ曲や管理データは、「SonicStage」のバックアップツールを使って必ずバックアップをとってください。バックアップツールについて詳しくは、「SonicStage」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

ご注意

リカバリする前に、以下の点を確認してください。

- すべての周辺機器をはずし、ACアダプタのみを接続してから、作業を行ってください。周辺機器は、リカバリが終わったあとに再び接続してください。
- Windowsが完全に起動できなかった場合などに本機をリカバリするときは、「Windowsが起動しない状態でリカバリする」(133ページ)をご覧ください。
- パーティションサイズを変更するときは、「パーティションサイズを変更する」(137ページ)をご覧ください。

リカバリする

Windowsからリカバリする

以下の手順に従って本機をリカバリします。Windowsが起動しない場合には「Windowsが起動しない状態でリカバリする」(133ページ)をご覧ください。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして、[すべてのプログラム]→[VAIO リカバリツール]の順にポインタを合わせ、[VAIO リカバリユーティリティ]をクリックする。

「リカバリ領域を確認しています」画面が数秒間表示され、次に「本機のリカバリをおこないます」画面が表示されます。



「リカバリ領域が削除されています」画面が表示された場合は、「リカバリディスクでリカバリ領域を作成する」(140ページ)をご覧ください。

- 2 [OK]をクリックする。

「再起動します」画面が表示されます。

- 3 [OK]をクリックする。

本機が再起動して、しばらくすると「VAIO システムリカバリユーティリティ」画面が表示されます。

- 4 内容をよく読んでから、[次へ]をクリックする。

「リカバリについてのご注意」画面が表示されます。

- 5 引き続き内容をよく読んでから、[次へ]をクリックする。

「リカバリ メニュー」画面が表示されます。

- 6 [C: ドライブのリカバリ]を選んでクリックし、[次へ]をクリックする。

「実行確認」画面が表示されます。

- 7 表示された内容をよく読んでから、[次へ]をクリックする。

リカバリ開始確認画面が表示されます。

- 8 [はい]をクリックする。

「リカバリを実行しています」画面が表示され、リカバリ作業が自動的に開始されます。

リカバリを中止するときは、リカバリ開始確認画面で[いいえ]をクリックし、続いて「実行確認」画面で[キャンセル]をクリックします。

9 「システムリカバリ」の処理が完了しました。」と表示されたら [OK]をクリックする。

「システムリカバリ」が完了しました。」画面が表示されます。

10 [完了]をクリックする。

本機が自動的に再起動します。

Windowsのロゴの画面が表示されてから、「Microsoft Windowsへようこそ」画面が表示されるまでにしばらく時間がかかります。そのままお待ちください。途中で電源を切るなどの操作を行うと、本機の故障の原因となります。

11 「Windowsを準備する」(35ページ)の手順に従って、Windowsの セットアップを行う。

12 「VAIO アプリケーションリカバリエューティリティ」画面が表示されたら、[OK]をクリックする。

自動的にアプリケーションソフトウェアのリカバリが始まります。リカバリ実行中、ディスクを入れ替えるメッセージが表示された場合は、指示に従って操作してください。

Office Personal 2003がプレインストールされていないモデルをお使いの場合は、アプリケーションソフトウェアのリカバリが終わるとメッセージが表示されるので、[OK]をクリックして本機を再起動してください。

Office Personal 2003がプレインストールモデルをお使いの場合は引き続き、次の手順を行ってください。

13 「Office Personal 2003 を本機にインストールします。」画面が表示されるので、付属の「Office Personal Edition 2003 プレインストールパッケージ」でOffice Personal 2003をインストールする。

次の手順で、画面の指示に従ってインストールしてください。詳しくは、パッケージに付属の「スタート ガイド」をご覧ください。

- ① Office Personal 2003 CDをドライブに入れ、画面の指示に従って操作する。
- ② 「インストールの種類」画面が表示されたら、「完全インストール」の○をクリックして●にし、[次へ]をクリックする。
- ③ 「ファイルの概要」画面が表示されたら、[完了]をクリックする。インストールが始まります。
- ④ 「セットアップの完了」画面が表示されたら、[完了]をクリックする。Office Personal 2003のインストールが完了しました。

Webサイトでの更新および追加ダウンロードについて

[Web サイトで更新および追加ダウンロードをチェックする]のチェックボックスをオフにした場合でも、インストール完了後に次の操作を行うと、追加コンポーネントまたはセキュリティ問題の修正プログラムをオンラインで利用できます。オンラインで利用する場合は、インターネットに接続している必要があります。

- ①Office Personal 2003のいずれかのソフトウェアを起動し、「ヘルプ」メニューの[更新のチェック]をクリックする。
- ②Webサイトが表示されたら、ページの左側にある[ダウンロード]が選択されていることを確認する。
- ③必要なOffice Personal 2003のアップデートを行う。

14「Office Personal Edition 2003 プレインストールパッケージ」でMicrosoft® Office Home Style+をインストールする。

次の手順で、画面の指示に従ってインストールしてください。詳しくは、パッケージに付属の「スタート ガイド」をご覧ください。

- ①Office Home Style+ CDをドライブに入れ、画面の指示に従って操作する。
- ②「セットアップ先のフォルダ」画面が表示されたら、[次へ]をクリックする。
- ③「インストール タイプ選択」画面が表示されたら、[標準]の○をクリックして●にし、[次へ]をクリックする。
- ④「インストールの開始」画面が表示されたら、[次へ]をクリックする。インストールが始まります。
- ⑤「Microsoft Office Home Style+ のインストールが正常に終了しました。」というメッセージが表示されたら、[OK]をクリックする。
- ⑥「Microsoft .NET Framework 1.1 パッケージをインストールしますか？」画面が表示されたら、[いいえ]をクリックする。Office Home Style+のインストールが完了しました。

15「Office Personal 2003 を本機にインストールします。」画面の[OK]をクリックする。

引き続き、自動的に残りのアプリケーションソフトウェアのセットアップが始まります。

16アプリケーションソフトウェアのリカバリが終わるとメッセージが表示されるので、[OK]をクリックして本機を再起動する。

17 Office Personal 2003のライセンス認証を行う。

次のいずれかの方法で「ライセンス認証ウィザード」を起動して、ライセンス認証を行ってください。

また、手続きの方法はインターネット経由と電話の2種類が用意されています。詳しくは、パッケージに付属の「スタートガイド」をご覧ください。

- Office Personal 2003のいずれかのソフトウェアを起動する。
- Office Personal 2003のいずれかのソフトウェアの「ヘルプ」メニューの[ライセンス認証]をクリックする。

なお、ライセンス認証については、次の専用窓口にお問い合わせください。

ライセンス認証専用窓口

電話番号：(0120)801-734 受付時間：24時間受付

ご注意

インターネット経由で手続きを行う場合は、この手順を行う前にインターネットに接続するための準備を済ませておく必要があります。

インターネット接続について詳しくは、「インターネットを始める」(66ページ)をご覧ください。

Windowsが起動しない状態でリカバリする

Windowsが完全に起動しないときは、以下の手順に従って本機をリカバリします。

また、リカバリディスクを作成している場合には、その中のリカバリ起動ディスクを使用してリカバリを開始できます。(134ページ)

1 ㊤(パワー)ボタンを押して本機の電源を入れる。

2 VAIOのロゴマークが表示されたらF10キーを押す。

「VAIO システムリカバリユーティリティ」画面が表示されます。



リカバリ起動ディスクでも「VAIO システムリカバリユーティリティ」を起動させることができます。本機の電源が入っている状態で、ドライブにリカバリ起動ディスクを入れて電源を切り(39ページ)、再び電源を入れてください。

リカバリ起動ディスクでVAIO システムリカバリユーティリティを起動した場合、リカバリにはリカバリ起動ディスクと同時に作成していただいたリカバリディスクが必要となります。

ご注意

「VAIO システムリカバリユーティリティ」画面が表示されない場合は、再び手順1からやり直してください。

3 「Windowsからリカバリする」(130ページ)の手順4以降の操作を行ってください。

リカバリディスクを作成する

「リカバリディスク作成ツール」を使うと、リカバリディスクとリカバリ起動ディスクを作成できます。リカバリディスクを用意しておくとは本機のハードディスク上のリカバリ領域を使わなくても、リカバリすることができます。

リカバリディスクとは

ハードディスクリカバリに対応した「バイオ」をリカバリする機能をもったディスクです。

リカバリ起動ディスクとは

ハードディスクリカバリに対応した「バイオ」を Windows が起動していない状態でリカバリディスクからリカバリを始めるときに使用する起動ディスクです。



VAIO カスタマーリンクでは、リカバリディスクを有償にてご提供するサービスを行っています。VAIO カスタマーリンクが別途指定する Web ページ「マイサポーター」からお申し込みいただけます。詳しくは下記のホームページをご覧ください。

<http://vcl.vaio.sony.co.jp/cdromss/rdisc.html>

* ご購入にはVAIO カスタマー登録(40ページ)が必要です。

リカバリディスクを作成する

ご注意

- 本機で作成したリカバリディスクは本機でのみ使用できます。他の製品には使用できません。
- リカバリディスクを作成するときには、「コンピュータの管理者」など、管理者権限を持つユーザーとしてログオンする必要があります。

本機はリカバリ(127ページ)するための情報をハードディスクのリカバリ領域に保存していますが、ハードディスクが破損したときや、リカバリするための情報を削除してより大きなハードディスク容量を確保したいときのために、リカバリに必要な情報をCD-RやDVD-Rなどのディスクに書き出すことができます。

リカバリディスク作成に必要なもの

- リカバリ起動ディスク作成用CD-R 1枚
- リカバリディスク作成用CD-R 複数枚



DVD-RW ドライブ搭載モデルの場合、リカバリディスクはDVD-R(1枚)またはCD-R(複数枚)のうちいずれかを選んで作成できます。

1 [スタート]ボタンをクリックして[すべてのプログラム]→[VAIOリカバリツール]の順にポインタをあわせ、[リカバリディスク作成ツール]をクリックする。

「リカバリディスク作成ツール メディアの確認」画面が表示されます。CD-RW/DVDドライブ搭載モデルをお使いの場合は、手順3へ進んでください。

2 使用するディスクを選択する。

ご注意

リカバリディスク作成用にDVD-RまたはCD-Rが必要となります。必要なディスクの枚数は、「リカバリディスク作成ツール メディアの確認」画面で確認できます。

また、DVD-Rでリカバリディスクを作成する場合でも、リカバリディスクのうちリカバリ起動ディスクを作成するためにCD-Rが1枚必要となります。必要なディスクの種類と枚数は、「リカバリディスク作成ツール メディアの確認」画面で確認してください。

3 [OK]をクリックする。

「リカバリディスク作成ツール」画面が表示されます。

4 [作成開始]をクリックする。

未使用ディスクの挿入を促すメッセージが表示され、リカバリディスクの作成が始まります。



リカバリディスクの作成が2回目以降の場合は、ここでリカバリディスクを選択し、希望するリカバリディスクのみ作成することができます。

5 指示されたディスクをドライブに挿入し[OK]をクリックする。

「リカバリディスク作成ツール」画面に現在の作成状況が表示されます。画面の指示に従って操作してください。

ディスクへの書き込みが完了すると、ドライブからトレイが自動的に引き出されます。



すでに作成したことがあるリカバリディスクを再び選択すると「このリカバリディスクは以前に作成されています。もう一度作成しますか?」というメッセージが表示されます。[はい]をクリックすると作成を続けることができます。

6 ディスク作成完了のメッセージが表示されるので、画面の指示に従って、ディスク名を油性のフェルトペンなどでディスクのレーベル面(データが記録されていない面)に書き込み、[OK]をクリックする。

はじめてリカバリディスクを作成しているときは、すべてのリカバリディスクを作成するまで手順5、6を繰り返します。

リカバリディスクの作成がすべて完了すると、リカバリディスク作成が終了したメッセージが表示されます。

7 [OK]をクリックする。

これでリカバリディスクの作成は終了です。

パーティションサイズを変更する

本機のハードディスクはC:ドライブとD:ドライブの2つのパーティションに分かれており、D:ドライブは、動画などの容量が大きいデータを保存したり、操作したりするための領域(データスペース)として使えるように設定されています(工場出荷時)。

動画の取り込みや書き出しを行う場合は大容量のデータを高速で読み書きするため、ハードディスクの断片化が起こることがあります。ハードディスクの断片化はフレーム落ちの原因となるため、データスペースとしてお使いになるパーティションは、ハードディスクの空き容量が常に連続になるよう、最適化(デフラグ)またはフォーマットを行ってください。

パーティションを区切ると、WindowsはC:ドライブにインストールされます。C:ドライブを最適化するには非常に時間がかかる場合がありますので、D:ドライブをデータスペースとしてお使いになることをおすすめします。

ご注意

ハードディスクのパーティションサイズを変更すると、それ以前にハードディスク上にあったデータは、C:ドライブだけではなくD:ドライブのものも含めてすべて消えてしまいます。パーティションサイズを変更する前に、大切なデータはCDなどのディスクに保存するなどして、必ずバックアップをとってください。



「SonicStage」ソフトウェアに取り込んだ曲や管理データは、「SonicStage」のバックアップツールを使って必ずバックアップをとってください。バックアップツールについて詳しくは、「SonicStage」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

パーティションサイズを変更するには

以下の手順に従ってパーティションサイズを変更します。


- 1 「Windowsからリカバリする」(130ページ)の手順1～5を行う。**
「リカバリ メニュー」画面が表示されます。
- 2 [パーティションサイズを変更してリカバリ]を選んでクリックし、[次へ]をクリックする。**
「パーティション メニュー」画面が表示されます。
ここで現在のパーティションサイズを確認できます。
- 3 C:ドライブのパーティションサイズをリストから指定し、[次へ]をクリックする。**
「実行確認」画面が表示されます。
- 4 表示された内容をよく読んでから、[次へ]をクリックする。**
リカバリ開始確認画面が表示されます。
- 5 「Windowsからリカバリする」(130ページ)の手順8以降の操作を行う。**

リカバリ領域を削除する

リカバリするための情報を削除して、より大きなハードディスク容量を確保したいときは、以下の手順でハードディスク上のリカバリ領域を削除できます。

ご注意

- リカバリディスクを作成していない場合は、「リカバリディスクを作成する」(134ページ)の手順に従ってリカバリディスクを作成してください。
- リカバリ領域を削除した場合、ハードディスクからリカバリできなくなり、リカバリ領域を削除した後、リカバリするためには、リカバリディスクでリカバリするか、リカバリ領域を作成(140ページ)してから行ってください。
- この操作を行うと、それ以前にハードディスク上にあったファイルは、C:ドライブだけではなくD:ドライブのものも含めてすべて消えてしまいます。リカバリ領域を削除する前に、大切なデータはCDなどのディスクに保存するなどして、必ずバックアップをとってください。

- 1 本機の電源が入っている状態で、「リカバリ起動ディスク」をドライブに入れる。
 - 2 [スタート]ボタン→[終了オプション]の順にクリックして「コンピュータの電源を切る」画面を表示し、[電源を切る]をクリックして本機の電源を切る。
 - 3  (パワー)ボタンを押して本機の電源を入れる。
「VAIO システムリカバリユーティリティ」画面が表示されます。
- ご注意**
- 「VAIO システムリカバリユーティリティ」画面が表示されない場合は再び手順2からやり直してください。
- 4 リカバリディスクをドライブに入れ、[OK]をクリックする。
「VAIO システムリカバリユーティリティ」画面が表示されます。
 - 5 内容をよく読んでから、[次へ]をクリックする。
「リカバリについてのご注意」画面が表示されます。
 - 6 引き続き内容をよく読んでから、[次へ]をクリックする。
「リカバリ メニュー」画面が表示されます。
 - 7 [パーティションサイズを変更してリカバリ]を選んでクリックし、[次へ]をクリックする。
「リカバリ領域 オプション」画面が表示されます。
 - 8 [削除する]を選んでクリックし、[次へ]をクリックする。
「パーティション メニュー」画面が表示されます。
 - 9 C:ドライブのパーティションサイズをリストから指定し、[次へ]をクリックする。
「実行確認」画面が表示されます。
 - 10 引き続き内容をよく読んでから、[次へ]をクリックする。
「リカバリを開始して本当によろしいですか？」画面が表示されます。
 - 11 「Windowsからリカバリする」(130ページ)の手順8以降の操作を行う。

リカバリディスクでリカバリ領域を作成する

本機のハードディスク上にリカバリ領域がない場合は、以下の手順でリカバリ領域を復元させると同時に、本機をリカバリできます。

ご注意

作成したリカバリディスクを紛失してしまった場合は、VAIOカスタマーリンクで、リカバリディスクを有償にてご提供するサービスを行っています。VAIOカスタマーリンクが別途指定するWebページ「マイサポーター」からお申し込みいただけます。詳しくは下記のホームページをご覧ください。

<http://vcl.vaio.sony.co.jp/cdromss/rdisc.html>

ご購入にはVAIOカスタマー登録(40ページ)が必要です。

- 1 本機の電源が入っている状態で、「リカバリ起動ディスク」をドライブに入れる。
- 2 [スタート]ボタン→[終了オプション]の順にクリックして「コンピュータの電源を切る」画面を表示し、[電源を切る]をクリックして本機の電源を切る。

- 3 ⏻(パワー)ボタンを押して本機の電源を入れる。

「VAIO システムリカバリユーティリティ」画面が表示されます。

ご注意

「VAIO システムリカバリユーティリティ」画面が表示されない場合は再び手順2からやり直してください。

- 4 「リカバリディスク」をドライブに入れ、[OK]をクリックする。

「VAIO システムリカバリユーティリティ」画面が表示されます。

- 5 内容をよく読んでから、[次へ]をクリックする。

「リカバリについてのご注意」画面が表示されます。

- 6 引き続き内容をよく読んでから、[次へ]をクリックする。

「リカバリ メニュー」画面が表示されます。

- 7 [出荷時状態へリカバリ]を選んでクリックし、[次へ]をクリックする。

「実行確認」画面が表示されます。

- 8 [次へ]をクリックする。

「リカバリを開始して本当によろしいですか？」画面が表示されます。

- 9 「Windowsからリカバリする」(130ページ)の手順8以降の操作を行う。

使用上のご注意

本機の取り扱いについて

- 本機に手やひじをつくなどして力を加えないでください。本機の液晶ディスプレイはガラスできています。力を加えると、ガラスが割れてしまいます。
- 衝撃を加えたり、落としたりしないでください。記録したデータが消失したり、本機の故障の原因となります。
- 炎天下や窓をしめきった自動車内など、異常な高温になる場所には置かないでください。本機が変形し、故障の原因となることがあります。
- クリップなどの金属物を本機の中に入れてください。
- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- 内蔵カメラ(MOTION EYE)のレンズ前面のミラープレートに触らないでください。
- 電源の入/切にかかわらず、カメラを太陽に向けしないでください。カメラの故障の原因となります。
- 本機を持ち運ぶときは、内蔵カメラ(MOTION EYE)のミラープレートキーボード側に向けてください。
- キーボードの上に物を置いたり落としたりしないでください。また、キートップを故意にはずさないでください。キーボードの故障の原因となります。

結露について

結露とは本機を寒い場所から急に暖かい場所に持ち込んだときなどに、本機の表面や内部に水滴がつくことで、そのままご使用になると故障の原因となります。結露が起きたときは、電源を入れずに約1時間放置してください。

液晶ディスプレイについてのご注意

- 液晶ディスプレイの表面をぬれたもので拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- 液晶ディスプレイに物をのせたり、落としたりしないでください。また、手やひじをつくなどして力を加えないでください。
- 本機を戸外など寒い場所から室内へ持ち込むと、液晶ディスプレイに結露が生じることがあります。結露が生じたら、水滴をよく拭き取ってからご使用ください。水滴を拭き取るときは、ティッシュペーパーをお使いになることをおすすめします。液晶面が冷えているときは、水滴を拭き取っても、また結露が生じてしまいます。液晶面が室温に暖まるまでお待ちください。
- 画面上に常時点灯している輝点(赤、青、緑など)や滅点がある場合があります。液晶パネルは非常に精密な技術で作られておりますが、ごくわずかの画素欠けや常時点灯する画素があります。また、見る角度によってすじ状の色むらや明るさのむらが見える場合があります。これらは、液晶ディスプレイの構造によるもので、故障ではありません。
- キーボードの上にボールペンなどを置いたまま、液晶ディスプレイを閉じないでください。また、閉じた液晶ディスプレイの上に重いものを載せたり、強く押ししたりしないでください。本機の破損の原因となります。

ハードディスクの取り扱いについて

本機には、ハードディスク(アプリケーションやデータなどを保存するための記憶装置)が内蔵されています。ハードディスクは、フロッピーディスクに比べて記憶密度が高く、データの書き込みや読み出しに要する時間も短いという特長があります。その一方、衝撃や振動、ほこりに弱い装置でもあります。また、フロッピーディスク同様に磁気を帯びた物に近い場所での使用は避けなければなりません。

ハードディスクには衝撃や振動、ほこりからデータを守るための安全機構が組み込まれていますが、記憶したデータを失ってしまうことのないよう、次の点に特にご注意ください。

- 衝撃を与えないでください。
 - 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
 - 電源を入れたまま、本機を動かさないでください。
 - データの書き込み中や読み込み中は、電源を切ったり再起動したりしないでください。
 - 急激な温度変化(毎時10℃以上の変化)のある場所では使用しないでください。
 - テレビやスピーカー、磁石、磁気ブレスレットなどの磁気を帯びたものを本機に近づけないでください。
- 何らかの原因でハードディスクが故障した場合、データの修復はできませんのでご注意ください。

ハードディスクのバックアップをとる

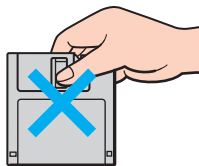
ハードディスクは非常に多くのデータを保存することができますが、その反

面、ひとたび事故で故障すると多量のデータが失われ、取り返しのつかないことになります。万一のためにも、ハードディスクの内容は定期的にバックアップを取ることをおすすめします。ソフトウェアはオリジナルがCD-ROMやフロッピーディスクにありますので、バックアップが必要なのはデータなどです。ハードディスクのバックアップ、バックアップの内容の戻しかたについて詳しくは、Windowsのヘルプをお読みください。データの損失については、一切責任を負いかねます。

フロッピーディスクの取り扱いについて

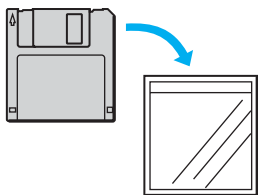
フロッピーディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにごご注意ください。

- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものに近づけないでください。フロッピーディスクに記録されているデータが消えてしまうことがあります。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。フロッピーディスクが変形し、使用できなくなります。
- 手でシャッターを開けてディスクの表面に触れないでください。フロッピーディスクの表面の汚れや傷により、データの読み書きができなくなることがあります。



- フロッピーディスクに液体をこぼさないでください。

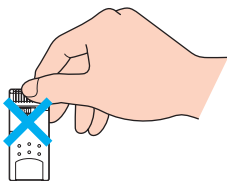
- 大切なデータを守るため、フロッピーディスクはフロッピーディスクドライブから取り出して、必ずケースなどに入れて保管してください。



- ラベルが正しく貼られているか確認してください。ラベルがめくれている、浮いていると、本体内部にラベルが貼り付いて本機の故障の原因となったり、大切なディスクにダメージを与えることがあります。

“メモリースティック”の取り扱いについて

- 端子部には手や金属で触れないでください。



- ラベル貼り付け部には専用ラベル以外は貼らないでください。
- ラベルを貼るときは、所定のラベル貼り付け部からはみ出さないように貼ってください。
- 持ち運びや保管の際は、“メモリースティック”を付属の収納ケースに入れてください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。

- 水にぬらさないでください。
- 次のような場所でのご使用や保存は避けてください。
 - 高温になった車の中や炎天下など気温の高い場所
 - 直射日光のあたる場所
 - 湿気の多い場所や腐食性のある場所

“メモリースティック デュオ”

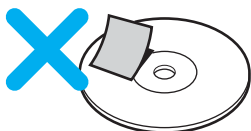
使用上のご注意

- “メモリースティック デュオ”を本機でお使いの場合は、必ず“メモリースティック デュオ”をメモリースティック デュオ アダプターに入れてからお使いください。メモリースティック デュオ アダプターに装着されていない状態で挿入すると、“メモリースティック デュオ”が取り出せなくなる可能性があります。
- “メモリースティック デュオ”をメモリースティック デュオ アダプターに入れるときは、正しい挿入方向を確認してください。
- “メモリースティック デュオ”をメモリースティック デュオ アダプターに装着して本機でご使用になるときは、正しい挿入方向をご確認の上ご使用ください。間違った方向に挿入すると、機器の破損の原因となりますのでご注意ください。
- メモリースティック デュオ アダプターに“メモリースティック デュオ”が装着されていない状態で、本機に挿入しないでください。このような使い方をすると、機器に不具合が生じることがあります。

CDやDVDなどのディスクの取り扱いについて

ディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

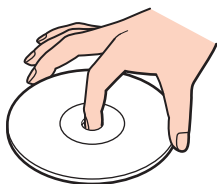
- 紙などを貼ったり、傷つけたりしないでください。



- ラベルを貼付したディスクをお使いの場合、ラベルの端が浮いていたり、粘着力が弱いと、本体内部にラベルが貼り付いて、本機の故障の原因となることがあります。ラベルが正しく貼られていることを確認してからディスクをお使いください。

ラベルの貼付に起因する不具合やメディアの損失については、弊社では責任を負いかねます。ご使用になるラベル作成ソフトウェアやラベル用紙の注意書きをよくお読みになり、お客様の責任においてご使用ください。

- 文字の書かれていない面(再生面)に触れないようにして持ちます。



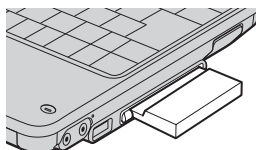
- ほこりやちりの多いところ、直射日光の当たるところ、暖房器具の近く、湿気の多いところには保管しないでください。
- ディスクに液体をこぼさないでください。

- 大切なデータを守るため、ディスクは必ずケースなどに入れて保管してください。
- ドライブにディスクを入れて動作させているときは、本機を移動しないでください。移動時に衝撃を与えると、ディスクを傷つけるおそれがあります。

ワイヤレス機能の取り扱いについて

- 本機内蔵のワイヤレスLAN機能はWFA(Wi-Fi Alliance)で規定された「Wi-Fi(ワイファイ)仕様」に適合していることが確認されています。
- 本機のワイヤレスLAN機能とBluetooth機能は、日本国内のみでお使いください。海外でご使用になると罰せられることがあります。
- ワイヤレスLAN対応機器やBluetooth対応機器が使用する2.4GHz帯は、さまざまな機器が共有して使用する電波帯です。そのためワイヤレスLAN対応機器やBluetooth対応機器は、同じ電波帯を使用する機器からの影響を最小限に抑えるための技術を使用していますが、場合によっては他の機器の影響によって通信速度や通信距離が低下することや、通信が切断することがあります。
- 5GHz(IEEE802.11a)ワイヤレスLAN機器の屋外での使用は、法令により禁止されています。(PCG-TR3/B・ソニースタイルモデル)
- 通信速度は、通信機器間の距離や障害物、機器構成、電波状況、使用するソフトウェアなどにより変化します。また、電波環境により通信が切断される場合があります。

- 通信機器間の距離は、実際の通信機器間の障害物や電波状況、壁の有無・素材など周囲の環境、使用するソフトウェアなどにより変化します。
- Bluetooth規格の制約上、電波状況などにより、大容量のファイルの送信を続けると、まれに転送したファイルに不具合が生じる場合がありますのでご注意ください。
- ワイヤレスLAN通信では、使用する周波数帯域を分割してそれぞれの帯域で異なる通信を行うことができ、その分割された個々の周波数帯域のことを「チャンネル」といいます。
- IEEE802.11a準拠のワイヤレスLAN機能とIEEE802.11b/g準拠のワイヤレスLAN機能とでは、周波数帯域が異なるため接続することはできません。(PCG-TR3/B・ソニースタイルモデル)
- IEEE802.11g製品は、普及が進んでいるIEEE802.11b製品との通信は可能ですが、両者が混在した状態では高速通信ができず、約半分の伝送速度になる場合があります。
- 14チャンネルに対する規制が他チャンネルと異なるため、14チャンネルは、IEEE802.11bモードで動作します。14チャンネルは送信時最大2 Mbpsまでの仕様になっています。
- 緊急でワイヤレス機能を停止させる必要がある場合には、WIRELESSスイッチを「OFF」にあわせてください。
- カード内部には精密な電子部品があります。落としたり、強い衝撃を与えないでください。故障の原因となります。
- カードを水でぬらさないでください。
- 以下のような場所でのご使用や保存は避けてください。
 - －高温になった車の中や炎天下など気温の高い場所
 - －直射日光のあたる場所
 - －湿気の多い場所や腐食性のある場所
 - －ほこりの多い場所
- PCカードスロットからはみ出すPCカード(PHSカードなど)を挿入してお使いの場合は、次の点にご注意ください。




- －PCカードを挿入した状態で、本機を移動しないでください。移動時にPCカードに強い衝撃を与えると、本機が破損するおそれがあります。
- －PCカード部分を持って本機を持ち上げるなど、PCカードに力を加えると、本機が破損するおそれがあります。
- －PCカードを挿入した状態で、本機をカバンやキャリングケースなどの中へ入れないでください。PCカードに予期せぬ力が加わり、本機が破損するおそれがあります。

内蔵カメラ(MOTION EYE)についてのご注意

- じゅうたんの上など、静電気の発生しやすいところに放置しないでください。静電気の影響でカードの部品が壊れてしまうことがあります。
- コネクタ部には手や金属で触れないでください。
- カメラのレンズ前面のミラープレートに触らないでください。
- ミラープレートが汚れている場合は、やわらかい布などで汚れを拭き取ってください。汚れたままだと、取り込む画像が劣化します。(149ページ)

PCカードの取り扱いについて

- 電源の入/切にかかわらず、カメラを太陽に向けしないでください。カメラの故障の原因となります。
- 本機を持ち運ぶときは、内蔵カメラ(MOTION EYE)はレンズ面をキーボード側に向けてください。
- 内蔵カメラ(MOTION EYE)は取りはずせません。
-  S400(i.LINK)コネクタにi.LINK対応機器をつなぎ、動画や静止画を撮影するときは、内蔵カメラ(MOTION EYE)から撮影することはできません。

ACアダプタについてのご注意

- AC電源をつながない状態で本機の電源を入れたまま、または本機がスタンバイのときにバッテリーを取りはずすと、作業中の状態や保存されていないデータは失われます。
- 本機に付属または指定された別売りのACアダプタをご使用ください。指定以外のACアダプタを使用すると、故障の原因になることがあります。
- ACアダプタを海外旅行者用の「電子式変圧器」などに接続しないでください。発熱や故障の原因となります。
- ケーブルが断線したアダプタは危険ですので、そのまま使用しないでください。

バッテリーについてのご注意

バッテリーについて

- 付属のバッテリーは本機専用です。
- 本機に付属または指定された別売りのバッテリーをご使用ください。指定以外のバッテリーを使用すると、故障の原因になることがあります。
- バッテリーは充電後、使用していない場合でも、少量ずつ自然に放電するため、長期間放置した場合、使用可

能時間が短くなる場合があります。使用前には、再度、充電することをおすすめします。

- AC電源につないでいるときは、バッテリーを装着しているときでも、AC電源から電源が供給されます。
- AC電源をつながない状態で本機の電源を入れたまま、または本機がスタンバイのときにバッテリーを取りはずすと、作業中の状態や保存されていないデータは失われます。必ず、本機の電源を切ってから取りはずしてください。

はじめてバッテリーをお使いになるときは

付属のバッテリーは完全には充電されていないため、はじめてお使いになることからバッテリーが消耗している状態になっていることがあります。

バッテリーの充電について

バッテリーは、充電回数、使用時間、保存期間に伴い少しずつ性能が劣化していきます。

このため、十分に充電を行っても使用可能時間が短くなったり、寿命で使えなくなることがあります。

この場合には、新しいバッテリーをお買い求めください。

省電力動作モードでお使いのときは

スタンバイ時にバッテリーが消耗すると、スタンバイに移行する前の作業状態や保存していないデータが失われてしまい、元の状態に復帰できなくなります。スタンバイに移行させる前には、必ず作業中のデータを保存してください。なお休止状態では、作業状態や作業中のデータをハードディスクに保存しますので、バッテリーが消耗してもデータがなくなることはありません。長時間ACアダプタを使わない場合は、休止状態へ移行させるようにしてください。

バッテリーの残量が少ないときは

本機は、通常モード時にバッテリーの残量がわずかになると、自動的に休止状態になるよう工場出荷時に設定されていますが、ご使用中のソフトウェアや接続している周辺機器によっては、Windowsからの指示で作業を一時中断することができないため、この機能が正しく働かないことがあります。長時間席をはずされるときなどにバッテリーが消耗した場合、自動的に休止状態にならないと、本機の電源が切れて作業中のデータが失われてしまうおそれがあります。バッテリーでご使用のときは、こまめにデータを保存したり、手動で休止状態にしてください。

ソフトウェアと周辺機器の動作について

一般的にWindows XP用、DOS/V用などと表記している市販ソフトウェアや周辺機器の中には、本機で使用できないものがあります。ご購入に際しては、販売店または各ソフトウェアおよび周辺機器の販売元にご確認ください。市販ソフトウェアおよび周辺機器を使用された場合の不具合や、その結果生じた損失については、一切責任を負いかねます。また、本機に付属のOS以外をインストールした場合の動作保証はいたしかねます。

ソフトウェアの不正コピー禁止について

本機に付属のソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。これらのソフトウェアを不正にコピーすることは法律で禁止されています。また、店頭で購入したソフトウェアを人に貸したり、人からソフトウェアを借りてコピーして使うことは禁じられています。ソフトウェアの使用許諾書をよくお読みのうえ、お使いください。

ドライブの地域番号書き替えについて

工場出荷時、本機のドライブの地域番号(リージョンコード)は「2」(日本)に設定されています。

一部のソフトウェアには地域番号を書き替える機能がありますが、ご使用にならないでください。これらの機能を使用した結果生じた不具合につきましては、保証期間内であっても、有償修理とさせていただきます。

CD再生/録音についてのご注意

本機は、コンパクトディスク(CD)規格に準拠した音楽ディスクの再生を前提として、設計されています。最近、いくつかのレコード会社より著作権保護を目的とした技術が搭載された音楽ディスクが販売されていますが、これらの中にはCD規格に準拠していないものもあり、本機で再生・録音できない場合があります。

コンピュータ廃棄時などのハードディスク上のデータ消去について

コンピュータを廃棄などするときには、お客様の重要なデータを消去する必要があります。データを消去する場合、一般には次のような作業を行います。

- データを「ごみ箱」に捨てる
- 「削除」操作を行う
- 「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ソフトウェアで初期化(フォーマット)する
- ハードディスク内のリカバリ機能や自作のリカバリディスクを使い、工場出荷状態に戻す

前記の作業では、一見データが消去されたように見えますが、ハードディスク内のファイル管理情報が変更され、WindowsなどのOSのもとで呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っています。

従って、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読み取ることが可能な場合があります。このため、悪意のある第三者により、重要なデータが読み取られ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。

廃棄時などにハードディスク上の重要なデータが流出するトラブルを回避するためには、ハードディスク上に記録された全データを、**お客様の責任において消去することが非常に重要となります**。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス(いずれも有償)を利用するか、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁氣的に破壊して、データを読み取れなくすることをおすすめします。なお、消去のための専用ソフトウェアなどについての詳細は、VAIOホームページ内「サポート」ページ(<http://vcl.vaio.sony.co.jp>)の「セキュリティについて」より「ハードディスク上のデータ消去に関するご注意」をご覧ください。

お手入れ

本機のお手入れ

- 本機についてゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。
- 液晶ディスプレイは、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。汚れてきたと思ったら、こまめに拭くように心がけてください。
- キーボード(キートップ)の隙間に落ちたゴミやほこりなどは、精密機器専用のブロワーなどを使って吹き飛ばしてください。
キートップは、故意にはずさないでください。また、家庭用掃除機などで吸引すると、故障の原因となります。

ご注意

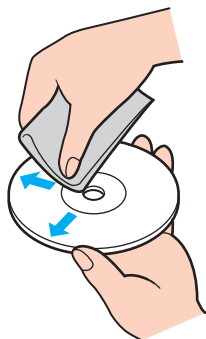
- めれたもので液晶ディスプレイを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性ものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときは、その注意書きに従ってください。

CDやDVDなどのディスクのお手入れ

DVD-ROM、CD-ROMディスクのお手入れ

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、読みとりエラーの原因になります。いつもきれいにしておきましょう。

- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方へ軽く拭きます。



- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた布で拭いたあと、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやシンナー、レコードクリーナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので、使用しないでください。

書き込みのできるCDやDVDディスクのお手入れ

- 未記録部分に傷やほこりがあると、正しいデータが記録できないことがあります。取り扱いには充分ご注意ください。
- ベンジンやシンナー、クリーナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので、使用しないでください。
- ほこりなどの汚れは、ブロワーを使って吹き飛ばしてください。

レンズ前面のミラープレートのお手入れ

内蔵カメラ(MOTION EYE)のレンズ前面のミラープレートのほこりは、ブロワーブラシか、柔らかい刷毛でとります。汚れがひどいときは、市販のレンズクリーニングクロスなどで拭き取ってください。傷がつきやすいので、強くこすらないでください。

保証書とアフターサービス

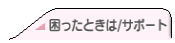
保証書について

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より3か月間です。ユーザー登録していただいたお客様は1年間になります。

アフターサービスについて

調子が悪いときはまずチェックをこの説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはVAIOカスタマーリンクへご連絡ください
VAIOカスタマーリンクについては、「サイバーサポート」画面上部の

困ったときは/サポート タブをクリックし、画面左側にある[お問い合わせ先について]をクリックするか、付属の「バイオサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

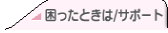
保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。ただし、保証期間内であっても、有償修理とさせていただきます場合がございます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

修理について

当社ではノートブックコンピュータの修理は引取修理を行っています。当社指定業者がお客様宅に修理機器をお引き取りにうかがい、修理完了後にお届けします。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[お問い合わせ先について]をクリックするか、付属の「バイオ サービス・サポートのご案内」をご覧ください。

データのバックアップのお願い

修理に出すまえに、ハードディスクなどの記録媒体のプログラムおよびデータは、お客様にてバックアップされますようお願いいたします。当社の修理により、ハードディスク内のプログラムおよびデータが万一消去あるいは変更された場合に関しても、当社は一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。なお、ハードディスクなどの記録媒体そのものの故障の場合には、プログラムおよびデータの修復はできません。

部品の保有期間について

当社ではノートブックコンピュータの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、VAIOカスタマーリンク修理窓口にご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

型名: IDラベル(23ページ)または保証書に記載されています

製造番号: 本機底面または保証書に記載されています

故障の状態: できるだけ詳しく

購入年月日:

修理用補修部品について

ソニーでは、長期にわたる修理部品のご提供、ならびに環境保護などのため、修理サービスご提供の際に、再生部品を使用することがあります。また原則として交換した部品は、上記の理由によりソニーの所有物として回収させていただいておりますので、あらかじめご了承ください。

主な仕様

プロセッサ

PCG-TR3/B

超低電圧版 インテル® Pentium® M
プロセッサ 1 GHz*1

- 拡張版 Intel SpeedStep® テクノロジー搭載

キャッシュ(プロセッサに内蔵)

1次:64 Kバイト

2次:1 Mバイト

プロセッサシステムバス

400 MHz

PCG-TR3E/B

超低電圧版 インテル® Celeron® M
プロセッサ 800 MHz*1

キャッシュ(プロセッサに内蔵)

1次:64 Kバイト

2次:512 Kバイト

プロセッサシステムバス

400 MHz

*1 プロセッサの処理能力は使用状況により変化します。

チップセット

インテル® 855GM チップセット

メインメモリ

PCG-TR3/B

512 Mバイト (DDR SDRAM)
(最大1 Gバイトまで拡張可能)
(ビデオメモリと共用)

メモリバス

266 MHz

PCG-TR3E/B

256 Mバイト (DDR SDRAM)
(最大1 Gバイトまで拡張可能)
(ビデオメモリと共用)

メモリバス

266 MHz

メモリスロット

マイクロDIMMスロット (DDR) (2)
(PCG-TR3/Bは512 Mバイトメモリ1
枚内蔵、PCG-TR3E/Bは256 Mバイト
メモリ1枚内蔵)

グラフィックアクセラレータ

グラフィックアクセラレータ
(インテル® 855GMチップセットに内蔵)

ビデオメモリ

最大64 Mバイト
(メインメモリと共用)

液晶ディスプレイ

10.6 型、ワイド液晶(1,280 × 768
ドット、TFTカラー)

液晶ディスプレイ表示モード^{*2}

1,280 × 768 ドット (約1,619万色)
1,024 × 768 ドット (約1,619万色)
1,024 × 600 ドット (約1,619万色)
800 × 600 ドット (約1,619万色)

^{*2} 約1,619万色はグラフィックアクセラレータのデザインングにより実現

外部ディスプレイ表示モード^{*3}

1,600 × 1,200 ドット (約1,677万色)
1,280 × 1,024 ドット (約1,677万色)
1,280 × 768 ドット (約1,677万色)
1,024 × 768 ドット (約1,677万色)
1,024 × 600 ドット (約1,677万色)
800 × 600 ドット (約1,677万色)

^{*3} 外部ディスプレイによっては、使えない表示モードがあります。

ハードディスクドライブ

約40 Gバイト (Ultra ATA/100対応)
(C:約15 Gバイト/D:約21 Gバイト)^{*4} ^{*5}
(工場出荷時)

^{*4} 本機は、ハードディスクドライブ内にリカバリ(工場出荷時の状態に戻す)に必要なデータを保持します。このリカバリ用の領域として、約4 Gバイトを消費します。

^{*5} 1 Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。Windowsのシステムでは、1 Gバイトを1,073,741,824バイトで計算しています。

Windows起動時に認識できる容量は、約32 Gバイト(Cドライブ約13 Gバイト/Dドライブ約19 Gバイト)になります。ファイルシステムはNTFSです。

CD-RW/DVD-ROM 一体型ドライブ

読み出し

DVD-ROM:最大8倍速
CD-R、CD-ROM:最大24倍速

書き込み

CD-R:最大24倍速
CD-RW:最大10倍速
マルチセッション対応、
12/8 cm対応トレイタイプ

DVD-RWドライブ (一部ソニースタイルモデル)

読み出し

DVD-R、DVD-RW:最大4倍速
DVD-ROM:最大8倍速
CD-R、CD-ROM:最大24倍速

書き込み

DVD-R、DVD-RW:2倍速
CD-R:最大16倍速
CD-RW:最大8倍速
マルチセッション対応、
12/8 cm対応トレイタイプ

外部接続

i.LINK (IEEE1394) (🔌) S400)

S400 4ピン(1) S400 = 400 Mbps

バイオノート関連製品専用DC OUT

(電源供給)コネクタ

専用コネクタ(1)

USB (🔌)

USB2.0(2) (High-speed/Full-speed/

Low-speed対応)、Type-Aコネクタ

外部ディスプレイ出力(🖥️)

アナログRGB、ミニD-SUB 15ピン(1)

マイク入力(🎤)

モノラルミニジャック、

プラグインパワー対応(1)

ヘッドホン出力(🎧)

ステレオミニジャック(1)

モデム用モジュラジャック(📶)

RJ-11コネクタ(1)

ネットワーク(LAN)コネクタ(🌐)

RJ-45コネクタ(1)

インジケータ

パワーランプ(🔆)

バッテリーランプ(🔋)

ハードディスク アクセスランプ(📀)

メモリースティック アクセスランプ(📁)

Bluetooth ランプ

WIRELESS LAN ランプ

Num Lock ランプ(🔢)

Caps Lock ランプ(🔡)

Scroll Lock ランプ(🔢)

CD-RW/DVD-ROM

一体型ドライブアクセスランプ

DVD-RWドライブアクセスランプ

(一部ソニースタイルモデル)

カメラランプ

PCカードスロット

Type I / II、16 bit / CardBus対応(1)

メモリースティックスロット

マジックゲート対応メモリースティック
スロット

(メモリースティック PRO対応)*6(1)

*6「メモリースティック PRO」ではマジックゲート機能は使用できません。

オーディオ機能

ウィンドウズサウンドシステム互換、
AC97準拠、ソフトウェアMIDI音源、
内蔵ステレオスピーカー、モノラルマ
イク入力(プラグインパワー方式)、
メガベース(高低音増幅機能)対応
ヘッドホン出力、内蔵マイク

ネットワーク(LAN)

IEEE 802.3 10BASE-T

IEEE 802.3u 100BASE-TX

オートネゴシエーション、全二重 対応

内蔵モデム

V.92およびV.90対応

データ受信時最大 56 kbps

ファックス送受信時最大 14.4 kbps

ワイヤレス通信

ワイヤレスLAN

IEEE802.11a^{*7}

(PCG-TR3/B・ソニースタイルモデル)

通信方式

IEEE802.11a (Ad hocモード対応)

最大通信速度^{*8 *9}

約54 Mbps

通信距離^{*10}

見通し距離 最長約50 m

使用周波数帯

5 GHz帯 (5.15 GHz～5.25 GHz)

無線チャンネル

34、38、42、46

変調方式

OFDM (IEEE802.11a準拠)

暗号化

WEP (64、128ビット)、WPA

IEEE802.11b/IEEE802.11g^{*7 *11}

(PCG-TR3/B・TR3E/B・
ソニースタイルモデル)

通信方式

IEEE802.11b (Ad hocモード対応)

IEEE802.11g

最大通信速度^{*8 *9}

IEEE802.11b: 約11 Mbps

IEEE802.11g: 約54 Mbps

通信距離^{*10}

見通し距離 最長約100 m

使用周波数帯

2.4 GHz帯 (2.400 GHz～2.497 GHz)

無線チャンネル

1～14^{*12}

変調方式

DS-SS (IEEE802.11b準拠)

OFDM (IEEE802.11g準拠)

暗号化

WEP (64、128ビット)、WPA

Bluetooth機能

通信方式

Bluetooth標準規格 Ver. 1.1

最大通信速度^{*8 *9}

約723 kbps

出力

Bluetooth標準規格 Power Class2

通信距離^{*10}

見通し距離 最長10 m

対応Bluetoothプロファイル^{*13}

Generic Access Profile

Service Discovery Application Profile

Serial Port Profile

Dial-up Networking Profile

Generic Object Exchange Profile

Object Push Profile

Basic Imaging Profile

Hardcopy Cable Replacement Profile

Human Interface Device Profile

使用周波数帯

2.4 GHz帯 (2.400 GHz～2.4835 GHz)

- *7 5 GHzワイヤレスLAN (IEEE802.11a) と 2.4 GHz (IEEE802.11b/g) の2つの通信を同時に行う事はできません。(PCG-TR3/B・ソニースタイルモデル)
- *8 通信速度は、通信機器間の距離や障害物、機器構成、電波状況、使用するソフトウェアなどにより変化します。また、電波環境により通信が切断される場合があります。
- *9 1台のパソコンでBluetooth機能とワイヤレス機能を同時に使用すると、通信速度などに影響を及ぼす場合があります。
- *10 通信機器間の距離は、実際の通信機器間の障害物や電波状況、壁の有無・素材など周囲の環境、使用するソフトウェアなどにより変化します。
- *11 IEEE802.11g製品は、普及が進んでいるIEEE802.11b製品との通信は可能ですが、両者が混在した状態では高速通信ができず、約半分の伝送速度になる場合があります。
- *12 14チャンネルに対する規制が他チャンネルと異なるため、14チャンネルは、IEEE802.11bモードで動作します。
- *13 Bluetooth対応機器同士の使用目的に応じた仕様のごとく、Bluetooth標準規格で定められています。

入力デバイス

インテリジェント タッチパッド、
キーボード

内蔵カメラ (MOTION EYE)/ ビデオキャプチャ

総画素数

37万画素 (有効画素数 31万画素)

撮像素子

1/5.5型VGAプログレッシブ方式
CMOSセンサー

レンズ

2群2枚ガラスレンズ、F3.4
焦点距離 $f=2.8\text{ mm}$
($f=40\text{ mm}$ 、 35 mm カメラ換算)

ホワイトバランス

オート/屋内/屋外/ホールド

シャッタースピード

オート/ホールド

フリッカーキャンセル

オート/50 Hz/60 Hz

ビデオキャプチャ形式/サイズ

YUY2/RGB 24ビット

80 × 60、160 × 120、320 × 240、
640 × 480、176 × 144、352 × 288

表示フレーム数

最大30フレーム/秒^{*14}

^{*14}使用状況などにより異なる場合があります。

電源・その他

電源

ACアダプタまたはバッテリー

DC端子入力 DC16 V

バッテリー駆動時間^{*15}

リチャージャブルバッテリーパック (S)

PCGA-BP2T

PCG-TR3/B

約4.5～6時間

PCG-TR3E/B

約4～6時間

リチャージャブルバッテリーパック (L)

PCGA-BP3T

PCG-TR3/B

約6.5～9時間

PCG-TR3E/B

約6～8.5時間

バッテリー充電時間^{*15}

リチャージャブルバッテリーパック (S)

PCGA-BP2T

電源オン/オフ時:

約2.5時間(約85%)

約3.5時間(約100%)

リチャージャブルバッテリーパック (L)

PCGA-BP3T

電源オン/オフ時:

約4時間(約85%)

約5時間(約100%)

^{*15}使用状況や設定等により上記時間と異なる場合があります。

外形寸法

約270.4 × 34.7 (36.5) × 188.4 mm

(幅/高さ(最厚部)/奥行き)

質量

約1.4 kg(バッテリー装着時)

ACアダプタ^{*16}

電源

AC100～240 V、50/60 Hz

(付属電源コードはAC100 V用)

^{*16}その他の仕様については、ACアダプタのラベルをご覧ください。

バッテリー

出力電圧

11.1 V

付属品

「付属品を確かめる」(19ページ)をご覧ください。

別売り品

ACアダプター

PCGA-AC16V6

リチャージャブルバッテリーパック (S)

PCGA-BP2T

リチャージャブルバッテリーパック (L)

PCGA-BP3T

USB フロッピーディスクドライブ

PCGA-UFD5

256 Mバイト増設メモリーモジュール^{*17}

PCGA-MM256R

512 Mバイト増設メモリーモジュール^{*17}

PCGA-MM512U

キャリングポーチ

PCGA-CP1T

キャリングケース

PCGA-CK5T

^{*17}工場出荷時にメモリ増設済みの場合があります。メモリスロットの状況をご確認の上(122ページ)、お買い求めください。

動作・保存環境

動作温度

5℃～35℃(温度勾配10℃/時以下)

動作湿度

20%～80%(結露のないこと)

ただし35℃における湿度は65%以下(湿球温度29℃以下)

保存温度

-20℃～60℃(温度勾配10℃/時以下)

保存湿度

10%～90%(結露のないこと)

ただし60℃における湿度は20%以下(湿球温度35℃以下)

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

付属ソフトウェアのお問い合わせ先

本機に付属のソフトウェアはそれぞれお問い合わせ先が異なります。各ソフトウェアごとに記載された先へお問い合わせください。

なお、本機に付属のソフトウェアの起動方法やお使いになる際のご注意など詳しい情報は、下記の手順で本機電子マニュアル「サイバーサポート」を表示させてご覧ください。

1 デスクトップ画面の をダブルクリックする。

「サイバーサポート」が表示されます。

2 画面上部の タブをクリックし、画面左側にある[付属ソフトご紹介/お問い合わせ先]をクリックする。

ご注意

- Windows XPは、使用者がOS上で作業を行うには一定のユーザー権利とアクセス許可が必要です。
本機に付属のソフトウェアの中でも同様に、一定のユーザー権利とアクセス許可が必要なものがあります。
インストールができない、機能の一部が使用できない、またはソフトウェアが起動できない場合などは、ログインしているユーザーに必要なユーザー権利とアクセス許可が与えられていない可能性があります。
その場合は、システムの管理が可能なユーザー名で再度ログインするか、お使いのユーザー名に「コンピュータの管理者」の権利を与える設定にして作業をやり直してください。
「コンピュータの管理者」の権利使用を許可されていない場合は、職場などのシステム管理者にご相談ください。
ユーザー権利とアクセス許可については詳しくは、デスクトップ画面左下の[スタート]ボタンをクリックし、[コントロール パネル]→[ユーザーアカウント]を順にクリックして表示される「ユーザーアカウント」画面左のヘルプをご覧ください。
なお、ソフトウェアによっては、ユーザーの簡易切り替えに対応していないものがあります。詳しくは、各ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
付属ソフトウェアの一部においては、アプリケーション単独でアンインストールやインストールが行えるものもあります。
ただし、このような操作を行った場合の動作確認は行っていません。

ビデオ編集・再生

- DVgate Plus
VAIOカスタマーリンク
- RealOne Player
リアルネットワークス株式会社
電話番号: (03) 5302-2313
受付時間: 月曜～金曜 10:00 - 17:00 (12:00 - 13:00 除く)
リアルネットワークス株式会社規定の休日・祝日を除く
ホームページ: <http://service.jp.real.com/>
- Windows Media(TM) Player
VAIOカスタマーリンク
- QuickTime(TM)
VAIOカスタマーリンク
- WinDVD for VAIO(ドルビーバーチャルスピーカー/ドルビーヘッドホン対応)
VAIOカスタマーリンク

DVD作成

- Click to DVD(一部ソニースタイルモデル)
VAIOカスタマーリンク

音楽

- SonicStage
VAIOカスタマーリンク
- SonicStage Mastering Studio
VAIOカスタマーリンク

静止画・写真

- PictureGear Studio
VAIOカスタマーリンク

ホームネットワーク

- VAIO Media
VAIOカスタマーリンク
- VAIO Media Integrated Server
VAIOカスタマーリンク

コミュニケーション

- Network Smart Capture
VAIOカスタマーリンク

インターネット・メール

- Microsoft (R) Outlook Express
VAIOカスタマーリンク
- Microsoft (R) Internet Explorer
VAIOカスタマーリンク
- Google ツールバー (TM) 日本語版
Google Inc.
電子メール: toolbar-support-ja@google.com

ISP サインアップ

インターネット接続サービスご紹介

- AOL サインアップツール
ドコモ AOL AOLメンバーサポートセンター
電話番号(会員サポート): (0120)275-265(フリーダイヤル)
電話番号(入会問い合わせ): (0120)265-265(フリーダイヤル)
電話番号(携帯電話、PHSおよび国際電話によるサポート):
(03)5331-7400
受付時間: 9時～21時(年中無休)
ファックスサービス: (0120)275-265
電子メール: AOLJapanMS@aol.com
ホームページ: <http://www.jp.aol.com/>
- @nifty でインターネット
ニフティ株式会社 @nifty プロードバンド導入 ご相談窓口
電話番号: (0120)816-042(フリーダイヤル)
携帯・PHS・国際電話の場合:
(03)5753-2374(電話料金はおお客様ご負担となります)
受付時間: 毎日 9時～21時
(ビルの電源工事などによりお休みさせていただく場合があります。)
ホームページ: <http://www.nifty.com/support/madoguchi/>
- BIGLOBE でインターネット
BIGLOBE カスタマーサポート インフォメーションデスク
電話番号: 通話料無料(0120)86-0962
電話番号(携帯電話・PHS・CATV電話): (03)3947-0962
受付時間: 9時～22時 365日受付
電子メール: お問い合わせは以下のフォームをご利用ください。
<http://support.biglobe.ne.jp/ask.html>
ホームページ: <http://support.biglobe.ne.jp/>

□ DION スターターキット

電話番号(サービス内容に関するお問い合わせ):(0077)7192(無料)

受付時間:9時～21時(土・日・祝日も受付中)

電子メール:メールでのお問い合わせはホームページから。

<http://cs119.kddi.com/dion/>

電話番号(接続・設定などに関するお問い合わせ):(0077)7084(無料)

受付時間:24時間受付(土・日・祝日も受付中)

メールでのお問い合わせはホームページから。

<http://cs119.kddi.com/dion/>

□ OCN スタートパック

OCN スタートパックヘルプデスク

電話番号:(0120)047-747

受付時間:月曜～金曜:9時～21時、土曜・日曜・祝日:9時～17時
(年末・年始は休業とさせていただきます)

電子メール:info@ocn.ad.jp

ホームページ:<http://www.ocn.ne.jp/>

□ ODN スターターキットソフトウェア

日本テレコム株式会社 ODN サポートセンター

電話番号(ダイヤルアップコースに関するお問い合わせ):0088-86(無料)

電話番号(ADSL/光コースに関するお問い合わせ):0088-222-375(無料)

受付時間:24時間自動音声受付(9時～18時はオペレーターによるご案内も選択できます。)

電子メール:odn-support@odn.ad.jp(ダイヤルアップコース)

info-adsl@odn.ad.jp(ADSL/光コース)

ホームページ:<http://www.odn.ne.jp/counter/>

□ ぶらら入会/接続ソフト(P'z Dialer)

株式会社ぶららネットワークス「ぶららダイヤル」

電話番号(入会に関するお問い合わせ):009192-39(通話料無料)

受付時間:10時～22時(12/29～1/3および5/3～5/5を除く)

電話番号(設定などに関するお問い合わせ):009192-33(通話料無料)

受付時間:月曜～金曜:12時～21時、土曜日曜祝日:12時～19時
(12/29～1/3および5/3～5/5を除く)

電話番号(携帯電話・PHS・公衆電話・海外などからご利用の場合):

(03)5954-5330(受付時間:月曜～金曜 12時～21時、

土曜日曜祝日 12時～19時、12/29～1/3および5/3～5/5を除く)

通話料金は、お客様負担となりますのでご注意ください。

電子メール:kojin@plala.or.jp

ホームページ:<http://www.plala.or.jp/access/>

□ So-net簡単スターターV2

So-netインフォメーションデスク

電話番号(全国共通 3分8.5円):0570-00-1414

電話番号(携帯・PHSからおかけになる場合):

札幌(011)711-3765/仙台(022)256-2221/東京(03)3446-7555/
名古屋(052)819-1300/大阪(06)6577-4000/広島(082)286-1286/
福岡(092)624-3910

受付時間:9時~21時 年中無休

□ Yahoo! BBオンラインサインアップ

Yahoo! BBカスタマーサポートセンター

電話番号:(0120)919-820

受付時間:24時間/年中無休

※23時から翌朝9時までの時間は、モデムの故障やネットワーク障害についてのお問い合わせのみ受け付けております。

※携帯電話、PHSからおかけになる場合は、下記の番号をご利用ください。この場合、通話料金はお客様ご負担となります。

(03)6688-5001(東京)

電子メール:help@ybb-support.jp

ホームページ:http://bb.yahoo.co.jp/

BBフォンのお問い合わせ先:BBフォンインフォメーションセンター

電話番号:(0120)820-463

受付時間:9時~23時/年中無休

(施設点検日およびメンテナンス日は休業)

ワープロ・表計算

□ Microsoft(R) Office Personal Edition 2003(PCG-TR3/B・TR3E/B・一部ソニースタイルモデル)

マイクロソフト スタANDARDサポート

電話番号:東京(03)5354-4500/大阪(06)6347-4400

基本操作に関するお問い合わせ:

4インシデント(4件のご質問)までは無償、それ以降は有償になります。本件について詳しくは、付属の「Microsoft Office Personal Edition 2003 プレインストールパッケージ」をご確認いただくか、マイクロソフト スタANDARDサポートまでお問い合わせください。

受付時間:月~金:9時30分~12時、13時~19時、土曜日:10時~17時
(マイクロソフト社指定休業日、年末年始、日曜・祝日を除く)

セットアップ、インストールに関するお問い合わせ:

マイクロソフト スタANDARDサポートにてサポートいたします。期間、回数の指定はありません。こちらのお問い合わせに限り、日曜日もサポートいたします。

受付時間:月~金:9時30分~12時、13時~19時、土・日:10時~17時
(マイクロソフト社指定休業日、年末年始、祝日を除く)

ご注意

- お電話をおかけいただく前に、住所、氏名、電話番号、郵便番号、プロダクトIDをご用意ください。
プロダクトIDの確認方法については、付属の「Microsoft Office Personal Edition 2003 プレインストールパッケージ」をご覧ください。
- その他のサポートに関する詳しい情報は、付属の「Microsoft Office Personal Edition 2003 プレインストールパッケージ」をご確認ください。
- Microsoft Office Personal Edition 2003 関連のお問い合わせは、VAIOカスタマーリンクではお受けしておりません。

起動方法:

目的にあわせて、[スタート]→[すべてのプログラム]→[Microsoft Office]から各ソフトウェアをクリックして起動します。

Microsoft Office Home Style+について

[スタート]→[すべてのプログラム]→[Microsoft Office Home Style+ ガイド]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

実用ツール

□ Drag'n Drop (R) CD+DVD

イーゼーシステムズジャパン株式会社

ホームページ: <http://www.ddcd.jp/dd3/sony/cd/index.html>

製品FAQページ: <http://www.ddcd.jp/dd3/sony/cd/faq.html>

オンラインサポート*: <http://www.ddcd.jp/dd3/sony/cd/tosupport.html>

* Drag'n Drop CD+DVDは180日間のオンラインサポートのみとなります。

□ 駅すぱあと

ユーザーサポートセンター

電話番号(テクニカル): (03)5373-3522

電話番号(バージョンアップ): (03)5373-3521

受付時間: 月曜～金曜: 9時～12時、13時～17時(祝日、年末年始、夏期休暇を除く)

ファックス番号: (03)5373-3523

電子メール: support@val.co.jp

ホームページ: <http://ekiworld.net/>

□ ゼンリン電子地図帳[Zi:]6 ST DVD全国版

(株)ゼンリン お客様相談室

電話番号: (0120)210-616

受付時間: 月曜～金曜: 10時～17時(祝日・株式会社 ゼンリン指定休日は除く)

ファックス番号: (093)883-1380

電子メール: 電子メールでのお問い合わせにつきましては、株式会社 ゼンリンホームページ: <http://www.zenrin.co.jp>のお問い合わせフォームをご利用ください。

ホームページ: <http://www.zenrin.co.jp>

□ Adobe (R) Reader (R)

VAIOカスタマーリンク

□ Norton AntiVirus 2003

シマンテックテクニカルサポートセンター

電話番号：(03)5836-2621

受付時間：月曜～金曜 10時～12時、13時～17時(年末年始・祝日を除く)

ファックス番号：(03)5836-2623

ご注意

なお、上記サポートセンターをご利用いただくためには以下のシマンテックホームページにてカスタマーIDの取得が必要です。

<http://www.symantecstore.jp/oem/sony/>

カスタマーID取得に関するお問い合わせ

シマンテック カスタマーサービスセンター

電話番号：(03)5836-2654

受付時間：月曜～金曜 10時～12時、13時～17時(年末年始・祝日を除く)

ファックス番号：(03)5836-2655

ご注意

Norton AntiVirusは、本機初回起動時より90日間無償でウイルス定義ファイル(ワクチンファイル)のアップデートができます。それ以降は、ウイルス定義ファイルのアップデートは有償になります。新種のウイルスに対応するため、ウイルス定義ファイルは常に更新することをおすすめします。

テクニカルサポート提供期間はウイルス定義ファイル無償更新期間と同じく90日間となります。

ウイルス定義ファイルの有償アップデートについて詳しくは、以下のシマンテックホームページをご覧ください。

<http://www.symantecstore.jp/oem/sony/>

ウイルス定義ファイルの有償アップデートのお申し込みについては、下記にお問い合わせください。

シマンテックストア

電話番号：(03)3476-1192

受付時間：月曜～金曜 10時～12時、13時～17時(年末年始・祝日を除く)

ファックス番号：(03)5836-3871

□ VAIO Synchronizer

VAIOカスタマーリンク

設定・ユーティリティ

□ バイオメニュー

VAIOカスタマーリンク

□ メモリースティックフォーマット

ソニー株式会社 お客さま相談センター

電話番号(ナビダイヤル)：0570-00-3311

電話番号(携帯電話・PHSでのご利用)：(03)5448-3311

ファックス番号：(0466)31-2595

受付時間：月～金 9:00～20:00、土・日・祝日 9:00～17:00

ホームページ：<http://www.sony.net/memorystick/support/>

- PowerPanel
VAIOカスタマーリンク
- Smart Network
VAIOカスタマーリンク
- 「ホットスポット」自動ログインツール
NTTコミュニケーションズ株式会社 ホットスポットインフォメーションデスク
電話番号：(0120)815244
※携帯、自動車電話、PHSからのご利用になれます。
受付時間：10時～18時(月曜～金曜)
電子メール：hotspot@ntt.com
ホームページ：<http://www.hotspot.ne.jp/>
- Sony Notebook Setup
VAIOカスタマーリンク
- BlueSpace NE
VAIOカスタマーリンク

サポート・ヘルプ

- CyberSupport for VAIO
VAIOカスタマーリンク
- VAIO ハードウェア診断ツール
VAIOカスタマーリンク
- できるWindows XP for VAIO
インプレスカスタマーセンター
電話番号：(03)5213-9295
- How to VAIO
VAIOカスタマーリンク
- VAIO リカバリーユーティリティ
VAIOカスタマーリンク
- リカバリディスク作成ツール
VAIOカスタマーリンク
- VAIO Update
VAIOカスタマーリンク

その他

- Java(TM) Software
サン・マイクロシステムズ株式会社
ホームページ：<http://www.java.com/ja/>
- VAIO オンラインカスタマー登録
ソニーマーケティング株式会社 カスタマー専用デスク
電話番号：(0466)38-1410
受付時間：月曜～金曜日 10時～18時(土曜、日曜、祝日、年末年始を除く)
- UI Design Selector
VAIO カスタマーリンク
- おトク情報のご紹介
ソニー株式会社「おトク情報紹介」お問い合わせ窓口
受付時間：月曜～金曜日：9時～17時30分
(年末年始、祝日を除く)
電子メール：info@grami.ne.jp

各種サービスの紹介

- イメージステーション
ソニースタイルカスタマーセンター
電話番号：(0466)30-3012
受付時間：10時～18時(土・日・祝日・年末年始は除く)
電子メール：info@imagestation.jp
- VAIO+AirH" で快適モバイル
お問い合わせ先(ご優待価格によるご提供の詳細について)：
ソニーマーケティング株式会社 ソニースタイルカスタマーセンター
電話番号：(0466)38-1414
受付時間：10時～18時(土・日・祝日・年末年始は除く)
電子メール：info@jp.sonystyle.com
お問い合わせ先(AirH" ご利用のお申し込み・エリア/サービスについて)：
DDIポケット株式会社
電話番号：0077-775(無料)
受付時間：9時～18時(月曜～金曜)、9時～17時(土曜)
ホームページ：<http://www.ddipocket.co.jp/>
お問い合わせ先(データ通信に関して)：
DDIポケット株式会社
電話番号：0077-7-157(無料)
受付時間：9時～17時30分(月曜～金曜)、9時～17時(土・日・祝日)
ホームページ：<http://www.ddipocket.co.jp/>

□ Webpocket

ウェブポケットカスタマーセンター

電子メール：wp-info@webpocket.net

受付時間：10時～18時（土・日・祝日、および年末年始は除く）

ホームページ：<http://www.webpocket.net/>

□ 今すぐとろう！バイオメールアドレス

ソニースタイルカスタマーセンター

電話番号：(0466)30-3012

受付時間：10時～18時（土・日・祝日・年末年始は除く）

電子メール：v-networkservice@vs01.vaio.ne.jp

ホームページ：<http://www.vaio.ne.jp/>

□ VAIO Game Centerのご紹介

ソニーマーケティング株式会社

ホームページ：<http://www.vaio.sony.co.jp/game/index.html>

□ 「ホットスポット」ご紹介

NTTコミュニケーションズ株式会社 ホットスポットインフォメーションデスク

電話番号：(0120)815244

※携帯、自動車電話、PHSからもご利用になれます。

受付時間：10時～18時（月曜～金曜）

電子メール：hotspot@ntt.com



困ったときは

トラブルを解決するには

本機を操作していて困ったときや、トラブルが発生したときは、あわてずに次の流れに従ってください。

また、メッセージなどが表示されている場合は、書きとめておくことをおすすめします。

手順1 本書や電子マニュアル、ヘルプで調べる

- ・ 「よくあるトラブルと解決方法」(172ページ)をチェックする。
- ・ 電子マニュアル「サイバーサポート」で調べる。
 - －キーワード検索が可能です。
 - －VAIOカスタマーリンクに寄せられたFAQ(よくある質問とその回答)からも検索できます。

デスクトップ画面上の  をダブルクリック!



[スタート]ボタンをクリックして、[すべてのプログラム]→[バイオマニュアルCyberSupport]の順にクリックして「サイバーサポート」を起動することもできます。

・ ソフトウェアのヘルプ

お使いになるソフトウェアを起動して、ヘルプをご覧ください。(ヘルプのないソフトウェアもあります。)

・ Windowsのヘルプ

[スタート]ボタンをクリックし、[ヘルプとサポート]をクリックして、「ヘルプとサポートセンター」をご覧ください。

・ VAIO ハードウェア診断ツール

CPUやハードディスクなどのハードウェアに故障があるかどうかを診断するソフトウェアです。

[スタート]ボタンをクリックして、[すべてのプログラム]→[VAIO ハードウェア診断ツール]→[VAIO ハードウェア診断ツール]の順にクリックして起動できます。



手順2 VAIOカスタマーリンクのホームページで確認する

VAIOカスタマーリンク ホームページでは、トラブルの解決方法や疑問の解消に役立つ情報やサービスを掲載しています。



VAIOカスタマーリンク ホームページ

<http://vcl.vaio.sony.co.jp/>



手順3 本機のサービス・サポートについて確認する

付属の「バイオ サービス・サポートのご案内」をご覧ください。



VAIOカスタマーリンクのホームページ(<http://vcl.vaio.sony.co.jp/>)にアクセスし、「サイバーサポート」のキーワード検索で検索できる情報を更新することをおすすめします。

なおこの機能を使うには、あらかじめインターネットに接続していることが必要です。インターネット接続について詳しくは、「インターネットを始める」(66ページ)をご覧ください。

「VAIO Update」について

「VAIO Update」は、ソニーがご提供するお客様への「重要なお知らせ」や「アップデートプログラム」の情報を、定期的にお知らせするソフトウェアです。このソフトウェアを利用することで、想定されるトラブルを未然に防ぐことができます。

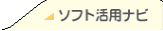
詳しくは、付属の「バイオ サービス・サポートのご案内」の「「VAIO Update」を利用する」をご覧ください。

VAIOカスタマーリンク お問い合わせ先

バイオの使いかたについてのお問い合わせは、「VAIOカスタマーリンク」で受け付けています。詳しくは、付属の「バイオ サービス・サポートのご案内」をご覧ください。

ご注意

付属のソフトウェアについては、「サイバーサポート」画面上部の

 タブをクリックし、画面左側にある[付属ソフトご紹介/お問い合わせ先]をクリックして表示される情報をご覧ください。また、各ソフトウェアのお問い合わせ先については、「付属ソフトウェアのお問い合わせ先」(157ページ)にも記載しています。

VAIOカスタマーリンク

電話番号 (0466)30-3000

お問い合わせには、「お客様サポート番号」または「VAIOカスタマーID」が必要です。(40ページ)

受付時間

平日 10時～20時

土、日、祝日 10時～17時

(年末年始は除く)



一般的にお電話は午前11時以降、または午後の方がつながりやすくなっております。

- お電話は音声認識を用いた自動音声のアナウンスに従って、ご希望のメニューをお選びください。各メニューの担当オペレーターが対応いたします。
- Windows XP Professional搭載モデルをお使いの場合、技術的なお問い合わせについては、本機のご購入から90日間無料で対応いたします。ご購入日から91日以降は、「アドバンスサポート」による有償でのサポートメニューをご用意しております。
詳しくは、付属の「バイオ サービス・サポートのご案内」をご覧ください。

お電話の前に次の内容をご用意ください

- ①お客様の「お客様サポート番号」または「VAIOカスタマーID」
- ②本機の型名:IDラベル(23ページ)または、保証書に記載されています
- ③本機の製造番号:保証書などに記載されている7桁の番号です
- ④カスタマー登録していただいたときの電話番号、または登録予定の電話番号



発信者番号通知でお電話していただくとよりスムーズに担当者につながります。

- ⑤本機に接続している周辺機器名:メーカー名と型名
- ⑥表示されたエラーメッセージ
- ⑦本機に付属していないソフトウェアを追加した場合は、そのソフトウェアの名前とバージョン
- ⑧トラブルが発生する前または直前に行った操作
- ⑨トラブルがどのくらいの頻度で再現するか
- ⑩その他お気づきの点

修理の場合は

- ⑪VAIOカルテ:修理をお申し込みになるとき
- ⑫筆記用具:修理を受付する際にお伝えする修理受付番号を控えるのに必要です

よくあるトラブルと解決方法

ここでは、本機的主要なトラブルとその解決方法を説明します。

ご注意

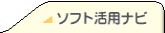
再起動または電源を入れ直す場合は、必ず「電源を切る」(39ページ)の手順に従い、いったん電源を切ってください。

他の方法で本機の電源を切ると、作成したファイルが使えなくなることがあります。

- 電源(173ページ)
- Windowsの起動(176ページ)
- 省電力動作モード(178ページ)
- タッチパッド/キーボード(179ページ)
- 文字入力(184ページ)
- 拡大ボタン(186ページ)
- 液晶ディスプレイ/外部ディスプレイ(187ページ)
- CD/DVDディスク(189ページ)
- “メモリースティック”(193ページ)
- フロッピーディスク(193ページ)
- 内蔵カメラ(MOTION EYE)(194ページ)
- モデム(197ページ)
- インターネット/電子メール(203ページ)
- ワイヤレスLAN(206ページ)
- Bluetooth機能(211ページ)
- スピーカー/ヘッドホン(213ページ)
- マイク(214ページ)
- プリンタ(214ページ)
- DV機器/i.LINK機器(215ページ)
- PCカード(216ページ)
- ファン(216ページ)
- パスワード(217ページ)
- ハードディスク(217ページ)
- プロセッサ(CPU)(218ページ)
- メモリ(218ページ)
- ソフトウェア(219ページ)
- カスタマー登録(220ページ)



付属の「VAIOハードウェア診断ツール」ソフトウェアを使うと、CPUやハードディスクなどのハードウェアに故障があるかどうか自動的に診断できます。

詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[付属ソフトご紹介/お問い合わせ先]→[サポート・ヘルプ]→[VAIOハードウェア診断ツール]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

電源

電源が入らない。(⏻(パワー)ランプ(グリーン)がつかないとき)

電源が入らないときの状況によって対処方法が異なります。次の点を確認した上で、それぞれの操作を行ってください。

- バッテリーが正しく装着されているか確認してください。(30ページ)
- 本機とACアダプタ、ACアダプタと電源コード、電源コードとコンセントがそれぞれしっかりつながっているか確認してください。(31ページ)
- AC電源に接続しない状態で長期間放置した場合は、内蔵バックアップバッテリーが消耗すると、⏻(パワー)ボタンを押しても電源が入らないことがあります。

ACアダプタをつなぎ、本機を充電しながら、次の手順で操作してください。

- 1 クリップなどの細い棒で本機底面のリセットスイッチ(28ページ)を押す。
(シャープペンシルの芯など折れやすいものは、本機の故障の原因となりますので使用しないでください。)
- 2 電源を入れ、VAIOのロゴマークが表示されたから、F2キーを押す。
画面左下に「Entering SETUP...」と表示されたあと、BIOSセットアップ画面が表示されます。「Entering SETUP...」と表示されない場合は、F2キーを数回押してください。
- 3 日時を確認する。
「System Date」、「System Time」に正しい日時が表示されているか確認する。間違った日時が表示されている場合は次の操作をしてください。
 - ① 「System Date」の項目に月/日/年(西暦)を入力する。
例:2004年1月31日と設定するには、1 + Enterキー + 31 + Enterキー + 2004 + Enterキーの順で入力します。
 - ② ↓キーで「System Time」を選び、時刻を24時間表示で入力する。
例:午後2時35分00秒と設定するには、14 + Enterキー + 35 + Enterキー + 00 + Enterキーの順で入力します。
- 4 Escキーを押す。
- 5 ↓キーで[Get Default Values]を選択し、Enterキーを押す。
- 6 「Load default configuration now?」と表示されるので、「Yes」を選択して、Enterキーを押す。
- 7 [Exit(Save Changes)]が選ばれていることを確認してEnterキーを押す。
- 8 「Save configuration changes and exit now?」と表示されるので、「Yes」を選択して、Enterキーを押す。

上記の操作を行っても本機が起動しない場合は、VAIOカスタマーリンクにご相談ください。

- 通常の操作で電源を切らなかった場合、プログラムの異常で、電源を制御するコントローラが停止している可能性があります。
クリップなどの細い棒で本機底面のリセットスイッチ(28ページ)を押してから、電源を入れ直してください。(シャープペンシルの芯など折れやすいものは、本機の故障の原因となりますので使用しないでください。)
それでも電源が入らない場合は、ACアダプタとバッテリーをはずして1分ほど待ってから取り付け直し、再度電源を入れてください。
- 寒い戸外から暖かい屋内に持ち込んだり、湿度の高い場所で使用した場合は、本機内部に結露が生じている可能性があります。
その場合は、1時間ほど待ってから電源を入れ直してください。
湿度の高い場所(80%以上)でのご使用は、本機の故障の原因となりますのでおやめください。

電源を入れても、**⏻(パワー)ランプ(グリーン)**は点灯するが画面に何も表示されない。

電源が入らないときの状況によって対処方法が異なります。次の点を確認した上で、それぞれの操作を行ってください。

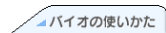
- 外部ディスプレイに表示が切り替えられている可能性があります。
Fnキーを押しながら、F7キーを押して表示を切り替えてください。(54ページ)
- しばらく様子を見ても画面に何も表示されないときは、下記の手順で操作を行ってください。
 - 1 本機の**⏻(パワー)**ボタンを4秒以上押したままにし、**⏻(パワー)ランプ**が消灯するのを確認してから、再度電源を入れ直す。
 - 2 それでも画面に何も表示されない場合は、クリップなどの細い棒で本機底面のリセットスイッチ(28ページ)を押してから、再度電源を入れ直す。
(シャープペンシルの芯など折れやすいものは、本機の故障の原因となりますので使用しないでください。)
 - 3 上記の操作を行っても何も表示されない場合は、本機の**⏻(パワー)**ボタンを4秒以上押したままにし、**⏻(パワー)ランプ**が消灯するのを確認したあと、ACアダプタとバッテリーをはずして1分ほど待ってから取り付け直し、再度電源を入れ直す。
- 寒い戸外から暖かい屋内に持ち込んだり、湿度の高い場所で使用した場合は、本機内部に結露が生じている可能性があります。
その場合は、1時間ほど待ってから電源を入れ直してください。
湿度の高い場所(80%以上)でのご使用は、本機の故障の原因となりますのでおやめください。

電源が切れない。

電源が切れないときの状況によって対処方法が異なります。次の点を確認した上で、それぞれの操作を行ってください。

- 使用中のソフトウェアは、次のいずれかの手順ですべて終了してください。
 - ソフトウェア画面の[×](閉じるボタン)をクリックする。
 - **Alt**キーを押しながら**F4**キーを押し、起動中のソフトウェアを終了させる。データが未保存の場合は、「保存しますか?」というメッセージが表示されるので、[はい]をクリックしてデータを保存してください。「コンピュータの電源を切る」画面が表示されるまで**Alt**キーを押しながら**F4**キーを押し、画面上の[電源を切る]をクリックしてください。




- 新しくインストールしたプログラムやデータ、その操作なども確認してください。
 - **Windows XP**は、周辺機器やネットワーク通信を行っている間は、電源が切れない仕組みになっています。また、周辺機器のデバイスドライバによっては、OSの強制的なプログラムの終了に対応していないものもあります。
- **USB機器やPCカードなどの周辺機器が接続されているときは、取りはずしてください。**
PCカードをお使いの場合は、「サイバーサポート」画面上部の
 **タブをクリックし、画面左側にある[接続／拡張]→[PCカード]→[PCカードを取り付ける／取り出す]の順にクリックし、「PCカードを取り出すには」の手順に従ってPCカードを取り出してください。**
 - 「設定を保存しています」または「**Windows**をシャットダウンしています」と表示されたまま動かない場合は、以下の操作を行ってください。
 - 1 Enter**キーを押す。
 - 2** それでも電源が切れない場合は、本機の(⏻) (パワー) ボタンを4秒以上押し続けたままにして、(⏻) (パワー) ランプが消灯するか確認する。
 - 前記すべての操作を行っても電源が切れない場合には、以下の操作を行ってください。

ただし、以下の操作を行うと、作業中のデータが破壊されるおそれがあります。また、ネットワークを使用している場合には、それらを使用していない状態にしてから以下の操作を行うようにしてください。

 - **Ctrl**キーと**Alt**キーを押しながら**Delete**キーを押して「**Windows** タスクマネージャ」画面を表示させ、「シャットダウン」メニューをクリックし、[コンピュータの電源を切る]をクリックする。
 - 本機の(⏻) (パワー) ボタンを4秒以上押し続けたままにする。
 - クリップなどの細い棒で本機底面のリセットスイッチ(28ページ)を押す。(シャープペンシルの芯など折れやすいものは、本機の故障の原因となりますので使用しないでください。)
 - **ACアダプタとバッテリー**をはずす。

電源が勝手に切れた。

- バッテリーで本機を使用中にバッテリーの残量がわずかになると、自動的に休止状態になり、電源が自動的に切れます。
ACアダプタで使用するか、バッテリーを充電してください。詳しくは、「サイバースポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[電源/バッテリー/省電力]→[バッテリー]→[バッテリーを充電する]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

Windowsの起動





電源を入れると、「No System disk or disk error. Replace and press any key when ready.」や「Invalid system disk. Replace the disk, and then press any key.」、「NTLDR is missing. Press any key to restart.」というメッセージが出て、Windowsが起動できない。

- フロッピーディスクがUSBフロッピーディスクドライブに入っていないか確認してください。
フロッピーディスクが入っているときは、イジェクトボタンを押してディスクを取り出し、キーボードのいずれかのキーを押してください。

電源を入れると、「Operating system not found」と表示され、Windowsが起動できない。

- フロッピーディスクがUSBフロッピーディスクドライブに入っていないか確認してください。
起動ディスク以外のフロッピーディスクが入っている場合は、イジェクトボタンを押してディスクを取り出してからCtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを押して本機を再起動してください。
再起動してもこのメッセージが表示され、Windowsが起動しない場合は、指定された方法以外のやりかたでパーティションサイズを変更している可能性があります。ハードディスク内のリカバリ機能や自作のリカバリディスクを使って、パーティションサイズを変更し、本機をリカバリしてください。(137ページ)

電源を入れると、「System Disable」と表示され、Windowsが起動しない。

- パワーオンパスワードを3回間違えて入力すると、「System Disable」と表示されWindowsが起動しません。
本機の  (パワー) ボタンを4秒以上押しただままにして、 (パワー) ランプが消灯するか確認してください。
その後、再度本機の電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。
パスワードを入力する際は、 (Num Lock) ランプや  (Caps Lock) ランプが点灯していないか確認してください。点灯している場合は、Num Lkキーを押すか、またはShiftキーを押しながらCaps Lockキーを押してランプを消灯させてから入力してください。


ハードディスクから起動できない。

- フロッピーディスクがUSBフロッピーディスクドライブに入っていないか確認してください。
フロッピーディスクが入っているときは、イジェクトボタンを押して取り出し、キーボードのいずれかのキーを押してください。

電源を入れたあと、「Press <F1> to resume, <F2> to Setup」と表示され、Windowsが起動しない。

- 内蔵バックアップバッテリーが消耗しています。
ACアダプタをつなぎ、本機を充電しながら、次の操作を行ってください。
- 1 電源を入れ、VAIOのロゴマークが表示されてから、F2キーを押す。
画面左下に「Entering SETUP...」と表示されたあと、BIOSセットアップ画面が表示されます。「Entering SETUP...」と表示されない場合は、F2キーを数回押してください。
 - 2 日時を確認する。
「System Date」、「System Time」に正しい日時が表示されているか確認する。間違った日時が表示されている場合は次の操作をしてください。
 - ① 「System Date」の項目に月/日/年(西暦)を入力する。
例：2004年1月31日と設定するには、1 + Enterキー + 31 + Enterキー + 2004 + Enterキーの順で入力します。
 - ② ↓キーで「System Time」を選び、時刻を24時間表示で入力する。
例：午後2時35分00秒と設定するには、14 + Enterキー + 35 + Enterキー + 00 + Enterキーの順で入力します。
 - 3 Escキーを押す。
 - 4 ↓キーで[Get Default Values]を選択し、Enterキーを押す。
 - 5 「Load default configuration now?」と表示されるので、「Yes」を選択して、Enterキーを押す。
 - 6 [Exit(Save Changes)]が選ばれていることを確認してEnterキーを押す。
 - 7 「Save configuration changes and exit now?」と表示されるので、「Yes」を選択して、Enterキーを押す。
- 上記の操作を行っても本機が起動しない場合は、VAIOカスタマーリンクにご相談ください。

電源を入れてから使えるまで時間がかかる。


- 本機を購入直後の状態では、電源を入れてからWindowsが起動し終わるまでに、数分の時間を要することがまれにあります。
「Norton AntiVirus 2003」ソフトウェアの「LiveUpdate」を実行することにより、この問題を解決することができます。
次の手順で「LiveUpdate」を行ってください。
- 1 [スタート]ボタンをクリックして、[すべてのプログラム]→[Norton AntiVirus]→[LiveUpdate - Norton AntiVirus]の順にクリックする。
 - 2 表示される画面の指示に従って、「LiveUpdate」を実行する。
- 
- 本機をウイルスから守るためにも、「LiveUpdate」を実行してください。
 - 「LiveUpdate」を実行するには、インターネットに接続している必要があります。

省電力動作モード

バッテリー残量がわずかなのに、休止状態にならない。

- 使用中のソフトウェアや接続している周辺機器によっては、Windowsからの指示で作業を一時中断することができないため、この機能が正しく働かないことがあります。

休止状態に移行できない。

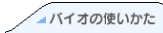
- モデム通信やプリンタユーティリティなどが使用中の場合は、終了するか一時的に使用不可にしてください。
- それでも休止状態に移行できない場合は、次の手順で操作してください。
 - 1 [スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックする。
 - 2 [パフォーマンスとメンテナンス]アイコンをクリックする。
 - 3 [電源オプション]アイコンをクリックする。
「電源オプションのプロパティ」画面が表示されます。
 - 4 [休止状態]タブで「休止状態を有効にする」がチェックされているか確認する。
チェックされていないときは、チェックボックスをクリックしてチェックしてください。
 - 5 [詳細設定]タブをクリックする。
 - 6 「電源ボタン」の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」が「休止状態」になっているか確認する。
「休止状態」になっていないときは、 をクリックして[休止状態]を選び、[OK]をクリックしてください。

スタンバイに移行できない。

- モデム通信やプリンタユーティリティなどが使用中の場合は、終了するか一時的に使用不可にしてください。
- スクリーンセーバーの種類によっては、表示中はスタンバイに移行できないことがあります。

電源オプションの設定が有効にならない。

- 付属の「PowerPanel」ソフトウェアを使用して設定してください。
本機では、「PowerPanel」ソフトウェアで省電力動作モードを管理しています。
設定方法について詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の

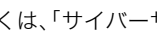
 タブをクリックし、画面左側にある[電源/バッテリー/省電力]→[省電力]→[省電力の設定を変更する]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

タッチパッド／キーボード

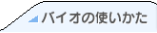
指がタッチパッドの端まできてしまい、これ以上動かせない。

→ 指をいったんタッチパッドから離し、中央に戻してください。

指がタッチパッドに触れただけで、クリックしてしまう。

→ タッチパッドの設定を変更し、タッピング機能を無効にしてください。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[キーボード／タッチパッド]→[タッチパッド]→[タッピング機能を無効にする]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

タッチパッドが働かない。


→ タッチパッドが無効になっています。タッチパッドの設定を変更し、タッチパッドを有効にしてください。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[キーボード／タッチパッド]→[タッチパッド]→[タッチパッドを無効にする／有効にする]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

→ 次の手順でタッチパッドの設定を確認してください。


- 1 [スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックする。
- 2 [プリンタとその他のハードウェア]アイコンをクリックする。
- 3 [マウス]アイコンをクリックする。
「マウスのプロパティ」画面が表示されます。
- 4 [タッピング]タブをクリックする。
- 5 「コーナーでタップしない」がチェックされていないことを確認する。
チェックされているときは、クリックしてチェックをはずします。

画面上のポインタが動かない。

→ CD-ROMなどのディスクを再生しているときにポインタが動かなくなる場合があります。
その場合は、次の手順で本機を再起動させてください。


- 1 **Ctrl**キーと**Alt**キーを押しながら**Delete**キーを押して「Windows タスク マネージャ」を表示させる。
- 2 [アプリケーション]タブでディスクの再生を強制的に終了させる。
- 3  キーを押して「スタート」メニューを表示させ、↑キーを押して[終了オプション]を選んで**Enter**キーを押す。
- 4 ↑キーまたは↓キーを押して[電源を切る]または[再起動]を選び、**Enter**キーを押す。

→ 次の手順で本機を再起動させてください。

- 1  キーを押して「スタート」メニューを表示させ、↑キーを押して [終了オプション] を選んで **Enter** キーを押す。
- 2 ↑キーまたは↓キーを押して [電源を切る] または [再起動] を選び、**Enter** キーを押す。

→ 上記の操作で電源が切れないまたは再起動しない場合は、次の手順で再起動させてください。


- 1 **Ctrl** キーと **Alt** キーを押しながら **Delete** キーを押して「Windows タスク マネージャ」を表示させる。
- 2 **Alt** キーを押しながら **U** キーを押してから ↑キーまたは ↓キーを押して [コンピュータの電源を切る] または [再起動] を選び、**Enter** キーを押す。

→ 以上の操作でも何も起こらないときは、本機の  (パワー) ボタンを 4 秒以上押し続けて電源を切ってください。

画面上のすべてのものが動かなくなりました。

→ 次の手順で本機を再起動してください。

- 1 **Ctrl** キーと **Alt** キーを押しながら **Delete** キーを押して「Windows タスク マネージャ」を表示させる。
- 2 **Alt** キーを押しながら **U** キーを押してから ↑キーまたは ↓キーを押して [再起動] を選び、**Enter** キーを押す。

→ 以上の操作でも何も起こらないときは、本機の  (パワー) ボタンを 4 秒以上押し続けて電源を切ってください。

タッチパッドでスクロール機能が働かない。

→ ソフトウェアによっては、タッチパッドのスクロール機能が使えないことがあります。

その場合は、タッチパッドの左右ボタンを同時に押して、オートスクロール機能を可能にしてからスクロールしてください。




タッチパッドをなぞっただけで、ウィンドウが閉じてしまう。

→ スマートアクションの機能を無効にしてください。

次の手順に従ってタッチパッドの設定を確認してください。

- 1 [スタート] ボタンをクリックして、[コントロール パネル] をクリックする。
- 2 [プリンタとその他のハードウェア] アイコンをクリックする。
- 3 [マウス] アイコンをクリックする。
「マウスのプロパティ」画面が表示されます。
- 4 [機能] タブをクリックする。
- 5 「左コーナーの設定」を「なし」にする。

キーボードを押したとおりに文字が入力できない。

- 入力モードを確認してください。
日本語入力モードと英字入力モードがあります。日本語入力モードのときは言語バーのアイコンが「あ」に、英字入力モードのときは「A」になっています。日本語入力モードと英字入力モードは、半角/全角キーで切り替えられます。
-  (Caps Lock) ランプが点灯していないか確認してください。
 (Caps Lock) ランプが点灯していると、Shiftキーを押さなくても大文字が入力されます。Shiftキーを押しながらCaps Lockキーを押してランプを消灯させてから入力してください。
-  (Num Lock) ランプが点灯していないか確認してください。
U、I、O、J、K、L、M、@などの文字が入力できない場合は、Num Lock(ナムロック)が有効になっている場合があります。点灯している場合は、Num Lkキーを押してランプを消灯させてから入力してください。(51ページ)
- 次の手順で、キーボードのドライバが正しく設定されているか確認してください。
異なるキーボードタイプに設定していると、入力したい文字と違う文字が表示されることがあります。
 - 1 [スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックする。
 - 2 [パフォーマンスとメンテナンス]アイコンをクリックする。
 - 3 [システム]アイコンをクリックする。
 - 4 [ハードウェア]タブの[デバイス マネージャ]をクリックする。
 - 5 キーボードの項目が「日本語 PS/2 キーボード(106/109キー Ctrl+英数)」に設定されているか確認する。



キーボードの項目が「日本語 PS/2 キーボード(106/109キー Ctrl+英数)」に設定されていない場合は、次の手順で変更してください。(日本語配列キーボードモデルのみ)

- ① キーボードの項目に表示されているキーボード名を右クリックし、[ドライバの更新]をクリックする。
「ハードウェアの更新ウィザード」画面が表示されます。
- ② [一覧または特定の場所からインストールする]をクリックしてチェックし、[次へ]をクリックする。
- ③ [検索しないで、インストールするドライバを選択する]をクリックしてチェックし、[次へ]をクリックする。
- ④ [互換性のあるハードウェアを表示]をクリックしてチェックをはずし、同じ画面の「製造元」で[(標準キーボード)]が選択されているか確認したあと、「モデル」から[日本語 PS/2 キーボード(106/109キー Ctrl+英数)]を選択し、[次へ]をクリックする。
- ⑤ ここで「ドライバの更新警告」画面が表示されますが、[はい]をクリックする。
- ⑥ 「ハードウェアの更新ウィザードの完了」画面が表示されるので、[完了]をクリックする。
- ⑦ 「システム設定の変更」画面で再起動を促すメッセージが表示されるので、[はい]をクリックして再起動を行う。

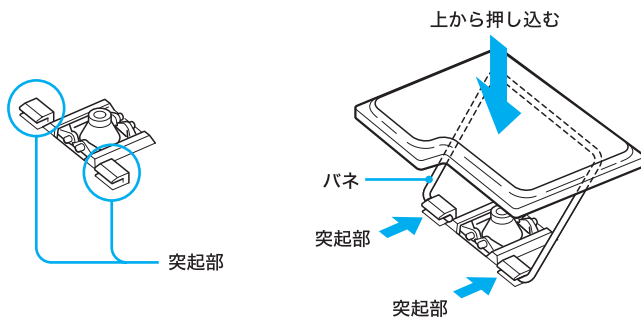
キートップがはずれた。

- Enterキーと、キーボード左側の Shiftキー、スペースキー、Caps Lockキー、Ctrlキーがはずれた場合は、次の図に従って取り付けてください。

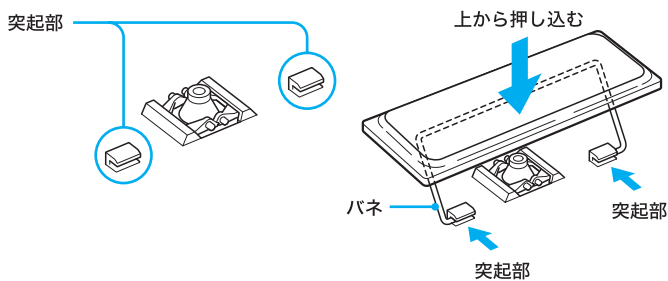
キートップの取り付けかた

キートップから針金のバネを取りはずして、突起部にひっかけ、キートップの中心を合わせて「カチッ」と音がするまで上から押し込みます。

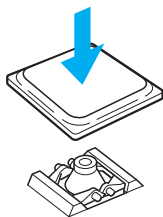
Enterキー



キーボード左側の Shiftキー、スペースキー、Caps Lockキー、Ctrlキー

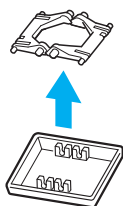


- 上記以外のキートップがはずれたときは、元の位置に戻して「カチッ」と音がするまで上から押し込んでください。

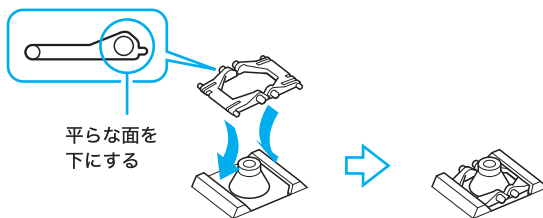


→ 前記以外のキートップで、キートップにプラスチックのバネがついたままはずれた場合は、次の手順に従って取り付けてください。

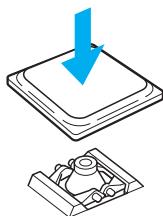
1 キートップからプラスチックのバネを取りはずす。



2 バネの平らな面を下にし、向きを確認してからキーボードに取り付ける。



3 キートップを元の位置に戻して「カチッ」と音がするまで上から押し込む。




ご注意




- キートップを故意にはずさないでください。故障の原因となります。
- 取り付けるときに無理に力を加えると破損の原因となります。取り扱いには充分ご注意ください。

文字入力

文字の入力方法がわからない。

- 「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[コンピュータの基礎を学ぶ] できるWindows for VAIO]をクリックして表示される情報をご覧ください。

キーボードを押したとおりに文字が入力できない。

- 入力モードを確認してください。
日本語入力モードと英字入力モードがあります。日本語入力モードのときは言語バーのアイコンが「あ」に、英字入力モードのときは「A」になっています。日本語入力モードと英字入力モードは、半角/全角キーで切り替えられます。
-  (Caps Lock) ランプが点灯していないか確認してください。
 (Caps Lock) ランプが点灯していると、Shiftキーを押さなくても大文字が入力されます。Shiftキーを押しながらCaps Lockキーを押してランプを消灯させてから入力してください。
-  (Num Lock) ランプが点灯していないか確認してください。
U、I、O、J、K、L、M、@などの文字が入力できない場合は、Num Lock(ナムロック)が有効になっている場合があります。点灯している場合は、Num Lkキーを押してランプを消灯させてから入力してください。(51ページ)
- 次の手順で、キーボードのドライバが正しく設定されているか確認してください。
異なるキーボードタイプに設定していると、入力したい文字と違う文字が表示されることがあります。
 - 1 [スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックする。
 - 2 [パフォーマンスとメンテナンス]アイコンをクリックする。
 - 3 [システム]アイコンをクリックする。
 - 4 [ハードウェア]タブの[デバイス マネージャ]をクリックする。
 - 5 キーボードの項目が「日本語 PS/2 キーボード (106/109キー Ctrl+英数)」に設定されているか確認する。



キーボードの項目が「日本語 PS/2 キーボード(106/109キー Ctrl+英数)」に設定されていない場合は、次の手順で変更してください。(日本語配列キーボードモデルのみ)

- ① キーボードの項目に表示されているキーボード名を右クリックし、[ドライバの更新]をクリックする。
「ハードウェアの更新ウィザード」画面が表示されます。
- ② [一覧または特定の場所からインストールする]をクリックしてチェックし、[次へ]をクリックする。
- ③ [検索しないで、インストールするドライバを選択する]をクリックしてチェックし、[次へ]をクリックする。
- ④ [互換性のあるハードウェアを表示]をクリックしてチェックをはずし、同じ画面の「製造元」で[(標準キーボード)]が選択されているか確認したあと、「モデル」から[日本語 PS/2 キーボード(106/109キー Ctrl+英数)]を選択し、[次へ]をクリックする。
- ⑤ ここで「ドライバの更新警告」画面が表示されますが、[はい]をクリックする。
- ⑥ 「ハードウェアの更新ウィザードの完了」画面が表示されるので、[完了]をクリックする。
- ⑦ 「システム設定の変更」画面で再起動を促すメッセージが表示されるので、[はい]をクリックして再起動を行う。


入力した文字が表示されない。

- 文字を入力したいソフトウェアの画面を前面に出してください。
画面のどこかをクリックするか、AltキーとTabキーを同時に押して目的のソフトウェアを前面に出してください。

IMEの言語バーが表示されない。

- IMEの言語バーが表示されない場合は、次の手順で操作し言語バーを表示させてください。
- 1 [スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックする。
 - 2 [日付、時刻、地域と言語のオプション]、[地域と言語のオプション]アイコンを順にクリックする。
「地域と言語のオプション」画面が表示されます。
 - 3 [言語]タブをクリックし、[詳細]をクリックする。
「テキスト サービスと入力言語」画面が表示されます。
 - 4 [言語バー]をクリックする。
「言語バーの設定」画面が表示されます。
 - 5 [言語バーをデスクトップ上に表示する]をクリックしてチェックし、[OK]をクリックする。
 - 6 「テキスト サービスと入力言語」画面、「地域と言語のオプション」画面でそれぞれ[OK]をクリックして画面を閉じる。



言語バー右上の (最小化ボタン)をクリックすると言語バーはタスクバーに収納され、タスクバーに常に表示させておくことができます。


文字入力中に勝手にカーソルが移動する。

- タップ機能をおフにしてください。
 - 1 [スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックする。
 - 2 [プリンタとその他のハードウェア]アイコンをクリックする。
 - 3 [マウス]アイコンをクリックする。
 - 4 [タッピング]タブをクリックする。
 - 5 [タッピング]をクリックしてチェックをはずす。
 - 6 [OK]をクリックする。

拡大ボタン

⊕ (拡大) ボタンを押しても、画面の解像度が切り替わらない。

- 「画面のプロパティ」で液晶ディスプレイの解像度を 1,024 × 600 ドットより小さい設定にした場合は、⊕ (拡大) ボタンを押しても切り替わりません。「画面のプロパティ」で他の設定に変更してください。

詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある [ディスプレイ/音] → [ディスプレイ] → [ディスプレイの解像度/色数を変更する] の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

- CPU に高い負担のかかるソフトウェアを実行中に、⊕ (拡大) ボタンを押すと、不具合が生じることがあります。
このような場合は、⊕ (拡大) ボタンをお使いにならないことをおすすめします。
- 外部ディスプレイをつないで表示しているときに ⊕ (拡大) ボタンを押しても、解像度を変更することはできません。

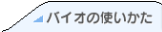
動画再生中、⊕ (拡大) ボタンで拡大できない。

- ⊕ (拡大) ボタンは、動画再生中の画面の解像度変更には対応していません。
動画再生をいったん終了してから ⊕ (拡大) ボタンを押してください。

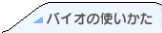
液晶ディスプレイ／外部ディスプレイ

液晶ディスプレイに何も表示されない。

- LCD/Videoスタンバイになっている場合があります。
タッチパッドに触れるか、キーボードのいずれかのキーを押してください。
- 外部ディスプレイに表示が切り替えられている場合があります。
Fnキーを押しながら、F7キーを押して表示を切り替えてください。(54ページ)
- 本機はエネルギースター規格に基づいて設計されており、工場出荷時の設定では、AC電源でご使用中に約30分操作しないと、自動的に省電力動作モードへ移行します(スタンバイ^{*1})。キーボードのいずれかのキーを押すか、⏻(パワー)ボタン^{*2}を一瞬押すと、元の状態に戻ります。
また、バッテリーでご使用中に約30分操作しないと、自動的に本機の電源を切ります(休止状態^{*1})。
元の状態に復帰させるには、⏻(パワー)ボタンを一瞬押してください。
ご使用中に省電力動作モードへ移行しないように設定^{*3}することもできます。

^{*1} 詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[電源/バッテリー/省電力]→[省電力]→[本機を使っていないときに消費電力をおさえる(省電力動作モード)]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

^{*2} ⏻(パワー)ボタンを4秒以上押し続けると保存された状態が破棄されますのでご注意ください。

^{*3} 詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[電源/バッテリー/省電力]→[省電力]→[省電力の設定を変更する]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

液晶ディスプレイが暗い。

- Fnキーを押しながらF5キーを押すと、液晶ディスプレイの明るさを調節できます。(53ページ)

液晶ディスプレイの明るさ設定が変わってしまう。

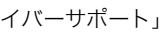
- Fnキーを押しながらF5キーを押すことで設定する液晶ディスプレイの明るさは、一時的なものです。液晶ディスプレイの明るさ設定を保存したい場合は、下記の手順に従って操作してください。
なお、この操作を行うには、「コンピュータの管理者」など、管理者権限を持つユーザーとしてログオンする必要があります。

- 1 [スタート]ボタンをクリックし、[すべてのプログラム]→[Performance Balancer]の順にポインタをあわせ、[Performance Balancer]をクリックする。
「Performance Balancer」画面が表示されます。
- 2 バッテリー使用時の設定を変更するときは[バッテリー使用]タブをクリックし、AC電源使用時の設定を変更するときは[電源に接続]タブをクリックする。
- 3 「電源設定」から「お好み設定」を選び、「液晶の明るさ」をお好みの値に調節する。



液晶ディスプレイの表示が拡大表示されない。

- Fnキーを押しながらFキーを押して設定してください。
解像度を変えずに画面いっぱいに表示されます。また、本機を再起動した場合にも、再度Fnキーを押しながらFキーを押して設定し直してください。(55ページ)

画面の表示サイズ、表示位置がおかしい。

- 外部ディスプレイに表示している場合は、ディスプレイの調整つまみで設定してください。
詳しくは、ディスプレイの取扱説明書をご覧ください。
- 本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイや液晶プロジェクタを同時に表示する場合は、画面表示の設定を変更してお使いください。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[ディスプレイ/音]→[ディスプレイ]→[ディスプレイの解像度/色数を変更する]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。


外部ディスプレイに何も表示されない。

- 表示するディスプレイの設定を確認してください。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[ディスプレイ/音]→[ディスプレイ]→[表示するディスプレイを選ぶ]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。
- 本機を起動中、ユーザーの簡易切り替えを行うと、その後Fnキーを押しながらF7キーを押して表示するディスプレイを変更することができません。本機起動時のユーザーでログオンし直すか、表示するディスプレイの設定を変更してください。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[ディスプレイ/音]→[ディスプレイ]→[表示するディスプレイを選ぶ]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

外部ディスプレイの表示サイズ、表示位置がおかしい。

- ディスプレイの調整つまみで設定する。詳しくは、ディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

デスクトップ画面上にウィンドウやアイコンの軌跡が残る。

-  キーを押しながらDキーを2回押してください。

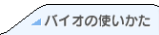
Windowsの文字サイズを大きくしたい。

- Windowsのフォントサイズの設定を変更することで、ディスプレイに表示される文字サイズを大きくすることができます。
次の手順で操作してください。
 - 1 [スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックする。
 - 2 [デスクトップの表示とテーマ]アイコンをクリックする。
 - 3 [画面]アイコンをクリックする。
 - 4 [デザイン]タブをクリックし、「フォント サイズ」で「大きいフォント」または「特大フォント」を選択する。
 - 5 [OK]をクリックする。

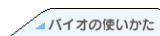
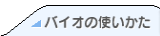
CD/DVDディスク

ドライブが使えない。

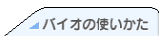
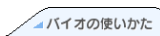
- 「PowerPanel」ソフトウェアの「内蔵ドライブ」を確認してください。
「PowerPanel」ソフトウェアの「内蔵ドライブ」を「電源オフ」にしているときは、ドライブを使用できません。
この場合は、「内蔵ドライブ」を「電源オン」にしてください。
(本機では、工場出荷時の設定で「PowerPanel」ソフトウェアで「スーパースタミナ」プロファイルを選ぶと、「内蔵ドライブ」は「電源オフ」に設定されます。)

詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[電源/バッテリー/省電力]→[省電力]→[省電力の設定を変更する]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

CD-ROMなどのディスクが再生できない。

- ディスクが正しくトレイに置かれているか確認してください。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[CD/DVD]→[ディスクを入れる/取り出す]→[CDやDVDなどのディスクを入れる/取り出す]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。
- ディスクの再生面を柔らかい布できれいに拭き、汚れをとってください。(148ページ)
- 結露(141ページ)が生じている可能性があります。1時間くらい待って電源を入れ直してから、もう1度再生してください。
- 再生音量を確認してください。
- 本機で使用できるディスクかどうか確認してください。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[CD/DVD]→[ご注意など]→[使用できるCDやDVDなどのディスク]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

DVDが再生できない。

- DVDディスクの地域番号(リージョンコード)が合っているか確認してください。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[CD/DVD]→[ご注意など]→[再生可能なDVDビデオの地域番号(リージョンコード)について]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。
- 本機の液晶ディスプレイの設定が、標準の解像度以下に設定されているか確認してください。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[ディスプレイ/音]→[ディスプレイ]→[ディスプレイの解像度/色数を変更する]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

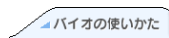
- リフレッシュレートを変更している場合は、次の手順に従って設定を変更してください。
- 1 [スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックする。
 - 2 [デスクトップの表示とテーマ]アイコンをクリックする。
 - 3 [画面]アイコンをクリックする。
「画面のプロパティ」画面が表示されます。
 - 4 [設定]タブをクリックする。
 - 5 [詳細設定]をクリックする。
 - 6 [モニタ]タブをクリックし、リフレッシュレートを 60 ヘルツに設定する。
 - 7 [OK]をクリックする。
手順3の画面に戻ります。
 - 8 [OK]をクリックする。

ディスクの再生時、音がとぎれる。

- ディスクの再生面を柔らかい布できれいに拭き、汚れをとってください。
(148ページ)

ディスクが取り出せない。

- 本機が省電力動作モードのときは、ディスクを取り出せません。
通常モードに復帰させてから、イジェクトボタンを押してください。
省電力動作モードについて詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の

 タブをクリックし、画面左側にある[電源/バッテリー/省電力]→[省電力]→[本機を使っていないときに消費電力をおさえる(省電力動作モード)]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

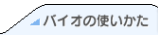
イジェクトボタンを押してもディスクが取り出せない。

- 針金のようなもの(太めのクリップで代用可)を、本機のドライブ側面にあるマニュアルイジェクト穴に押し込んでください。

CD-RWの読み出しが遅い。

- CD-RWディスクの読み出しは、一般にCD-RやCD-ROMの読み出しよりも時間がかかります。また、フォーマットの種類によっても大きく異なります。

ディスクに書き込めない。

- ディスクにデータを書き込む際のご注意をご確認ください。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[CD/DVD]→[ご注意など]→[CDやDVDなどのディスクにデータを書き込むときのご注意]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

CD-Rに書き込めない。

- CD-Rは1度書き込むと書き替えはできません。
ソフトウェアによっては、ディスクに空きがあるときは追記可能な場合があります。

DVD-R、DVD-RWに書き込めない。

- DVD-RWドライブ搭載モデルでのみ書き込めます。(23ページ)
- DVD-Rは1度書き込むと、書き替えはできません。
書き込んだデータを削除することもできません。

DVD-R、DVD-RWの書き込みに時間がかかる。(DVD-RWドライブ搭載モデルのみ)

- DVD-R、DVD-RWにディスク・アット・ワンスで書き込む場合、データは最低限1 Gバイト(1倍速で約12分)で書き込む必要があります。
書き込むデータの容量が1 Gバイト以下の場合、本機では合計で1 Gバイトまで仮の書き込みを行います。これは、規格上、再生互換を保つためです。
そのため、DVD-R、DVD-RWに書き込むときに、1 Gバイト未満のデータを書き込んだ場合、データの書き込みは終了していても、仮のデータ書き込み処理完了までさらに20分～40分かかることがあります。

「ディスク・アット・ワンス」とは

ディスクに1回だけデータを書き込む方法です。この方法で書き込むと、小さなデータしか書き込んでいなくても、データの追加書き込みはできません。ディスク・アット・ワンスで書き込んだディスクしか再生できないプレーヤーもありますので、本機以外で再生する場合には、書き込み方法をご確認ください。


CD-RWに書き込んだMPEG2データを再生すると、正常に再生できない。

- CD-RWディスクの読み込み速度は、DVD-RやDVD-RW、CD-Rと比べて遅いため、高画質のMPEG2データは再生できないことがあります。
ハードディスクにコピーするか、DVD-RやDVD-RWに書き込むなどして、再生してください。
ただし、CD-RW/DVDドライブ搭載モデルではDVDディスクに書き込むことはできません。

「Click to DVD」ソフトウェアで作成したDVDビデオの動画が正常に再生できない。(一部ソニースタイルモデル)



→ 「Norton AntiVirus 2003」ソフトウェアをお使いの場合、動画の取り込みが正常に行われない場合があります。

正常に取り込みを行うためには、「Norton AntiVirus 2003」ソフトウェアのウイルススキャンの設定を以下の手順に従って変更することをおすすめします。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[すべてのプログラム]→[Norton AntiVirus]の順にポインタをあわせ、[Norton AntiVirus 2003]をクリックする。
「Norton AntiVirus 2003」ソフトウェアが起動します。
- 2 「Norton AntiVirus」画面上部の  (オプション) をクリックする。
「Norton AntiVirus オプション」画面が表示されます。
- 3 「Norton AntiVirus オプション」画面左側の「システム」の [Auto-Protect] → [除外] の順にクリックする。
「Norton AntiVirus オプション」画面右側に「Auto-Protect 除外リスト」が表示されます。
- 4 「Auto-Protect 除外リスト」の「除外する項目」右側の [新規] をクリックする。
除外する項目を追加する画面が表示されます。

ご注意

「Click to DVD」ソフトウェアで保存先のフォルダをご自分で追加した場合は、追加したフォルダも除外リストに追加してください。

- 5 「サブフォルダも含める」が  になっているのを確認し、 をクリックする。
「フォルダの参照」画面が表示されます。
- 6 [ローカルディスク (D:)] → [Click to DVD] の順にダブルクリックする。
- 7 [OK] をクリックする。
手順4で表示された画面に「D: ¥ Click to DVD」と表示されます。
- 8 [OK] をクリックする。
- 9 「除外する項目」に「D: ¥ Click to DVD」が追加されていることを確認し、[OK] をクリックする。

ご注意

- 「Click to DVD」ソフトウェアで保存先のフォルダをご自分で追加した場合は、手順4に戻り、追加したフォルダを除外リストに追加してください。
- この設定を行うと、「Click to DVD」ソフトウェアで取り込んだフォルダはウイルスチェックされなくなりますので、これらのフォルダのウイルスチェックを定期的に手動で行ってください。
この設定は、お客様の責任において行ってください。


他のコンピュータで作成したCD-RやCD-RWが読めない。

→ CD-RやCD-RWを作成した機器側で、他の機器でも読み込みできるように処理する必要があります。

詳しくは、CD書き込みを行った機器のマニュアルをご覧ください。

“メモリースティック”

「書き込み禁止」または「書き込み保護されています」というメッセージが表示された。

- “メモリースティック”が書き込み禁止になっています。
タブを動かして書き込み可能にしてください。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[“メモリースティック”/フロッピーディスク]→[“メモリースティック”]→[“メモリースティック”のデータを誤って消さないようにする]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

フロッピーディスク

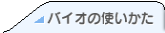
フロッピーディスクが取り出せない。

- USBフロッピーディスクドライブを取りはずして、VAIOカスタマーリンクにご連絡ください。


「ディスクがいっぱいです」というメッセージが表示され、ファイルなどをフロッピーディスクに保存できない。

- フロッピーディスクの容量の空きがありません。
容量の空きが充分にある別のフロッピーディスクを使って保存し直してください。

「書き込み禁止」というメッセージが表示された。

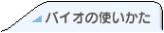
- フロッピーディスクが書き込み禁止になっています。
タブを動かして書き込みを可能にしてください。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[“メモリースティック”/フロッピーディスク]→[フロッピーディスク]→[フロッピーディスクのデータを誤って消さないようにする]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

「マイ コンピュータ」からフロッピーディスクを選んで初期化しようとしたができない。

- フロッピーディスクが書き込み禁止になっています。
タブを動かして書き込みを可能にしてください。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[“メモリースティック”/フロッピーディスク]→[フロッピーディスク]→[フロッピーディスクのデータを誤って消さないようにする]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。
- フロッピーディスクがUSBフロッピーディスクドライブにきちんと入っているか確認してください。

- フロッピーディスクの内容画面を閉じてください。
「アプリケーションが使用中です」というメッセージが出たときは、フロッピーディスクの内容が画面に表示されています。画面表示されているときは初期化できませんので、フロッピーディスクのウィンドウを閉じてください。

フロッピーディスクにアクセスできない。


- お使いになるフロッピーディスクのフォーマットなどをご確認ください。
本機で使用できるフロッピーディスクについて詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある「メモリスティック」/フロッピーディスク]→[フロッピーディスク]→[使用できるフロッピーディスク]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

内蔵カメラ(MOTION EYE)

内蔵カメラ(MOTION EYE)からの映像が表示されない。

- 内蔵カメラ(MOTION EYE)を使うソフトウェアを複数同時に使用することはできません。
そのソフトウェアを終了させてください。
- 画面モードや色数、その他の使用状況によっては、ビデオメモリが不足するため、カメラからの映像が表示されない場合があります。
その場合は、解像度を下げたり色数を減らしてください。
- 上記のことをしても、内蔵カメラ(MOTION EYE)からの映像が表示されない場合は、本機を再起動してください。

内蔵カメラ(MOTION EYE)が使えない。

- 内蔵カメラ(MOTION EYE)を使うソフトウェアを複数同時に使用することはできません。
そのソフトウェアを終了させてください。
- 「PowerPanel」ソフトウェアの「内蔵カメラ」を確認してください。
「PowerPanel」ソフトウェアの「内蔵カメラ」を「電源オフ」にしているときは、カメラを使用できません。この場合は、「内蔵カメラ」を「電源オン」にしてください。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある「電源/バッテリー/省電力」→「省電力」→「消費電力を節約する(「PowerPanel」ソフトウェアを使う)」の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

- 前記のことをしてもカメラが使えない場合は、カメラのドライバを再インストールする必要があります。
次の手順に従って再インストールしてください。
- 1 [スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックする。
- 2 [パフォーマンスとメンテナンス]アイコンをクリックする。
- 3 [システム]アイコンをクリックする。
- 4 [ハードウェア]タブの[デバイス マネージャ]をクリックする。
- 5 [イメージング デバイス]をダブルクリックする。
- 6 [Sony Visual Communication Camera VCC-U01]を右クリックし、[ドライバの更新]をクリックする。

静止画を撮影するときに、CAPTURE (キャプチャ) ボタンを押してもすぐに画像が取り込まれない。

- 静止画の取り込み時は、カメラの動作モードが切り替わるため、本機のCPUパフォーマンスや負荷状態、画像サイズによってCAPTURE (キャプチャ) ボタンを押してから実際に画像の取り込み動作が行われるまでに時間差が生じることがあります。

内蔵カメラ (MOTION EYE) からの映像が数秒間止まることがある。

- 次の場合、映像が数秒間止まることがありますが、故障ではありません。
 - Fnキーを使ったキーボードショートカットを行ったとき。
 - CPUの負荷が高くなったとき。


内蔵カメラ (MOTION EYE) で撮影した静止画、動画の画像が粗く映る。

- ピントがあっていない場合は、フォーカスリングでピントを調節してください。(56ページ)
- 蛍光灯の下で撮影した画像は光の反射が映ることがあります。
- 撮影した画像に暗い部分があるときは、ノイズがでることがあります。
- レンズ前面のミラープレートが汚れていると、きれいに撮影できません。汚れていたらきれいにしてください。(149ページ)


「Network Smart Capture」ソフトウェアのファインダに映る画像が悪い。または、画像が表示されない。

- ピントがあっていない場合は、フォーカスリングでピントを調節してください。
- 動きの速い被写体をファインダに表示させると段差のようなものや、横すじが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。
- 「Network Smart Capture」ソフトウェアは、内蔵カメラ (MOTION EYE) を使う他のソフトウェアと同時に使用することができません。「Network Smart Capture」を使うときは、これらのソフトウェアを終了してください。


ホワイトバランスが合っていない。

- 次の手順を行ってしばらく待つと、適切な設定になります。
 - 1 「Network Smart Capture」画面下にある  をクリックする。
 - 2 [カメラ調整]タブをクリックする。
 - 3 「ホワイトバランス」で[オート]を選択する。
- 「ホワイトバランス」で[ホールド]を選択した状態で「Network Smart Capture」ソフトウェアを終了すると、次回起動したときにホワイトバランスが適切な設定にならない場合があります。

内蔵カメラ (MOTION EYE) からの画像が白っぽく表示される。

- 次の手順を行ってしばらく待つと、適切な設定になります。
 - 1 「Network Smart Capture」画面下にある  をクリックする。
 - 2 [カメラ調整]タブをクリックする。
 - 3 「シャッタースピード」で[オート]を選択する。
- 「シャッタースピード」で[ホールド]が選択されていると、シャッタースピードが適切な設定にならず、映像が白っぽく表示されることがあります。

動画を撮影するときに、コマ落ちが発生したり、音声が途切れたりする。

- 「Network Smart Capture」ソフトウェアのエフェクトの設定により、コマ落ちが発生することがあります。
詳しくは、「Network Smart Capture」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
- 複数のソフトウェアが起動していると、コンピュータの処理能力を超えることがあります。
使用していない起動中のソフトウェアを終了してください。
- 本機のパワーマネージメント機能が働いている。
CPUのパフォーマンス設定をご確認ください。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[電源 / バッテリー / 省電力] → [省電力] → [CPUのパフォーマンスを確認する] の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

バッテリー駆動時に動画を再生しているとコマ落ちする。

- AC電源をつないでお使いください。

動画撮影時に内蔵マイクや外部マイクから音声を取り込めない。

- 録音デバイスとしてマイクが選択されていない可能性があります。
マイクの設定を確認してください。(214ページ)

ダイヤルアップでインターネットに接続できない。

モデムがダイヤルしていない。(初めてダイヤルする場合)

→ 一般電話回線に接続しているか確認してください。

使用可能な回線は、一般電話回線です。その他の回線に接続した場合には、故障・発火の原因となることがあります。会社やホテルなどのPBX回線に接続する場合は、本機の内蔵モデムに対応しているかどうかを、回線管理者やホテルのフロントなどにお問い合わせください。

会社やホテルなどの回線が使用可能な場合

次の手順に従って外線発信番号を設定し(0発信など)、ダイヤルトーン(受話器を上げたときの「ツー」という音)を待たずにダイヤルするように設定してください。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして、[コントロールパネル]をクリックする。
「コントロールパネル」画面が表示されます。
- 2 [プリンタとその他のハードウェア]アイコンをクリックする。
- 3 [電話とモデムのオプション]アイコンをクリックする。
「電話とモデムのオプション」画面が表示されます。
- 4 設定されている所在地をクリックして選び、[編集]をクリックする。
「所在地の編集」画面が表示されます。
- 5 ダイヤル元の市外局番を半角の数字で入力し、「市内通話の場合の外線発信番号」と「市外電話の場合の外線発信番号」に半角で「0」(ゼロ)と入力する(0発信の場合)。
- 6 [OK]をクリックする。
- 7 [モデム]タブをクリックする。
- 8 お使いのモデムをクリックして選び、[プロパティ]をクリックする。
- 9 [モデム]タブをクリックし、「ダイヤルの管理」の[発信音を待ってからダイヤルする]のチェックボックスをクリックして、チェックをはずす。
- 10 [OK]をクリックする。
- 11 「電話とモデムのオプション」画面で[OK]をクリックし、画面を閉じる。

→ 接続状態を確認してください。

- テレホンコードの接続を確認する。
「発信音が聞こえません」とメッセージが表示されたときは、本機側の□(モジュラジャック)と壁側の電話回線のコンセントの接続を確認してください。
「カチッ」と音がするまでモジュラジャックに差し込んでください。
また、予備のテレホンコードがあれば、テレホンコードを交換して試してください。
- 分配器を使わずに、電話回線のコンセントにテレホンコードを直接接続しているか確認する。
また、テレホンコードが長すぎないか、電話機の子機に接続していないか確認してください。
- ISDN回線に接続しているときは、ターミナルアダプタが使える状態になっているか確認する。
詳しくは、ターミナルアダプタの取扱説明書をご覧ください。

→ モデムがWindowsに正しく認識されているか確認してください。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックする。
「コントロール パネル」画面が表示されます。
- 2 [プリンタとその他のハードウェア]アイコンをクリックする。
- 3 [電話とモデムのオプション]アイコンをクリックし、[モデム]タブをクリックする。
- 4 お使いのモデムをクリックして選び、[プロパティ]をクリックし、[診断]タブをクリックする。
- 5 [モデムの照会]をクリックする。
コマンドとその応答が表示されたら、モデムは正しく認識されています。


正しく認識されていないときは

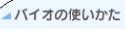
正しく認識されていないときは次の手順で操作し、COMポートのリソース(IRQなど)が他のデバイスと競合していないか確認してください。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックする。
- 2 [パフォーマンスとメンテナンス]アイコンをクリックする。
- 3 [システム]アイコンをクリックする。
「システムのプロパティ」画面が表示されます。
- 4 [ハードウェア]タブの[デバイス マネージャ]をクリックする。
「デバイス マネージャ」画面が表示されます。
デバイスのアイコンに「！」がついているものは、他のデバイスと競合を起している可能性があります。

競合している場合は


競合している場合は次の手順でデバイスを無効にしてください。
また、競合しているデバイスが着脱可能な場合は、本機から取りはずせば競合は解消します。

- 1 「デバイス マネージャ」画面で競合しているデバイスをダブルクリックする。
- 2 [全般]タブの「デバイスの使用状況」の  をクリックし、表示されるリストから[このデバイスを使わない(無効)]をクリックする。
- 3 [OK]をクリックする。

→ 「PowerPanel」ソフトウェアの「内蔵モデム」を確認してください。
「PowerPanel」ソフトウェアの「内蔵モデム」を「電源オフ」にしているときは、モデムを使用できません。この場合は、「内蔵モデム」を「電源オン」にしてください。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[電源/バッテリー/省電力]→[省電力]→[本機を使っていないときに消費電力をおさえる(省電力動作モード)]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

モデムがダイヤルしていない。(今までできていたのにできなくなった場合)

→ 3分以内に3回以上同じ電話番号にかけた場合は、リダイヤル制限がかかりダイヤルできなくなります。
3分以上時間をおいてからかけ直してください。

- 「PowerPanel」ソフトウェアの「内蔵モデム」を確認してください。
 「PowerPanel」ソフトウェアの「内蔵モデム」を「電源オフ」にしているときは、モデムを使用できません。この場合は、「内蔵モデム」を「電源オン」にしてください。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[電源/バッテリー/省電力]→[省電力]→[本機を使っていないときに消費電力をおさえる(省電力動作モード)]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

モデムはダイヤルしているが接続できない。(接続の動作(ネゴシエーション)が始まらない場合)

- ダイヤル方法を確認してください。
 お使いの電話回線のダイヤル方法がトーン式ダイヤルかパルス式ダイヤルかを確認し、次の手順に従って操作し、ダイヤル方法が正しく設定されているか確認してください。



お使いの電話回線のダイヤル方法がわからない場合は、電話会社から送られてくる請求内訳表をご覧ください。請求内訳表の中に「フッシュ回線使用料」と記載されている場合は「トーン式ダイヤル」です。回線(基本)使用料のみ記載されている場合は「パルス式ダイヤル」です。電話回線のダイヤル方法について詳しくは、契約している電話会社へお問い合わせください。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして、[コントロールパネル]をクリックする。
「コントロールパネル」画面が表示されます。
 - 2 [プリンタとその他のハードウェア]アイコンをクリックする。
 - 3 [電話とモデムのオプション]アイコンをクリックする。
「電話とモデムのオプション」画面が表示されます。
 - 4 設定されている所在地をクリックして選び、[編集]をクリックする。
「所在地の編集」画面が表示されます。
 - 5 「ダイヤル方法」が電話回線の種類と同じか確認する。
 - 6 [OK]をクリックする。
 - 7 「電話とモデムのオプション」画面で[OK]をクリックし、画面を閉じる。
- 接続先の回線が混雑している可能性があります。
 「電話回線がビジーです。」と表示された場合には、接続先の回線が混んでいます。しばらく待ってから接続し直してください。
- 接続先の設定(電話番号など)を再確認してください。
 「リモートコンピュータが応答していません」や「ユーザー名またはパスワード、あるいはその両方が無効なため、このドメインにアクセスできませんでした」といったメッセージが表示されるときは、次の手順でプロバイダやネットワークに接続するための設定を確認してください。
- 1 [スタート]ボタンをクリックして、[コントロールパネル]をクリックする。
「コントロールパネル」画面が表示されます。
 - 2 [ネットワークとインターネット接続]アイコンをクリックする。
 - 3 [ネットワーク接続]アイコンをクリックする。
「ネットワーク接続」画面が表示されます。
 - 4 接続先のアイコンを右クリックし、表示されるメニューから[プロパティ]をクリックする。

- 5 契約しているプロバイダから提供された資料に従って設定を確認する。特に、次の点を重点的に確認してください。
- [全般]タブ
「接続の方法」と「電話番号」の設定
 - [ネットワーク]タブ
「呼び出すダイヤルアップサーバーの種類」の設定で「PPP:Windows 95/98/NT4/2000, Internet」が選択されていることと、「この接続は次の項目を使用します」の「インターネット プロトコル(TCP/IP)」がチェックされていることを確認してください。
また、「インターネット プロトコル(TCP/IP)」のプロパティを開き、その設定内容も確認してください。

ご注意

- チェックすべき項目以外はすべてチェックをはずしてください。
- プロバイダから DNSサーバーアドレスを指定されない場合(自動設定)は、[DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する]をクリックしてください。



- プロバイダによっては、同じアクセスポイントでも一般電話回線と ISDN回線で電話番号をわけていることもあります。使用する電話回線にあった電話番号かは、契約したプロバイダにお問い合わせください。
- DNSサーバーアドレス(プライマリ DNSとセカンダリ DNS)を入力し直す場合は、[次の DNSサーバーのアドレスを使う]をクリックしてから、正しいアドレスを入力します。

→ 接続先を作り直してください。

設定などに問題がなかった場合は、次の手順でダイヤルアップ接続アイコンを作り直してから、接続してください。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックする。
「コントロール パネル」画面が表示されます。
- 2 [ネットワークとインターネット接続]アイコンをクリックする。
- 3 [ネットワーク接続]アイコンをクリックする。
「ネットワーク接続」画面が表示されます。
- 4 接続先のアイコンをごみ箱にドラッグアンドドロップする。
ダイヤルアップ接続アイコンを削除するか確認するメッセージが表示されます。
- 5 [はい]をクリックする。
ダイヤルアップ接続アイコンが削除されます。
- 6 「ネットワーク タスク」の[新しい接続を作成する]をクリックする。
「新しい接続ウィザードの開始」画面が表示されます。
- 7 [次へ]をクリックする。
「ネットワーク接続の種類」画面が表示されます。
- 8 [インターネットに接続する]の○をクリックして●にし、[次へ]をクリックする。
「準備」画面が表示されます。

引き続き「接続のための設定をする(一般電話回線の場合)」(89ページ)の手順5～10の操作を行ってください。

インターネット接続ウィザードが終了すると、「ネットワークとダイヤルアップ接続」画面の中に新しいダイヤルアップ接続アイコンができます。このアイコンをダブルクリックして、接続を試してください。

それでも接続できない場合は、接続先のサーバーが停止している可能性があります。時間をおいて再度ダイヤルし直してください。

- NTTの117時報サービスにダイヤルできるか試してください。
「ハイパーターミナル」ソフトウェアで時報にダイヤルできるか試します。ダイヤルできた場合、モデムや回線は正常に動作しているので、接続の設定をもう1度確認してください。
- 1 [スタート]ボタンをクリックして[すべてのプログラム]にポインタを合わせ、[アクセサリ]から[通信]、[ハイパーターミナル]の順にクリックする。
「ハイパーターミナル」ソフトウェアが起動し、「接続の設定」画面が表示されます。
 - 2 「名前」に任意の名前を入力し、[OK]をクリックする。
 - 3 「電話番号」に「117」と入力し、[OK]をクリックする。
「接続」画面が表示されます。
 - 4 [ダイヤル]をクリックする。



音が小さいなどダイヤル音量を変更したい場合は、次の手順に従って操作してください。

- ① [スタート]ボタンをクリックして[コントロールパネル]をクリックする。
「コントロールパネル」画面が表示されます。
- ② [サウンド、音声、およびオーディオ デバイス]をクリックする。
- ③ 画面左側の「関連項目」から、[詳細ボリューム コントロール]をクリックする。
「Volume Control」画面が表示されます。
- ④ PhoneまたはTelephonyの項目でスライダを上下に動かして好みの音量に調節する。
PhoneまたはTelephonyの項目が表示されていない場合は、[オプション]→[プロパティ]→[表示するコントロール]でPhoneまたはTelephonyの項目をチェックして表示してください。

モデムはダイヤルしているが接続できない。(接続の動作(ネゴシエーション)はするが接続できない場合)

- ユーザー名やパスワードを確認してください。
- 1 [スタート]ボタンをクリックして、[コントロールパネル]をクリックする。
「コントロールパネル」画面が表示されます。
 - 2 [ネットワークとインターネット接続]アイコンをクリックする。
 - 3 [インターネット オプション]アイコンをクリックする。
「インターネットのプロパティ」画面が表示されます。
 - 4 [接続]タブをクリックする。
 - 5 「ダイヤルアップと仮想プライベートネットワークの設定」から接続先を選んでクリックし、[設定]をクリックする。
設定画面が表示されます。

6 「ユーザー名」や「パスワード」が正しいか確認する。

ユーザー名やパスワードを忘れてしまった場合は、プロバイダから郵送されてきた資料を確認してください。または、契約したプロバイダにお問い合わせください。



- 「モデムはダイヤルしているが接続できない。(接続の動作(ネゴシエーション)が始まらない場合) (199ページ)の内容もあわせてご覧ください。
- インターネット接続に関して詳しくは、「インターネットを始める」(66ページ)をご覧ください。

→ いったん切断してからかけ直してください。

接続中の動作が長く続き接続が完了しないときは、いったん回線を切断してかけ直します。

高い通信速度で接続する場合、まれに接続に失敗して、接続確認の動作が終わらなくなることがあります。

→ プロバイダのアクセスポイントを変更してください。

内蔵モデムやターミナルアダプタが発信しているのに、ネゴシエーションが始まらない場合は、次のような問題が考えられます。

- 接続先の回線の状態が良くない。
- 接続先の回線が混み合っている。
- 接続先のモデムが不調である。
この場合は、時間帯をずらして再度接続してみるか、プロバイダのアクセスポイントを変更して接続してみてください。

プロバイダのアクセスポイントを変更する

プロバイダのアクセスポイントを変更するには、次の手順に従って操作します。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックする。
「コントロール パネル」画面が表示されます。
- 2 [ネットワークとインターネット接続]アイコンをクリックする。
- 3 [ネットワーク接続]アイコンをクリックする。
「ネットワーク接続」画面が表示されます。
- 4 ダイヤルアップ接続名(チェックシートのダイヤルアップ接続名)のアイコンを右クリックし、表示されるメニューから[プロパティ]をクリックする。
ダイヤルアップ接続のプロパティ画面が表示されます。
- 5 「電話番号」の入力欄に別のアクセスポイントの電話番号を半角の数字で入力する。
- 6 [OK]をクリックする。

通信中にエラーメッセージが表示される。

→ 本機の内蔵モデムはソフトウェアで一部の機能を制御しています。

そのため、インターネットやファックスの通信中に、他のソフトウェアや周辺機器が動作してシステムに負担がかかると、エラーメッセージが表示されることがあります。

このようなときは、他のソフトウェアを終了させるか、周辺機器を取りはずしてから、通信し直してください。


インターネット／電子メール

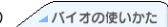
インターネットに接続できない。

ダイヤルアップでインターネットに接続できない。

- ダイヤルアップで接続できないときには、モデムの設定を確認してください。(197ページ)

ADSL接続のネットワーク(LAN)コネクタの接続方法がわからない。

- 本機右側面の  (ネットワーク/LAN)コネクタに、ネットワーク(LAN)ケーブルを接続してください。
ただし、お客様の接続環境によって接続方法が異なる場合がありますので、ADSL接続サービスの申し込み方法、料金、必要な機器とその接続方法について詳しくは、契約するADSL接続サービスを提供している接続業者にお問い合わせください。

詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[接続／拡張]→[ネットワーク(LAN)]→[ネットワーク(LAN)につなぐ]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

ワイヤレスLANでインターネットに接続できない。

- ワイヤレスLANで接続できないときには、ワイヤレスLANの設定を確認してください。(206ページ)

携帯電話を使って接続できない。

- 携帯電話や接続アダプタの設定を確認してください。
お使いの携帯電話や接続アダプタに付属の取扱説明書をご覧ください。
- 所在地情報を確認してください。
 - 1 [スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックする。
「コントロール パネル」画面が表示されます。
 - 2 [プリンタとその他のハードウェア]アイコンをクリックする。
 - 3 [電話とモデムのオプション]アイコンをクリックする。
「電話とモデムのオプション」画面が表示されます。
 - 4 設定されている所在地をクリックして選び、[編集]をクリックする。
「所在地の編集」画面が表示されます。
 - 5 [全般]タブの「市外局番」に何も入力されていないときは、「000」など実在しない番号を入力する。

インターネット利用時のトラブル

接続するが通信速度が遅い。

- 回線が込み合っている場合や回線の品質が悪い場合は、エラーが発生しないよう自動的に通信速度を落とします。

通信中にエラーメッセージが表示される。

- 本機の内蔵モデムはソフトウェアで一部の機能を制御しています。そのため、インターネットやファックスの通信中に、他のソフトウェアや周辺機器が動作してシステムに負担がかかると、エラーメッセージが表示されることがあります。
- このようなときは、他のソフトウェアを終了させるか、周辺機器を取りはずしてから、通信し直してください。

ホームページを見ることができない。

- webブラウザの設定を確認してください。
- プロバイダによっては、webブラウザの設定が必要な場合があります。契約したプロバイダから送られてくる資料などをご覧ください、設定を確認してください。
- 見たいホームページのURLを確認してください。
- アドレスバーに表示されているURLが正しく入力されているか確認します。URLは半角英数字で入力してください。

ホームページが文字化けしている。

- 正しい表示文字コードを選んでください。
- 1 「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを起動後、画面上部の[表示]をクリックする。
 - 2 表示されるメニューの[エンコード]にポインタをあわせた後、[自動選択]のチェックをはずす。
 - 3 再び画面上部の[表示]をクリックし、表示されるメニューの[エンコード]にポインタをあわせた後、[日本語(自動選択)]、[日本語(シフトJIS)]、[日本語(EUC)]のそれぞれをクリックして試す。

ご注意

ホームページによっては、文字化けが直らないことがあります。

ホームページの文字サイズを大きくしたい。

- 文字サイズを変更してください。
- 1 「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを起動後、画面上部の[表示]をクリックする。
 - 2 表示されるメニューの[文字サイズ]にポインタをあわせ、[大]または[最大]をクリックする。

電子メール利用時のトラブル

電子メールをやりとりできない。

- 「Outlook Express」ソフトウェアをお使いの場合は、次の手順に従って操作し、電子メールソフトウェアの設定を確認してください。
- 1 「Outlook Express」ソフトウェア起動後、画面上部の[ツール]をクリックし、表示されるメニューから[アカウント]をクリックする。
「インターネット アカウント」画面が表示されます。
 - 2 [メール]タブをクリックする。
 - 3 お使いのアカウントをクリックして選び、[プロパティ]をクリックする。
 - 4 各タブをクリックし、各項目が正しく入力されているか確認する。

ご注意

文字は半角文字で入力してください。全角で入力してであると、電子メールソフトウェアが正しく設定されません。

- 「Outlook Express」以外の電子メールソフトウェアをお使いの場合は、それぞれのソフトウェアの取扱説明書またはヘルプをご覧ください。正しく設定されているか確認してください。



電子メール送受信について詳しくは、「インターネットを始める」(66ページ)をご覧ください。

電子メールが文字化けしている。

- 受信メールに半角のカタカナや特殊な記号が使われていると、文字化けの原因になります。
メールの送信元に、半角のカタカナや特殊記号を使っていないか確認してください。
- 「Outlook Express」ソフトウェアで送ったメールが文字化けしているときは、設定を確認してください。
購入時には、HTMLメールを送るように設定されているため、送信先の電子メールソフトウェアがHTMLメールに対応していない場合には、文字化けすることがあります。
次の手順で、メールの送信形式、エンコード方式の設定を確認してください。
- 1 「Outlook Express」ソフトウェアの起動後、画面上部の[ツール]をクリックし、表示されるメニューから[オプション]をクリックする。
 - 2 [送信]タブをクリックする。
 - 3 「メールの送信形式」から[テキスト形式]をクリックして選択し、[テキスト形式の設定]をクリックする。
「テキスト形式の設定」画面が表示されます。
 - 4 設定画面で次のように設定し、[OK]をクリックする。
 - メッセージ形式:MIME
 - エンコード形式:なし
 - 8ビットの文字をヘッダーに使用する:チェックなし
 - 5 「ニュース送信の形式」から[テキスト形式]をクリックして選択し、[テキスト形式の設定]をクリックする。
 - 6 設定画面で次のように設定し、[OK]をクリックする。
 - メッセージ形式:MIME
 - エンコード形式:なし
 - 8ビットの文字をヘッダーに使用する:チェックなし
 - 7 [OK]をクリックする。

電子メールに添付されているファイルが開けない。

- 電子メールに添付されているファイルは、ファイルを作成したソフトウェアが本機にインストールされていないと開くことはできません。
例えば、「Microsoft Word」や「Microsoft Excel」で作成したファイルは、各ソフトウェアがインストールされていないと開くことはできません。

- 「次の添付ファイルは安全でないため…」などのメッセージが表示され、受信したメールに添付されたファイルを開けない場合は、次の設定を行ってください。

ご注意

この操作を行うと、ウイルスに感染している可能性があるファイルも受信されますので、ご注意ください。

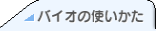



- 1 「Outlook Express」ソフトウェアの起動後、画面上部の[ツール]をクリックし、表示されるメニューから[オプション]をクリックする。
- 2 [セキュリティ]タブをクリックする。
- 3 「ウイルス防止」の[ウイルスの可能性のある添付ファイルを保存したり開いたりしない]のチェックボックスをクリックして、チェックをはずす。
- 4 [OK]をクリックする。

ネットワークに接続すると、通知領域に「Smart Networkはネットワークの切換えを感知しました。…」というメッセージが表示される。







- 「Smart Network」ソフトウェアが起動していると、ネットワークへの接続に応じてメッセージが表示されます。「Smart Network」ソフトウェアについて詳しくは、「Smart Network」のヘルプをご覧ください。




ワイヤレスLAN

ワイヤレスLANが使えない。


- WIRELESSスイッチが「ON」になっているか確認してください。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[ワイヤレス機能]→[ワイヤレスLAN]→[ワイヤレスLANで通信する]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。
- デスクトップ画面右下の通知領域にある 、 または  などの「ワイヤレススイッチ」アイコンをダブルクリックして「ワイヤレス機能の選択」画面を表示し、「Wireless LAN」が選択されているか確認してください。

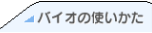
ワイヤレス機能が選択できない。

- デスクトップ画面右下の通知領域に 、 または  などの「ワイヤレススイッチ」アイコンが表示されていることを確認してください。アイコンが表示されていないときは、ワイヤレス機器の選択ができません。次の手順で操作すると、デスクトップ画面右下の通知領域に 、 または  などの「ワイヤレススイッチ」アイコンが表示されます。
- 1 [スタート]ボタンをクリックして、[マイ コンピュータ]をクリックする。
 - 2 [ローカルディスク (C:)]→[Program Files]→[Sony]→[Wireless Switch Setting Utility]→[Switcher]の順にダブルクリックする。

- ワイヤレス機能を無効に設定した後、再起動すると、「ワイヤレス機能の選択」画面に5 GHzの選択表示がされないことがあります。この場合は、以下の操作でワイヤレス機能を有効にし、ワイヤレススイッチャーを再起動し、5 GHzの表示がされるようにしてから5 GHzを選択してください。
(PCG-TR3/B・ソニースタイルモデル)
- 1 [スタート]ボタンをクリックし、[コントロールパネル]→[ネットワークとインターネット接続]→[ネットワーク接続]の順にクリックする。
- 2 [ワイヤレス ネットワーク接続]アイコンを右クリックして[有効にする]を選ぶ。
- 3 通知領域の 、 または  などの「ワイヤレススイッチ」アイコンを右クリックし、[終了]を選ぶ。
- 4 [スタート]ボタンをクリックして、[マイ コンピュータ]をクリックする。
- 5 [ローカルディスク (C:)]→[Program Files]→[Sony]→[Wireless Switch Setting Utility]→[Switcher]の順にダブルクリックする。

本機とワイヤレスLANアクセスポイントの通信ができない。

- 上記の「ワイヤレスLANが使えない。」の項目を確認してください。
- ワイヤレスLANアクセスポイントの電源が入っているか確認してください。
- ワイヤレスLANアクセスポイントの設定を確認してください。
詳しくは、ワイヤレスLANアクセスポイントに付属の取扱説明書や契約されているプロバイダの設定方法のしおりなどをご覧ください。
- 本機とワイヤレスLANアクセスポイントが接続されているか確認してください。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[ワイヤレス機能]→[ワイヤレスLAN]→[ワイヤレスLANで通信する]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。
- 通信機器間の通信可能な距離は、実際の通信機器間の距離や障害物、機器構成、電波状況、壁の有無・素材など周囲の環境、使用するソフトウェアなどにより変化します。
本機の設置場所を移動するか通信機器間の距離を近づけてください。
- 次の手順に従って[ワイヤレス ネットワーク]タブの「利用できるネットワーク」にワイヤレスLANアクセスポイントが表示されているか確認してください。
 - 1 [スタート]ボタンをクリックして[コントロールパネル]をクリックする。
 - 2 [ネットワークとインターネット接続]アイコンをクリックする。
 - 3 [ネットワーク接続]アイコンをクリックする。
「ネットワーク接続」画面が表示されます。
 - 4 [ワイヤレス ネットワーク接続]アイコンを右クリックし、[プロパティ]をクリックする。
「ワイヤレス ネットワーク接続のプロパティ」画面が表示されます。
 - 5 [ワイヤレス ネットワーク]タブをクリックし、「利用できるネットワーク」にワイヤレスLANアクセスポイントが表示されているか確認する。

- 入力したネットワーク キーが間違えていることがあります。
セキュリティ上、1度設定したネットワーク キーは「*」で表示され、確認することはできません。再度入力し直してください。
- 1 [スタート]ボタンをクリックして[コントロール パネル]をクリックする。
 - 2 [ネットワークとインターネット接続]→[ネットワーク接続]の順にクリックする。
 - 3 [ワイヤレス ネットワーク接続]アイコンを右クリックし、[プロパティ]をクリックする。
 - 4 [ワイヤレス ネットワーク]タブをクリックする。
 - 5 「優先するネットワーク」のリストから確認したいものを選び、[プロパティ]をクリックする。
 - 6 「ネットワーク キー」を入力し直し、[OK]をクリックする。
 - 7 「ワイヤレス ネットワーク接続のプロパティ」画面で[OK]をクリックし、画面を閉じる。
- ワイヤレス機能の設定が、使用しているワイヤレス LAN アクセスポイントのワイヤレス LAN 機能と同じ設定になっているか確認してください。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[ワイヤレス機能]→[ワイヤレス LAN]→[ワイヤレス LAN で通信する]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。
ワイヤレス機能の設定で2.4 GHzワイヤレス LANのみを有効にしている場合は、5 GHzワイヤレス LANのワイヤレス LAN アクセスポイントには接続できません。
また、5 GHzワイヤレス LANのみを有効にしている場合は、2.4 GHzワイヤレス LANのワイヤレス LAN アクセスポイントには接続できません。
(PCG-TR3/B・ソニースタイルモデル)
- 「ワイヤレス ネットワーク接続」がネットワークブリッジとして形成されている場合は、ワイヤレス LAN を使って通信することができません。
次の手順に従って接続を確認してください。
- 1 [スタート]ボタンをクリックして[コントロール パネル]をクリックする。
 - 2 [ネットワークとインターネット接続]アイコンをクリックする。
 - 3 [ネットワーク接続]アイコンをクリックする。
「ネットワーク接続」画面が表示されます。
「ネットワークブリッジ」の項目に「ワイヤレス ネットワーク接続」アイコンが表示されている場合は、ネットワークブリッジが形成されています。
 - 4 [ワイヤレス ネットワーク接続]アイコンを右クリックし、[ブリッジから削除]をクリックする。
ネットワークブリッジが削除されます。
- インターネットからのアクセスを制限する設定がされている場合は、通信できない場合があります。
次の手順に従って接続を変更してください。
- 1 [スタート]ボタンをクリックして[コントロール パネル]をクリックする。
 - 2 [ネットワークとインターネット接続]アイコンをクリックする。
 - 3 [ネットワーク接続]アイコンをクリックする。
「ネットワーク接続」画面が表示されます。

- 4 [ワイヤレス ネットワーク接続]アイコンを右クリックし、[プロパティ]をクリックする。
「ワイヤレス ネットワーク接続のプロパティ」画面が表示されます。
- 5 [詳細設定]タブをクリックする。
- 6 「インターネット 接続ファイアウォール」欄で「インターネットからのこのコンピュータへのアクセスを制限したり防いだりして、コンピュータとネットワークを保護する」のチェックをはずし、[OK]をクリックする。
確認画面が表示されます。
- 7 [はい]をクリックする。

インターネットにアクセスできない。

- 前記の「ワイヤレス LANが使えない。」の項目を確認してください。
- 前記の「本機とワイヤレス LANアクセスポイントの通信ができない。」の項目を確認してください。

データ転送速度が遅い。

- データ転送速度は、実際の通信機器間の距離や障害物、機器構成、電波状況、壁の有無・素材など周辺の環境、使用するソフトウェアなどにより変化します。
本機の設置場所を移動するか通信機器間の距離を近づけてください。
- 他のワイヤレス LANアクセスポイントと混信している場合は、ワイヤレス LANアクセスポイントで無線チャンネルの設定をしてください。
詳しくは、ワイヤレス LANアクセスポイントに付属の取扱説明書をご覧ください。
- ワイヤレス LANアクセスポイントへのアクセスが集中している可能性があります。その場合は、時間を置いてからもう1度アクセスしてください。
- IEEE802.11aは高レートのストリーム転送に適していますが、実際の通信機器間の距離や周囲の壁などの障害物に影響を受けやすい性質をもっています。本機の設置場所を移動するか、ワイヤレス LANアクセスポイントとの距離を近づけてお使いください。(PCG-TR3/B・ソニースタイルモデル)
- IEEE802.11bのワイヤレス LANアクセスポイントに接続している場合、IEEE802.11bのワイヤレス LANアクセスポイント経由の最大実効速度は約4～5 Mbpsになります。(これはIEEE802.11b準拠の製品全般にいえることです)
従って、MPEG2のような高レートのストリーム転送には実効速度が充分でない場合があります。
- IEEE802.11g製品は、普及が進んでいる IEEE802.11b製品との通信は可能ですが、両者が混在した状態では高速通信ができず、約半分の伝送速度になる場合があります。
- 1台のパソコンでBluetooth機能とワイヤレス機能を同時に使用すると、通信速度などに影響を及ぼす場合があります。

IEEE802.11bのワイヤレスLANの最大通信速度が11 MbpsとあるがMPEG2のデータを転送するととぎれる。

- ワイヤレスLANアクセスポイント経由の最大実効速度は約4～5 Mbpsになります。(これはIEEE802.11b準拠の製品全般にいえることです。)従って、MPEG2のような高レートのストリーム転送には実効速度が充分でない場合があります。

ネットワーク上の他のコンピュータが表示されない。

- Windowsを起動するときのパスワード入力を確認してください。Windowsを起動したときに要求されるユーザー名とパスワードを入力した上でログオンしてください。
- Windowsのネットワーク設定を確認してください。詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。
- 他のコンピュータがワイヤレスLANネットワークの中に存在しない場合は表示されません。

コンピュータどうし(Ad hocモード)で通信できない。

- ワイヤレスLANアクセスポイントとの通信設定が行われていると、Ad hocモードでの通信が行えないことがあります。この場合には、以下の設定を行ってください。
 - 1 [スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックする。
 - 2 [ネットワークとインターネット接続]→[ネットワーク接続]の順にクリックする。
 - 3 [ワイヤレス ネットワーク接続]アイコンを右クリックし、[プロパティ]をクリックする。
 - 4 [ワイヤレス ネットワーク]タブをクリックする。
 - 5 [詳細設定]をクリックし、「アクセスするネットワーク」で[コンピュータ相互(ad hoc)のネットワークのみ]を選んでから、[閉じる]をクリックする。
 - 6 [OK]をクリックする。

内蔵ワイヤレスLANの物理アドレス(MACアドレス)を確認したい。







- 本機の内蔵ワイヤレスLANの物理アドレス(MACアドレス)を確認してください。
 - 1 [スタート]ボタンをクリックして[すべてのプログラム]→[アクセサリ]の順にポインタを合わせ、[コマンド プロンプト]をクリックする。「コマンド プロンプト」画面が表示されます。
 - 2 「ipconfig /all」と入力し、Enterキーを押す。
 - 3 「Ethernet adapter ワイヤレス ネットワーク接続」の「Physical Address」欄にて、物理アドレス(MACアドレス)を確認する。

Bluetooth機能

Bluetooth機能が使えない。

-  Bluetooth ランプが点灯していることを確認してください。
-  Bluetooth ランプが消灯している場合は、Bluetooth機能が使えません。WIRELESSスイッチを「ON」にあわせ、 Bluetooth ランプがブルーに点灯してからお使いください。
- Bluetooth機能が利用できる設定になっているか確認してください。
デスクトップ画面右下の通知領域にある 、 または  などの「ワイヤレススイッチ」アイコンをダブルクリックして「ワイヤレス機能の選択」画面を表示し、「Bluetooth機能を利用する」のチェックボックスにチェックが入っているか確認してください。

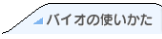
ワイヤレス機能が選択できない。

- デスクトップ画面右下の通知領域に 、 または  などの「ワイヤレススイッチ」アイコンが表示されていることを確認してください。
アイコンが表示されていないときは、ワイヤレス機器の選択ができません。
次の手順で操作すると、デスクトップ画面右下の通知領域に 、 または  などの「ワイヤレススイッチ」アイコンが表示されます。
 - 1 [スタート] ボタンをクリックして、[マイ コンピュータ] をクリックする。
 - 2 [ローカルディスク (C:)] → [Program Files] → [Sony] → [Wireless Switch Setting Utility] → [Switcher] の順にダブルクリックする。

Bluetooth機能で通信できない。


- 下記の「通信相手の機器が表示されない。」の項目を確認してください。
- 接続したい機器との認証を確認してください。
本機はセキュリティ保護のため、認証されていない機器間の接続を拒否するように設定されています。接続するには、接続する機器ごとに認証が必要になります。
ソニーの Bluetooth 商品との接続情報や接続手順などについては“Sony Bluetooth プロダクトインフォメーション” (<http://www.sony.jp/products/bluetooth/select/index.html>) をご覧ください。

通信相手の機器が表示されない。



- 本機の Bluetooth アンテナ部が覆われていないか確認してください。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある [ワイヤレス機能] → [Bluetooth機能] → [Bluetooth機能で通信する] の順にクリックして表示される情報をご覧ください。
- 通信機器間の距離を 10 m 以内に近づけてください。本機と通信相手の機器間の距離が 10 m 以上ある場合は通信できません。
本機と通信相手の機器間の距離が 10 m 以内でも、機器間の障害物や電波状況、壁の有無・素材など周囲の環境、使用するソフトウェアなどによって、通信できない場合があります。本機の設置場所を移動するか、通信機器間の距離をさらに近づけてください。

- 通信先の Bluetooth機能がオンになっているか、または通信先の機器が省電力動作モードになっていないか確認してください。
- 通信先の Bluetooth対応機器が、Bluetooth機能を使用できる状態になっているか確認してください。
詳しくは、通信先の Bluetooth対応機器の取扱説明書をご覧ください。
- 通信相手が他の機器と接続している場合は、通信相手として表示されなかったり、本機と通信できない場合があります。

データ転送速度が遅い。

- 本機の Bluetoothアンテナ部が覆われていないか確認してください。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある [ワイヤレス機能] → [Bluetooth機能] → [Bluetooth機能で通信する] の順にクリックして表示される情報をご覧ください。
- 本機と通信相手の機器間の距離や障害物、機器構成、電波状況、使用するソフトウェアなどによって、データ転送速度は変化します。本機の設置場所を移動するか、通信機器間の距離を近づけてください。
- 1台のバイオで Bluetooth機能とワイヤレス機能を同時に使用すると、通信速度などに影響を及ぼす場合があります。

Bluetooth機能を終了できない。

- WIRELESSスイッチを「OFF」にあわせ、 Bluetooth[™] ランプが消えることを確認してください。
それでも終了できない場合は、一度「電源を切る」(39ページ)の手順に従って電源を切ってください。それでも本機の電源が切れない場合は、本機の  (パワー) ボタンを4秒以上押し続けたままにして、本機の電源を切ります。

通信先の Bluetooth対応機器が対応しているサービスで接続できない。

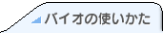
- 本機が対応しているサービスでのみ接続できます。
詳しくは、「BlueSpace NE」ソフトウェアのヘルプおよび通信先の Bluetooth対応機器の取扱説明書をご覧ください。

他のバイオとファイル送信ができない。

- 「BlueSpace Version 2.1.1」より前のバージョンがインストールされたコンピュータとは接続できない場合があります。このときは、BlueSpaceをバージョンアップすることにより問題が解決します。
ただし、次の機種では以下の制限があります。
PCG-SR9G/KおよびPCG-C1VRX/Kから「BlueSpace NE」への接続は行えません。また、PCG-SR9M/KおよびPCG-C1VSX/Kから「BlueSpace NE」へ接続するには、OS(オペレーティングシステム)をWindows XPにアップグレードした上で、BlueSpaceとBluetoothドライバをアップデートする必要があります。
アップデートについて詳しくは、VAIOカスタマーリンクのホームページ (<http://vcl.vaio.sony.co.jp/>) をご覧ください。

スピーカー／ヘッドホン

スピーカーやヘッドホンから音が出ない。

- 音声出力が「切」になっている場合があります。
Fnキーを押しながらF3キーを押して、「消音」画面が表示された場合は、もう1度Fnキーを押しながらF3キーを押してください。(53ページ)
- 音量設定が最小になっている場合があります。
Fnキーを押しながら、F4キーを押したあと、↑または→キーを押して音量を上げてください。(53ページ)
また、VOL(ボリューム)ボタンの[+]を押しても、音量を上げることができません。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[ディスプレイ/音]→[音]→[音量を調節する]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。
- Windowsの音量が「ミュート」になっていないか確認してください。
 - 1 [スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックする。
 - 2 [サウンド、音声、およびオーディオ デバイス]アイコンをクリックする。
 - 3 [サウンドとオーディオ デバイス]アイコンをクリックする。
 - 4 [音量]タブをクリックする。
 - 5 「ミュート」にチェックがついていないか確認する。
チェックがついている場合は、チェックボックスをクリックしてチェックをはずします。
- 使用するソフトウェアの再生音量を確認してください。
- 外部スピーカーや付属のヘッドホンをお使いの場合は、本機とスピーカーやヘッドホンが正しく接続されているか確認してください。
- 外部スピーカーの音量設定が最小になっている場合があります。
音量つまみや音量ダイヤルなどで音量を上げてください。詳しくは、スピーカーに付属の取扱説明書をご覧ください。
- 本機の内蔵スピーカーから音を出す場合に、(ヘッドホン)コネクタにケーブルをつないでいるときは、ケーブルをはずしてください。

Fnキーを押しながらF3キーまたはF4キーを押しても、何も表示されない。

- 次の手順で「デバイス マネージャ」画面を表示し、サウンドデバイスを使用できるように設定してください。
 - 1 [スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックする。
 - 2 [パフォーマンスとメンテナンス]アイコンをクリックする。
 - 3 [システム]アイコンをクリックする。
 - 4 [ハードウェア]タブの[デバイス マネージャ]をクリックする。

マイク

マイクが使えない。

- 録音デバイスとしてマイクが選択されていない可能性があります。次の手順に従って選択してください。
 - 1 [スタート]ボタンをクリックして[コントロール パネル]をクリックする。「コントロール パネル」画面が表示されます。
 - 2 [サウンド、音声、およびオーディオ デバイス]をクリックする。
 - 3 画面左側の「関連項目」から、[詳細ボリューム コントロール]をクリックする。「Volume Control」画面が表示されます。
 - 4 [オプション]メニューから[プロパティ]を選ぶ。
 - 5 「音量の調整」の[録音]と「表示するコントロール」のマイクの項目をチェックし、[OK]をクリックする。
 - 6 マイクの項目の[選択]がチェックされていることを確認する。チェックされていないときは、クリックしてチェックします。
 - 7 スライダを上下に動かして好みの音量に調節する。
- 「Windows Media Player」などの音声を扱うソフトウェアと同時に動かししている場合は、それらのソフトウェアを終了させてください。
- プラグインパワー方式に対応したマイクをご使用ください。

音声を扱うソフトウェアでエラーメッセージが表示された。

- 他の音声を扱うソフトウェアと同時に動かしている場合は、それらのソフトウェアを終了させてください。

マイクの音が大きいの、または、小さい。

- 次の手順に従って音量を調節してください。
 - 1 [スタート]ボタンをクリックして[コントロール パネル]をクリックする。「コントロール パネル」画面が表示されます。
 - 2 [サウンド、音声、およびオーディオ デバイス]をクリックする。
 - 3 画面左側の「関連項目」から、[詳細ボリューム コントロール]をクリックする。「Volume Control」画面が表示されます。
 - 4 [オプション]メニューから[プロパティ]を選ぶ。
 - 5 「音量の調整」の[録音]と「表示するコントロール」のマイクの項目をチェックし、[OK]をクリックする。
 - 6 マイクの項目の[選択]がチェックされていることを確認する。チェックされていないときは、クリックしてチェックします。
 - 7 スライダを上下に動かして好みの音量に調節する。

プリンタ

プリンタで印刷できない。

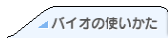
- 本機とプリンタ、ACアダプタと電源コード、電源コードとコンセントがそれぞれ正しく接続されているか確認し、本機を再起動してください。
- Windows XP対応でないプリンタドライバではお使いになれません。お使いのプリンタの製造元からWindows XPに対応したドライバを入手してお使いいただくか、プリンタの製造元へお問い合わせください。

- 印刷先のプリンタポートが正しく設定されているか確認してください。詳しくは、お使いのプリンタの取扱説明書をご覧くださいか、プリンタの製造元にお問い合わせください。

DV機器 / i.LINK機器

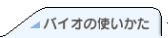
DV機器が使用できない。または、「DV機器が接続されていないか、電源が入っていないので、動作しません。」などのメッセージが表示される。

- DV機器の電源が入っているか、またはケーブルが正しく接続されているか確認してください。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の

「バイオの使いかた」タブをクリックし、画面左側にある[接続 / 拡張] → [i.LINK] → [i.LINKでデジタルビデオカメラレコーダーをつなぐ]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

- i.LINKでは、複数の機器を接続して動くように設計されていますが、機器との組み合わせによっては、動作が不安定になることがあります。接続されている機器すべての電源をいったん切り、なるべく不要な機器を取りはずして、ケーブルの接続を確認した後、再度電源を入れてください。

本機と接続した i.LINK対応機器が認識されない。または、「DV機器が接続されていないか、電源が入っていないので、動作しません。」などのメッセージが表示される。

- いったん i.LINKケーブルを抜き、再度接続し直してください。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の 「バイオの使いかた」タブをクリックし、画面左側にある[接続 / 拡張] → [i.LINK] → [i.LINKでデジタルビデオカメラレコーダーをつなぐ]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

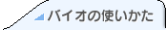
「DVgate Plus」ソフトウェアを使用してテープに録画中、「DV機器への録画に失敗しました。DV機器の電源、接続の状態を確認して操作をやり直してください」というメッセージが表示される。

- DV機器の電源やケーブルが正しく接続されているかどうか確認してください。
- 続けて録画を行っている時、機器が正しく接続されていても、録画できなくなる場合があります。その場合、すべてのソフトウェアを終了してから本機を再起動してください。さらに快適な環境でご使用いただくためには、メモリの増設をおすすめします。(122ページ)

「DVgate Plus」ソフトウェア使用中にフレーム落ちが生じる。

- 使用状況によってはフレーム落ちが生じることがあります。その場合は、メモリの増設をしてください。(122ページ)
- デフラグを行ってください。
- 他のソフトウェアを終了してください。
- スクリーンセーバーなどが動作しないように設定を変更してください。
- 常駐型のディスクユーティリティや、ディスクのアクセスを高速化するユーティリティなどの使用を控えてください。

i.LINK接続したバイオどうしても接続できない。

- お使いの機種によっては、本機とデータのやりとりができない場合があります。
詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[接続／拡張]→[i.LINK]→[i.LINK接続でデータをやりとりする]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。
- i.LINKケーブルをいったん抜いてもう1度挿し直してください。
しばらく待って接続できないときは再起動してください。
- ネットワークの設定によっては、省電力動作モードから復帰後に接続できなくなることがあります。
その場合は、省電力動作モードに入らないようにしてご使用ください。

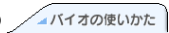
PCカード

PCカードが使えない。

- Windows XP対応でないPCカードは使えないことがあります。
- 以前使用できたPCカードが使用できなくなった場合は、次の手順でドライバの更新を行ってください。
 - 1 [スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックする。
 - 2 [パフォーマンスとメンテナンス]アイコンをクリックする。
 - 3 [システム]アイコンをクリックする。
 - 4 [ハードウェア]タブの[デバイス マネージャ]をクリックする。
 - 5 動作しないPCカードをダブルクリックして、プロパティ画面を表示する。
 - 6 [ドライバ]タブの[ドライバの更新]をクリックする。
- ドライバの更新を行っても使用できない場合は、PCカード製造元にお問い合わせください。

ファン

ファンの音大きい。

- 「Performance Balancer」ソフトウェアの「電源設定」で「お好み設定」を選び、「CPUファン」を「弱」寄りに設定してください。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[電源／バッテリー／省電力]→[省電力]→[簡単な設定で消費電力を節約する(「Performance Balancer」ソフトウェアを使う)]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

ファンが回らない。

- CPUの発熱に応じて回転数を制御するため、電源が入っているときでもファンが回らない場合があります。また、ファンが回っていても回転音が静かで聞こえない場合があります。

何も操作していないのにファンから音がする。

- 本機に搭載されている冷却ファンは、本体内の温度の上昇にあわせて回転数を調節します。何も操作していないときでも、CPUが何らかの処理を行っている場合などに、ファンの回転数が上昇することがあります。これは正常な動作であり、故障ではありません。

パスワード

「Sony Notebook Setup」ソフトウェアで設定した起動時のパスワードを忘れてしまった。

- パスワードを忘れてしまったときは、修理(有償)が必要となります。
VAIOカスタマーリンクにご連絡ください。

ハードディスク

ハードディスクの空き容量を知りたい。

- 以下の操作を行って確認してください。
 - 1 [スタート]ボタンをクリックして、[マイ コンピュータ]をクリックする。
 - 2 空き容量を知りたいハードディスクのアイコンを右クリックする。
 - 3 [プロパティ]をクリックする。
ハードディスクのプロパティ画面が表示され、空き容量が確認できます。

ハードディスクの空き容量が少なくなった。

- ディスククリーンアップを行ってください。
Windowsでは、処理を早くするために一時ファイルやバックアップファイルが自動的に作成されるため、ハードディスクの空き容量が減少します。
 - 1 [スタート]ボタンをクリックして、[マイ コンピュータ]をクリックする。
 - 2 [ローカルディスク (C:)]または[ローカルディスク (D:)]のアイコンを右クリックし、[プロパティ]をクリックする。
 - 3 [ディスクのクリーンアップ]をクリックする。
 - 4 ファイルの説明をよく読み、削除するファイルにチェックをつける。
 - 5 [OK]をクリックする。
「これらの操作を実行しますか?」というメッセージが表示されます。
 - 6 [はい]をクリックする。
ディスクのクリーンアップが実行されます。

誤ってハードディスクを初期化してしまった。

- ハードディスク内のリカバリ機能や自作のリカバリディスクを使って、本機をリカバリする必要があります。(130ページ)

ハードディスクから起動できない。

- フロッピーディスクがUSBフロッピーディスクドライブに入っていないか確認してください。
フロッピーディスクが入っているときは、イジェクトボタンを押して取り出し、キーボードのいずれかのキーを押してください。

ハードディスクから異音がする。

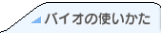
- OSの処理などにより、何も操作していない場合でもハードディスクの読み書きが行われ、動作音がすることがあります。これはCPUの正常な処理であり、故障ではありません。
- ハードディスクからまれに「カチャン」という音がすることがあります。これはハードディスク内にあるヘッドが動作するとき発する音であり、異常ではありません。

プロセッサ(CPU)

「システムのプロパティ」画面でCPUのクロック周波数が正しく表示されない。

- 「システムのプロパティ」画面にはCPUのクロック周波数が低めに表示される場合があります。

パフォーマンスが低下した。

- CPUに負荷のかかるソフトウェアなどを起動すると、パフォーマンスが低下する場合があります。
この場合は、「PowerPanel」ソフトウェアの「CPUファン制御」のレベル設定を上げてください。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の  タブをクリックし、画面左側にある[電源/バッテリー/省電力]→[省電力]→[省電力の設定を変更する]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

メモリ

「システムのプロパティ」画面でメモリの容量が正しく表示されない。

- 本製品はメインメモリとビデオメモリが共用されているため、ビデオメモリ分を差し引いた容量が表示される場合があります。

ソフトウェア

Microsoft Officeがインストールされていない。(Microsoft Excel／Outlook／Wordが見つからない)

- Office Personal 2003 プレインストールモデルをお使いの場合は、工場出荷時の状態では Microsoft Office はすでにインストールされています。Microsoft Office をお使いになる場合は、以下の手順で起動してください。
- 1 [スタート] ボタンをクリックして、[すべてのプログラム] → [Microsoft Office] の順にポインタをあわせる。
Excel／Outlook／Word が表示されます。
- 2 ご使用になるソフトウェアを選択し、クリックする。

Microsoft Office Home Style+ について



[スタート] → [すべてのプログラム] → [Microsoft Office Home Style+ ガイド] の順にクリックして表示される情報もご覧ください。

「Click to DVD」ソフトウェアで作成した DVD ビデオの動画が正常に再生できない。(一部ソニースタイルモデル)

- 「Norton AntiVirus 2003」ソフトウェアをお使いの場合、動画の取り込みが正常に行われない場合があります。正常に取り込みを行うためには、「Norton AntiVirus 2003」ソフトウェアのウイルススキャンの設定を以下の手順に従って変更することをおすすめします。
- 1 [スタート] ボタンをクリックして [すべてのプログラム] → [Norton AntiVirus] の順にポインタをあわせ、[Norton AntiVirus 2003] をクリックする。
「Norton AntiVirus 2003」ソフトウェアが起動します。
- 2 「Norton AntiVirus」画面上部の  (オプション) をクリックする。
「Norton AntiVirus オプション」画面が表示されます。
- 3 「Norton AntiVirus オプション」画面左側の「システム」の [Auto-Protect] → [除外] の順にクリックする。
「Norton AntiVirus オプション」画面右側に「Auto-Protect 除外リスト」が表示されます。
- 4 「Auto-Protect 除外リスト」の「除外する項目」右側の [新規] をクリックする。
除外する項目を追加する画面が表示されます。

ご注意

「Click to DVD」ソフトウェアで保存先のフォルダをご自分で追加した場合は、追加したフォルダも除外リストに追加してください。

- 5 「サブフォルダも含める」が  になっているのを確認し、 をクリックする。
「フォルダの参照」画面が表示されます。
- 6 [ローカルディスク (D:)] → [Click to DVD] の順にダブルクリックする。
- 7 [OK] をクリックする。
手順4で表示された画面に「D: ¥ Click to DVD」と表示されます。

- 8 [OK]をクリックする。
- 9 「除外する項目」に「D:¥ Click to DVD」が追加されていることを確認し、[OK]をクリックする。

ご注意

- 「Click to DVD」ソフトウェアで保存先のフォルダをご自分で追加した場合は、手順4に戻り、追加したフォルダを除外リストに追加してください。
- この設定を行うと、「Click to DVD」ソフトウェアで取り込んだフォルダはウイルスチェックされなくなりますので、これらのフォルダのウイルスチェックを定期的に手動で行ってください。
この設定は、お客様の責任において行ってください。

カスタマー登録

オンラインでカスタマー登録できない。

- カスタマー登録するときは、「コンピュータの管理者」など、管理者権限を持つユーザーとしてログオンする必要があります。
- 本機が電話回線に正しく接続されているか確認してください。(76ページ)
- お使いの電話回線がトーン式ダイヤルかパルス式ダイヤルかを確認し、ダイヤルの種類に合わせて内蔵モデムを設定してください。(76ページ)
お使いの電話回線のダイヤル方法がわからない場合は、電話会社から送られてくる請求内訳表をご覧ください。請求内訳表の中に「プッシュ回線使用料」と記載されている場合は「トーン式ダイヤル」です。回線(基本)使用料のみ記載されている場合は「パルス式ダイヤル」です。電話回線のダイヤル方法について詳しくは、契約している電話会社へお問い合わせください。
- ISDN回線をお使いの場合は、「ISDNダイヤルアップルータ」や「ターミナルアダプタ」を使って接続してください。(80ページ)
- ターミナルアダプタ、携帯電話、PHSなど、お使いになる通信機器によっては、正しく接続できないことがあります。この場合は、本機の□(モジュラジャック)と一般電話回線をつなぎ(76ページ)、通信を行ってください。

「無効な日時が入力されています。」と表示され、オンラインカスタマー登録ができない。

- 日時が正しく設定されているか確認してください。
 - 1 [スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]→[日付、時刻、地域と言語のオプション]→[日付と時刻]の順にクリックする。
「日付と時刻のプロパティ」が表示されます。
 - 2 [日付と時刻]タブをクリックして、「日付」と「時刻」を現在の日時に合わせる。
 - 3 [OK]をクリックする。
変更した日時の設定が有効になります。

索引

【ア行】

インターネット	66,203
ウイルス	117
液晶ディスプレイ	21,141,187
オンラインカスタマー登録	40,220

【カ行】

拡大ボタン	24,58,186
カスタマー登録	40,220
カメラランプ	24
キートップを取り付ける	182
キーボード	21,50,179
ショートカット	53
キャプチャボタン	24,56
吸気口	28
休止状態	34,54,176,178,187
クリック	49
ダブルクリック	49
右クリック	49
結露	141
コンピュータウイルス	117

【サ行】

サイバーサポート	6
省電力動作モード	178
スクロール	49
スタンバイ	34,178,187,53
スピーカー	24,53,213
セキュリティ	117
ソフトウェア	219
不正コピー禁止について	147
付属ソフトウェア	157

【タ行】

ダイヤルアップ接続	89,99,200
タッチパッド	21,48,179
クリックする	49
スクロールする	49
ダブルクリックする	49
使う	48
ドラッグアンドドロップする	49
ドラッグする	49
左ボタン	21,48
右クリックする	49
右ボタン	21,48
ダブルクリック	49

ディスク	
お手入れ	148
取り扱いについて	144
ディスプレイパネルを開く	32
テレホンコード	78,197
電源	173
入れる	30
切る	39
コード	19,31
電子メール	108,203
トーン式ダイヤル	43,86
ドライブ	
アクセスランプ	23
イジェクトボタン	23
マニュアルイジェクト穴	23
ドラッグ	49
ドラッグアンドドロップ	49

【ナ行】

内蔵カメラ	24,56,145,149,194
内蔵スピーカー	24,53,213
内蔵マイク	23,214
ネットワーク(LAN)コネクタ	25

【ハ行】

パーティションサイズを変更する	137
ハードディスク	217
アクセスランプ	22
データ消去について	147
取り扱いについて	142
バックアップをとる	142
排気口	26
パスワード	217
バッテリー	19,34,146
コネクタ	27
ランプ	22
パルス式ダイヤル	43,86
パワーボタン	21,33
パワーランプ	22,33
左ボタン	21,48
ファン	216
付属ソフトウェア	157
プリンタ	214
プロセッサ	151,218
フロッピーディスク	193
取り扱いについて	142
ヘッドホン	19,53,213
コネクタ	25
ポインタ	35,48,179
ボリュームボタン	24,58,213

【マ行】

マイク	23,214
コネクタ	25
右クリック	49
右ボタン	21,48
ミラープレート	24,56,145,149,195
メモリ	218
増設する	122
モジュールを取り付ける	122
モジュールを取りはずす	125
メモリスティック	193
アクセスランプ	22
スロット	26
取り扱いについて	143
文字入力	184
モジュラジャック	25,77,78
モデム	70,77,197
モニタコネクタ	26

【ラ行】

リカバリ	127
ディスクを作成する	134
リカバリ領域を削除する	138
リカバリ領域を作成する	140
リセットスイッチ	28,173,174,175
リリースレバー	28
ロックレバー	28,30

【ワ行】

ワイヤレスLAN	62,206
取り扱いについて	144
WIRELESSスイッチ	22,60,206,211
WIRELESS LAN ランプ	22

【A】

ACアダプタ	19,31,146,156
AC電源	31

【B】

Bluetooth機能	63
取り扱いについて	144
Bluetoothランプ	22

【C】

Caps Lockキー	52,176
Caps Lockランプ	23,52,176,181,184
CAPTURE ボタン	24,56
CDディスク	189
お手入れ	148
取り扱いについて	144
CD-RW/DVD-ROM 一体型ドライブ	23

【D】

DC INコネクタ	27,31
DVDディスク	189
お手入れ	148
取り扱いについて	144
DVD-RWドライブ	23

【F】

Fnキー	52,53
------------	-------

【I】

IDラベル	23,150,171
i.LINK	215
コネクタ	26

【L】

LCD/Videoスタンバイ	187
----------------------	-----

【M】

MOTION EYE	24,56,145,149,194
------------------	-------------------

【N】

Num Lkキー	51
Num Lockランプ	23,51,176,181,184

【P】

PCカード	216
イジェクトボタン	25
スロット	25,145
取り扱いについて	145

【R】

RELEASEレバー	28
------------------	----

【S】

Scroll Lockランプ	23,54
Sony Notebook Setup	125

【U】

USBコネクタ	25,26
---------------	-------

【V】


VOLボタン	24,58,213
--------------	-----------

【W】

Windows	35,130,133,176
Windowsキー	52
WIRELESSスイッチ	22,60,206,211
WIRELESS LAN ランプ	22

商標について

-  はソニー株式会社の商標です。
- “MagicGate Memory Stick” (“マジックゲートメモリースティック”)および “Memory Stick” (“メモリースティック”)、、、**MEMORY STICK PRO**、**MEMORY STICK DUO**、“MagicGate” (“マジックゲート”)、**MAGICGATE**、OpenMG、**OpenMG** はソニー株式会社の商標です。
- i.LINKは、IEEE1394-1995とIEEE1394a-2000を示す呼称です。i.LINKとi.LINKロゴ“”はソニー株式会社の商標です。
- BluetoothワードマークとロゴはBluetooth SIG, Inc.の所有であり、ソニーはライセンスに基づきこのマークを使用しています。他のトレードマークおよびトレード名称については、個々の所有者に帰属するものとします。
- Copyright 2001-2002 Sony Communication Network Corporation
- 「Webpocket」はソニー株式会社の商標です。
- "SBM/Super Bit Mapping" is a Trademark of Sony Corp.
- Equaliser for VAIO from Sony Oxford. Copyright (C) 2003 Sony Business Europe.
- L1 Ultramaximizer, S1 Stereo Imager and Renaissance Bass plug-ins by Waves Ltd.
- Noise Reduction Effector Powered by DigiOn, Inc. Copyright (C) 2003 DigiOn, Inc.
- ASIO Interface Technology by Steinberg Media Technologies AG.
- VST PlugIn Interface Technology by Steinberg Media Technologies AG.
- Digital Music Recognition Technology & MoodLogic for SonicStage Mastering Studio Service provided by MoodLogic, Inc. Copyright (C) 2003.
- Grami
All rights Reserved. Copyright (c) Sony Corporation.
Contains IP3 Technology licensed from Visionarts, Inc.
Portions of this software are based in part on the work of the Independent JPEG Group.
- Intel、Pentium、Celeron、Intel SpeedStepはIntel Corporationの商標または登録商標です。
- Microsoft、MS-DOS、Windows Media、Windows、OutlookおよびBookshelfは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

- IBMおよびPC/AT、PS/2は、米国 International Business Machines Corporationの商標および登録商標です。
- ドルビー、DOLBY、ダブルD記号 、AC-3およびプロロジックはドルビーラボラトリーズの商標です。
- Copyright (C) 1995 - 2003 RealNetworks(TM), Inc.
- QuickTimeおよびQuickTimeロゴは、ライセンスに基づいて使用される商標です。
QuickTimeは、米国およびその他の国々で登録された商標です。
- WinDVDは、InterVideo, Inc.の商標です。
- Recording Technology by Sonic Solutions.
- (c) 2003 Google Inc. All rights reserved.
- 2003 AMERICA ONLINE. INC. All Rights Reserved.
- @niftyはニフティ株式会社の商標です。
- BIGLOBEは日本電気株式会社の登録商標です。
- DIONはKDDI株式会社の登録商標です。
- 「ホットスポット」はNTTコミュニケーションズ株式会社の登録商標です。
- OCNは、NTTコミュニケーションズ株式会社の商標です。
- ODNは日本テレコム株式会社の商標です。
- 「ぶらら」は株式会社ぶららネットワークスの登録商標です。
- "Yahoo! BB"はヤフー株式会社およびソフトバンクBB株式会社が提供するADSL接続サービスです。
"BBフォン"はソフトバンクBB株式会社が提供するブロードバンド電話です。
- Copyright (C) 2000-2003 DigiOn Inc. and Easy Systems Japan Ltd. All rights reserved.
Drag'n Dropはイージーシステムズジャパン(株)と(株)デジオンの登録商標です。
- ゼンリン電子地図帳Z[zi:]は、株式会社ゼンリンの登録商標です。
- Copyright(c) 1988-2003 Val Laboratory Corporation All rights reserved
- Adobe、Adobe ReaderはAdobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
- Symantec、Symantecロゴ、Norton AntiVirus、LiveUpdateは、Symantec Corporationの登録商標です。
(C)2003 Symantec Corporation, All Rights Reserved.
- PowerPanelは米国フェニックステクノロジーズの商標です。

- 「ConceptBase」「ConceptBase Search」「CBSearch」は株式会社ジャストシステムの登録商標です。
Portion Copyright 2000 株式会社ジャストシステム
Portion Copyright 1981-1988 Microsoft Corporation
- 「できる」は株式会社インプレスの登録商標です。
- Sun、Sun Microsystems、サンのロゴマーク、JavaおよびすべてのJava関連の商標およびロゴマークは、米国Sun Microsystems, Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Atheros and Atheros Driven are trademarks of Atheros Communications, Inc. The Atheros and Atheros Driven logos are registered trademarks of Atheros Communication, INC.



- その他、本書で登場するシステム名、製品名、サービス名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では(TM)、(R)マークは明記していません。

ソフトウェアをお使いになる前に、必ずお買い上げのコンピュータに添付のソフトウェア使用許諾契約書をご覧ください。



この説明書は、本文に100%古紙再生紙とVOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。

この商品はグリーン購入法における判断基準を満たしています。

国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象商品に関する基準を満たしていると判断します。



国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっております。対象となる製品はコンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク（ロゴ）は参加各国の間で統一されています。

充電式電池の収集・リサイクルについて

リチウムイオン電池は、リサイクルできます。不要になったリチウムイオン電池は、金属部にセロハンテープなどの絶縁テープを貼って充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。



Li-ion

充電式電池の収集・リサイクルおよびリサイクル協力店に関する問い合わせ先：
社団法人電池工業会
ホームページ：<http://www.baj.or.jp>

バイオのマニュアルを活用しよう!



紙のマニュアル

□ 取扱説明書 (本書)

本機を使うための準備など、お使いになるうえで大切な情報を記載しています。

□ バイオで楽しもう!

本機に付属しているソフトウェアの活用法を説明しています。

□ バイオ サービス・サポートのご案内

本機のサービス・サポートについて紹介しています。



画面で見るマニュアル

サイバーサポート (電子マニュアル)

デスクトップ画面上の



をダブルクリック!



サポート情報は
VAIOカスタマーリンクホームページへ
<http://vcl.vaio.sony.co.jp/>

VAIOホームページ

バイオを楽しく使っていただくための情報をご案内します。

<http://www.vaio.sony.co.jp/>

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区区北品川6-7-35

<http://www.sony.co.jp/>

Printed in Japan